

日本風力エネルギー学会 2023(令和 5)年度 事業報告

(自：2023(令和 5)年 4 月 1 日 至：2024(令和 6)年 3 月 31 日)

1. 特記事項

(1) 風力発電の国内外動向

発生以来 4 年が経過しコロナ禍が漸く収束に向かいつつある一方、ウクライナ戦争やパレスチナでの悲惨な戦禍の拡大ばかりでなく、国際情勢がますます不安定化する状況の中で、我が国においては、エネルギーの安定供給わけても国産の再生可能エネルギーの大規模かつ急速な導入確保が更に喫緊の課題となっており、再生可能エネルギーの中でも特にポテンシャルが膨大な洋上風力発電の導入拡大への期待が高まっています。

政府は 2050 年カーボンニュートラル達成に向けた実行計画を策定し、洋上風力についても野心的な導入目標を発表するとともに、2019 年に施行された再生可能エネルギー海域利用法に基づいて順次公募（2020 年 11 月～第 1 ラウンド、2022 年 12 月～第 2 ラウンド、2024 年 1 月～第 3 ラウンド）が行われています。また、2022 年度から低コスト化の術研究開発がスタートし、浮体式実証がいよいよ実行段階に入り、風力エネルギーの利用拡大に結び付くことが期待されています。さらに 2024 年 3 月には、洋上風力発電の設置場所を現行の領海内から排他的経済水域（EEZ）に拡大する再生可能エネルギー海域利用法の改正案が閣議決定され、我が国における洋上風力は着実に進んでいます。

しかしながら国内全ての大型風車メーカーが撤退、風車製造のサプライチェーンも大幅に縮減し、今後風力発電が飛躍的な導入拡大を求められる中で、風力関連産業の育成が国家的急務と言えます。2024 年 3 月に広島/岡山県境の笠岡に JFE エンジニアリングのモノパイル量産工場が竣工。既に稼働中の北九州の日鉄エンジニアリングのジャケット基礎工場、近々に始まる予定の川崎市の東芝の京浜工場での Haliade X ナセル組立など、洋上風力の国内サプライチェーンも立ち上がりつつあります。

日本風力エネルギー学会（JWEA）は、国内風車メーカー・サプライチェーンの復活・拡大と風車メンテナンスに係る産業の育成、その最大の原資たる風力エネルギー利用の基礎・応用に携わる研究者・技術者の確保に向けた人材育成が、風力エネルギー利用技術に関するアカデミーの責務として、取り組むべき喫緊の課題と考えています。JWEA では、風力エネルギーに関する全国の研究・教育機関のネットワーク化を始め、若手・女性の研究者、技術者の育成に向けた取り組みを開始しており、我が国の風力発電導入の更なる加速化に向け、関係各位のご支援をよろしくお願い致します。

(2) 本会の主な活動

2019 年以来 4 年振りに見学会を開催しました（参加者 40 名）。秋田・能代の洋上を含む風力発電所をバスで巡るもので、アンケート調査結果では、殆どの参加者は満足いただき、今後も継続した見学会の開催を望まれる声も多くありました。次年度からも継続して見学会を開催できるよう検討を進めます。

本会の広報や会員の増強を目的として、第 18 回再生可能エネルギー世界展示会&フォーラム（RE2024）、第 12 回国際風力発電展[秋]及び第 13 回国際風力発電展[春]（WIND EXPO 2024）に出展しました。

学会誌「風力エネルギー」に併設されている論文集中に個別の ISSN（国際標準逐次刊行物番号）を取得しました（通巻 148 号から開始）。これによって、オンラインでの閲覧が容易になります。また、今後は論文に対して誰もがインターネットを介して無料でアクセスでき、二次利用しやすくなるようにオープンアクセス化を進めています。

2 つの研究会を立ち上げました。4 月に「ウィンドファームの流れ場制御研究会」、6 月に「垂直軸風車荷重解析技術研究会」を立ち上げ、現在 3 つの研究会が活動しています。

第 45 回風力エネルギー利用シンポジウムはハイブリッド形式で開催し、過去最多となる発表件数と参加者数となりました。また開催期間中に、風力業界の若手と女性の活躍推進を目的として活動をおこなっている「JWEA 若手及び女性活躍推進ワーキング」の初のランチミーティングを開催し、活発な意見交換がおこなわれました。

2015 年に現在のホームページの形に変更されましたが、セキュリティやスマホ対応などの課題がありました。使い勝手を向上させることを含め、ホームページの全面改定を行ないました。

人材データベースを活用し、全国風力エネルギー利用教育研究機関マップをシンポジウムに合わせて改定しました。データベース登録数は 2022 年度から 18 機関増の 74 機関となり、ポスター記載内容も充実させました。また作成したポスターはシンポジウムや Wind Expo 等で掲示した他、学会のサイトにてポスターの PDF ファイルを公開しました。データベースに登録された教育研究機関に対し、シンポジウム参加や入会の勧誘も行いました。

学会員の状況に関して、特別団体会員では新たに 1 社が加わり、24 社となりました。シンポジウムでの発表を契機として個人会員や学生会員の入会が続き、最多時には総会員数が 600 団体/名となりました。

このように、2023 年度はコロナ下での制約から少しずつ解放された環境下で各種活動をおこない、学会活動

を活発化させ、広く会員サービスの向上に努めました。

2. 今後に向けて

本会には、学術的研究を基礎とした諸活動を通じ風力エネルギー利用のための社会的基盤を提供するという公共財的役割が強く求められております。社会貢献・人材育成・学会活動の見地から継続している従来からの取り組みを充実させ、これまでの方針である若手スクールの開設、研究会の活性化、風力エネルギー教材の作成、人材登録制度の活用等についても引き続き取り組みます。また、国内風力発電の導入量拡大と産業活性化のため、より多くの方々に風力に携わっていただけるよう、幅広い分野からの会員増強にも取り組みます。これまで本会会員の多くが工学分野の関係者でしたが、今後は社会科学などの多様な分野からも本会活動への参加をしていただき多様性に富んだ組織を目指すとともに、男女共同参画についても女性理事 2 名誕生を実現しており、引き続き推進します。そして将来にわたり持続的に風力分野を発展させるため、未来を担う若手や学生、子ども達に風力の魅力を伝える活動にも取り組みます。

本会は、風力発電のさらなる導入拡大に貢献するとともに、風力エネルギー分野の一層の発展を目指します。会員各位の一層のご理解、ご援助とご協力をお願いする次第です。

3. 概略報告/総括

(1) 総会、代表委員会、理事会の開催

- ・総会を 5 月 31 日に開催し、2023(令和 5)年度の事業報告、収支報告、監査報告について審議・承認され、また、2024(令和 5)年度の事業計画、収支予算について報告・承認されました。
- ・代表委員会は、5 月 31 日の総会前に開催しました。
- ・理事会は、計 7 回(4 月 17 日、5 月 31 日、7 月 18 日、9 月 19 日、11 月 17 日、1 月 22 日、3 月 15 日)開催し、各種議案を審議しました。

(2) 委員会活動

- ・企画・運営委員会：委員会を 7 回、若手及び女性活躍推進ワーキングを 2 回開催しました。第 45 回風力エネルギー利用シンポジウムは、科学技術館及びオンラインによるハイブリッド開催方式で実施しました。参加登録及び発表者は過去最多でした(詳細は(4)を参照下さい)。シンポジウムでは、若手風力人材ネットワークづくり(ランチセミナー)を開催しました。また、第 18 回再生可能エネルギー世界展示会、第 12 回 WIND EXPO 秋 国際風力発電展及び第 13 回 WIND EXPO 春 国際風力発電展に出展しました。昨年に引き続き、人材登録運営規程に基づき人材データベース登録者をエリア担当者に選定のうえ、全国の教育研究機関の研究実施状況の調査を行いました。調査結果をポスターにして第 45 回風力エネルギー利用シンポジウム及び第 12 回及び第 13 回 WIND EXPO 国際風力発電展に出展しました。また、10 月には秋田洋上風力発電所の見学会を開催しました。
- ・編集委員会：6 回の委員会を開催し、学会誌の特集や論文集の編集方針等について検討しました。2023 年度の委員会は、引き続き 13 名の体制を継続して人材及び内容の充実と多様性の確保と Microsoft Teams を用いた DX 推進により組織・業務プロセスの変革を図りました。学会誌は予定通り 4 回発行し、特集と発行部数は、後述の「学会誌・論文集の発行(第 47 巻)」に記載の通りです。
- ・学術・事業委員会：前年度から引き続き風力エネルギーハンドブック研究会において Wind Energy Handbook(第 3 版)の翻訳を行い、年度末時点で初稿の校正の確認まで終了しました。風車運用寿命延長技術研究会は 2023 年 4 月に、垂直軸風車空力弾性解析技術研究会が 2023 年 5 月にそれぞれ活動を終了しました。2023 年 4 月からウィンドファームの流れ場制御研究会が、同 6 月からは垂直軸風車荷重解析技術研究会が活動開始しました。2024 年 9 月に、ブレード設計・製造・O&M 調査研究会の活動は終了する予定です。
- ・国際・広報委員会：毎月第 1 もしくは第 2 木曜日に日本風力発電協会(JWPA)の国際部会と合同で、計 11 回開催しました。海外団体とは GWEC(世界風力会議)と WWEA(世界風力エネルギー協会)の年次総会への参加と、日本のニュースと統計データの提供を行いました。また、GWEC・欧州風力協会(WindEurope)等の発行した有用な資料は翻訳 WG にて和訳して会員に提供しました。学会誌に「海外トピックス・メルマガニュース」を連載して情報提供しました。GWEC 行事のグローバル・ウインドデイ見学会は 15 回目を開催しました。
- ・表彰委員会：本会規程に基づき、奨励賞(旧称研究奨励賞)、論文賞、優秀発表賞、ポスター賞および功労賞の表彰とともに、長井浩記念賞の表彰を実施しました。また令和 6 年表彰分より、当会が文部大臣表彰候補の推薦団体として登録されたことから、今年度初めて 1 件表彰候補を推薦しましたが、こちらは残念ながら表彰候補に選定されませんでした。2023 年度は、委員会を 5 回、論文委員会と合同で奨励賞の選考委員会を 1 回開催し、各表彰の審査、準備を進めました。各表彰候補の選考過程で顕在化した表彰制度の不備や改良点についても、表彰委員会にて修正案を検討して理事会に提案し、表彰制度の改善に努めました。これに関連し、従来の「研究奨励賞」は「奨励賞」に改称されています。2024 年 1 月に逝去された故吉田理事に対し、

故人の生前の功績に敬意を表し、特別功労賞を授与することを理事会に提案し、承認されました。

- 論文委員会：論文審査に関わる事項や論文賞候補の選考は随時メール審議を開催しています。2023 年度は投稿論文 16 件を審査しました（内 8 件掲載、1 件次年度掲載、4 件審査中、3 件取下げ）。なお、2023 年度は前年度からの審査持ち越し 3 件を含め 12 件の論文を論文集に掲載しました。また論文集と学会誌との区別を明確とするために表紙や ISBN の扱いを明確にしました。

（3）学会誌・論文集の発行（第 47 巻）

- 第 1 号（通巻 145 号）Vo. 47 No. 1 2023 年 5 月発行 900 部
特集：洋上風力建設に向けた作業船（含、拠点港建設）最新情報
- 第 2 号（通巻 146 号）Vo. 47 No. 2 2023 年 8 月発行 890 部
特集：研究会最終報告：風車運用寿命延長技術研究会
- 第 3 号（通巻 147 号）Vo. 47 No. 3 2023 年 11 月発行 890 部
特集：風力発電関連機器産業調査（日本電機工業会）、気象、海象技術予測のソフト技術紹介
- 第 4 号（通巻 148 号）Vo. 47 No. 4 2024 年 2 月発行 900 部
特集：小形風車特集、電力系統技術並びに送配電技術の最前線

（4）第 45 回風力エネルギー利用シンポジウムの開催

- 主催：日本風力エネルギー学会
- 協賛：日本小形風力発電協会、日本風力発電協会（五十音順）
- 後援：産業技術総合研究所、新エネルギー・産業技術総合開発機構、新エネルギー財団、ターボ機械協会、日本科学技術振興財団、日本風工学会、日本太陽エネルギー学会、日本電機工業会、風力発電推進市町村全国協議会（五十音順）
- 開催日：11 月 30 日～12 月 1 日
- 開催場所：科学技術館及びオンライン開催
- 参加者数：467 名（内、会員 375 名、一般 59 名、講師・招待者 33 名）
- 内容：1 日目は、招待講演Ⅰ（風力発電に係る政策と施策の状況、所管官庁など）4 件、招待講演Ⅱ（洋上風力に係る最新動向と今後の展開、関係事業者など）7 件、学会からの報告（各研究会の活動状況）6 件の発表が行われました。2 日目は、一般研究発表 111 件（前回第 44 回は 86 件）が A、B、C、D の 4 セッションに分かれて行われ、ポスター発表も 23 件（前回 12 件）行われました。また、今回は初の試みとして、12 月 1 日の昼休みを利用して若手風力人材のネットワークづくりのためのランチセミナーを開催しました。

（5）学会研究会の実施：吉田委員長 2024/04/03

- 「垂直軸風車空力弾性解析技術研究会」、「風車寿命延長技術研究会」、「風車ウェイク研究会」、および、「ブレード設計・製造・O&M 調査研究会」の成果は、第 45 回風力エネルギー利用シンポジウムにおいて報告されました。
- 進行中の各分野会は、いずれも、2～3 ヶ月に 1 回程度、活発に議論を進めています。

（6）本会に関わる風力関連イベントへの協力

- 9 月 13 日-9 月 15 日に幕張メッセで開催された第 12 回 WIND EXPO [秋] 2023 及び 2 月 28 日-3 月 1 日に東京ビッグサイトで開催された第 13 回 WIND EXPO [春] 2024 において、本会の PR ブースを出展しました。
- 1 月 22 日-2 月 2 日に第 18 回再生可能エネルギー世界展示会&フォーラム（RE2024）が開催されました。1 月 22 日-1 月 30 日のオンラインフォーラムの分科会 5（風力エネルギー）において本会理事が司会進行役とまとめ役を務めました。また、1 月 31 日-2 月 2 日の東京ビッグサイトでの展示会においては本会の PR ブースを出展しました。

開催日程	開催場所	イベント名	関係	活動	JWEA 役員の参加
2023 年 6/14	オンライン	GWEC 年次総会&理事会	加盟	議決に 投票	上田理事（オンライン）
6/29-30	足利市	第 23 回風力エネルギー利用総合セミナー	後援	講演	石原理事、上田理事、山口代表委員、駒井理事、吉田(茂)理事、吉田(悟)理事

7/29-30	東京都	「青少年のための科学の祭典」2023 全国大会	協力	展示	今村理事、飯野代表委員
8/8-9	福岡市	第 32 回日本エネルギー学会大会	協賛		
9/13-15	千葉市	第 12 回国際風力発電展 (WIND EXPO [秋] 2023)	後援	展示	
10/3	秋田市	秋田洋上風力発電所の見学会	主催	見学会	今村理事、本田理事、種本代表委員
10/11-13	北九州市	世界洋上風力サミット (Global Offshore Wind Summit-Japan 2023)	後援		
11/7-9	Hobart (豪州)	World Wind Energy Conference 2023 (WVEC2023)	加盟		荒川代表委員
11/12	習志野市	第16回風力発電コンペ (WINCOM2023)	後援	審査	本庄理事、駒井理事
11/16-17	泉佐野市	令和 5 年度日本太陽エネルギー学会研究 発表会	協賛		
2024 年 1/22-2/2	東京都	第 18 回再生可能エネルギー世界展 示会&フォーラム (RE2024) 1/22-30 フォーラム 1/31-2/2 展示会	協賛	展示 講演	フォーラム座長: 吉田(茂)理事、 飯田理事 展示会セミナー: 植田理事、飛 島代表委員、松信理事
2/28-3/1	東京都	第 13 回国際風力発電展 (WIND EXPO [春] 2024)	後援	展示	

(7) 表彰の実施

- ・本会の総会において、以下のとおり各賞の表彰を行いました。
 - ・令和 5 年度総会 (2023 年 5 月 31 日)
 - 功 労 賞 : 山田英幸氏
 - 学 会 賞 : 対象なし
 - 研究奨励賞: 対象なし
 - 論 文 賞 : 内田孝紀氏ほか、比江島慎二氏ほか、角谷啓氏ほか
 - 優秀発表賞: 岡村龍之介氏、吉田敏哉氏、菊地由佳氏、種本純氏、渡邊慶一郎氏、渡辺勢也氏、栗飯原あや氏、阿部頌氏、
 - ポスター賞: 大島弘雅氏ほか(ベストポスター賞)、内田孝紀氏ほか
 - ・学会外への特別表彰として、以下の表彰を行いました。
 - 日本風力エネルギー学会 長井浩記念賞 (2023 年 11 月 12 日 第 16 回風力発電コンペ WINCOM2023 にて)
 - 受賞者: 江戸川学園取手高等学校チーム

(8) 学会誌、論文集、予稿集を J-STAGE に掲載

- ・学会誌 (通巻 144 号まで)、論文集 (通巻 148 号まで) 及びシンポジウム予稿集 (第 44 回まで) の電子化と J-STAGE での定期的な公開を通じて、本会のプレゼンスを向上するとともに、会員の記事や論文を広く公開することにより、引用数の増加及び業績評価にも貢献いたしました。

(9) ホームページの充実

- ・本会ホームページは本年 3 月 25 日にリニューアルし、携帯版も追加しました。

(10) 会員の状況 (令和 6 年 3 月 31 日現在の会員数)

- ・特別団体会員: 22 団体 (前年度末 23 団体)
 - 會澤高圧コンクリート(株)、(株)ウインドエナジーコンサルティング、M&T(株)、(株)グリーンパワーインベストメント、コスモエコパワー(株)、清水建設(株)、(株)ジャパンウインドエンジニアリング、ENEOS リニューアル・エナジー(株)、ゼネラルエレクトリックインターナショナルリンク、電源開発(株)、DENZAI(株)、東芝エネルギーシステムズ(株)、戸田建設(株)、(一財)日本海事協会、(株)日立製作所、日立造船(株)、(株)北拓、三菱重工業(株)、(株)ユーラスエナジーホールディングス、(株)レノバ、若築建設(株) (五十音順)

・団体会員：106 団体（前年度末 102 団体）

・個人会員：377 名（前年度末 370 名）

・学生会員：37 名（前年度末 46 名）

・特別会員：6 名（前年度末 6 名）

・海外会員：1 名（前年度末 1 名）

・名誉会員：6 名（前年度末 6 名）

・購読会員：9 名（前年度末 8 名）

合計：564 団体/名（前年度末 562 団体/名）

日本風力エネルギー学会 2022(令和4)年度 事業報告

(自：2022(令和4)年4月1日 至：2023(令和5)年3月31日)

(特記事項)

I. 風力発電の国内外動向

我が国は2020年10月に2050年カーボンニュートラルを目指すことを宣言し、2020年12月には関係省庁連携の「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」が策定されました。2021年6月には本グリーン成長戦略が具体化され、成長が期待される14分野について実行計画が策定されました。この実行計画の中でエネルギー関連産業の一つとして洋上風力(次世代再生可能エネルギー)では、2030年までに1,000万kW、2040年までに3,000万kW～4,500万kWの導入目標が掲げられております。

この導入目標の達成に資するため、経済産業省及び国土交通省では、2019年4月1日施行の再エネ海域利用法に基づいて「促進地域」を指定するとともに、今後の促進地域の指定に向けて、「有望な区域」及び「一定の準備段階に進んでいる区域」について定期的に整理を行っています。

促進地域については、2022年12月28日、「秋田県八峰町及び能代市沖」、「秋田県男鹿市、潟上市及び秋田市沖」、「新潟県村上市及び胎内市沖」、「長崎県西海市江島沖」について、洋上風力発電事業者の公募を開始しました。

2022年9月には、有望な区域として、新たに千葉県九十九里浜沖を追加した計5区域、一定の準備段階に進んでいる区域として、新たに富山沖東部沖を追加した計11区域を公表しております。

一方、世界の風力発電導入量は2022年末に約9億600万kWに達していますが、我が国の風力発電の導入量は2022年末で約480万kWに留まっており今後大幅な導入拡大が望まれています。

このような情勢においては、風力発電の信頼性向上とコスト低減のために多くの取り組みが必要です。設備利用率の向上とコスト低減を達成し、風力発電の事業性を確保・増大させるとともに、それらを支える人材を育成するためには今後、ますます本会関係者の活躍が期待されます。

II. 本会の活動

2022年度には、新たに3社の特別団体会員が加わり、23社となりました。また、学会の研究会として立ち上げた風車ウェイク研究会は2022年度末で終了しました。風力エネルギー利用シンポジウムでは、人材育成の観点から引き続き英語による発表も受け付けるとともに、本会の広報や会員の増強を目的とした第17回再生可能エネルギー世界展示会&フォーラム、第2回WIND EXPO 秋 国際風力発電展及び第11回WIND EXPO 春 国際風力発電展に出展しました。さらに、これまでと同様にホームページの充実、2021年度までの学会誌及び風力エネルギー利用シンポジウム予稿集並びに2023年2月までの論文集のJ-STAGEへの公開等、会員サービスの向上に努めてきました。風力エネルギー利用シンポジウムは、第42回、43回はオンラインのみの開催でしたが今回第44回は科学技術館での対面とオンラインによるハイブリッド開催とし参加者も増加、新しい開催方法として期待されます。これまで風力エネルギーに関する啓発活動の一環として実施して見学会の開催は見送りせざるを得ませんでした。このように、2022年度も制約された環境下の中ではありますが、学会活動を活発化させ、広く会員サービスの向上に努めました。関係各位のご協力とご援助に感謝します。

(今後に向けて)

本会には、学術的研究を基礎とした諸活動を通じ風力エネルギー利用のための社会的基盤を提供するという公共的役割が強く求められております。社会貢献・人材育成・学会活動の見地から継続している従来からの取り組みを充実させ、これまでの方針である若手スクールの開設、研究会の活性化、風力エネルギー教材の作成、人材登録制度の活用等についても引き続き取り組みます。また、国内風力発電の導入量拡大と産業活性化のため、より多くの方々に風力に携わっていただけるよう、幅広い分野からの会員増強にも取り組みます。これまで本会会員の多くが工学分野の関係者でしたが、今後は社会科学などの多様な分野からも本会活動への参加をしていただき多様性に富んだ組織を目指すとともに男女共同参画についても昨年女性理事2名誕生を実現しており引き続き推進します。そして将来にわたり持続的に風力分野を発展させるため、未来を担う若手や学生、子ども達に風力の魅力を伝える活動にも取り組みます。

本会は、風力発電のさらなる導入拡大に貢献するとともに、風力エネルギー分野の一層の発展を目指します。会員各位の一層のご理解、ご援助とご協力をお願いする次第です。

(概略報告/総括)

1. 総会、代表委員会、理事会の開催

- ・総会は、5月27日に開催し、2021(令和3)年度事業報告、収支報告、監査報告について審議・承認をいただき、令和4年度の事業計画、収支予算について報告・承認されました。
- ・代表委員会は、5月27日の総会前に開催しました。
- ・理事会は、計7回(4月18日、5月27日、7月21日、9月14日、11月14日、1月17日、3月17日)開催し、各種議案を討議しました。

2. 委員会活動

- ・全体：前年度に引き続き、日本風力エネルギー学会規約・規程の更新を行いました。
- ・企画・運営委員会：第44回風力エネルギー利用シンポジウムは、感染症対策とシンポジウムの確実な開催を両立させるために科学技術館及びオンライン開催方式で実施しました。また、第17回再生可能エネルギー世界展示会、第2回WIND EXPO 秋 国際風力発電展及び第11回WIND EXPO 春 国際風力発電展に出展しました。人材登録運営規程に基づき人材データベース登録者をエリア担当者に選定のうえ、全国の教育研究機関の研究実施状況の調査を行いました。調査結果をポスターにして第44回風力エネルギー利用シンポジウム及び第11回WIND EXPO 春 国際風力発電展に出展しました。
- ・編集委員会：6回の委員会を開催し、学会誌の特集や論文集の編集方針等について検討しました。2022年度の委員会は、引き続き13名の体制を継続して人材及び内容の充実と多様性の確保を図りました。学会誌は予定通り4回発行し、特集と発行部数は、後述の「学会誌・論文集の発行(第46巻)」に記載の通りです。
- ・学術・事業委員会：前年度から引き続き風力エネルギーハンドブック研究会においてWind Energy Handbook(第3版)の翻訳を行いました。風車ウェイク研究会は本年度で終了、風車運用寿命延長技術研究会は2023年4月、垂直軸風車空力弾性解析技術研究会は同年5月に終了予定です。本年度はブレード設計・製造・O&M調査研究会の活動が開始され、2023年4月からウィンドファームの流れ場制御研究会が立ち上げられることになりました。
- ・国際・広報委員会：毎月第1もしくは第2木曜日に日本風力発電協会の国際部会と合同で、計11回開催しました。海外団体(GWEC(世界風力会議)とWWEA(世界風力エネルギー協会))との交流(理事会等へのオンライン参加)と協力(日本のニュースと統計データの提供)を行いました。GWEC・WindEurope等の発行した有用な資料は翻訳WGにて和訳して会員に提供しました。会員向けには、学会誌に「海外トピックス・メルマガニュース」を連載して情報提供しました。GWEC行事のグローバル・ウインドデイは15回目を開催しました。
- ・表彰委員会：本会規程に基づき、学会賞、論文賞、優秀発表賞及びポスター賞の表彰とともに、学会外の功労者への特別表彰を実施しました。さらに2022年度には今後の活躍が期待される若手への特別表彰「風力の未来賞」として、小型風車ときのこ栽培を組み合わせたエネルギーの地産地消を考えた高校3年生を表彰しました。2022年度は、委員会を6回、作業会を7回、論文委員会と合同で学会賞の選考委員会を1回開催して各表彰の審査、準備を進めるとともに、日本学術振興会の各種表彰への学会推薦者の募集のほか、学会外のイベントでの表彰、若手会員や女性会員の活躍、研究会等の学会活動の活性化、風力関連の研究者・エンジニアの裾野拡大やプレゼンス向上に資する新たな表彰創設を含む表彰規程等の改善点について検討を行いました。
- ・論文委員会：論文審査に関わる事項や論文賞候補の選考は随時メール審議を開催しています。2022年度は投稿論文18件を審査しました(内6件掲載、2件次年度掲載、10件審査中・取下げ等)。なお、2022年度は前年度からの審査持ち越し4件を含め6件の論文を論文集に掲載しました。

3. 学会誌・論文集の発行(第46巻)

- ・第1号(通巻141号) Vo. 46 No. 1 2022年5月発行 900部
特集：ブレード技術研究会 最終報告
- ・第2号(通巻142号) Vo. 46 No. 2 2022年8月発行 890部
特集：洋上風力発電 官民推進協議会の活動状況、会長、副会長、新任理事、委員会委員長からの抱負
- ・第3号(通巻143号) Vo. 46 No. 3 2022年11月発行 890部
特集：洋上風力発電が主力電源の一つになるための社会的課題、避雷・耐雷 最新技術情報
- ・第4号(通巻144号) Vo. 46 No. 4 2023年2月発行 900部
特集：風力発電とレーダーの影響について、我が国の洋上風力発電の拡大を見据えた人材育成

4. 第44回風力エネルギー利用シンポジウムの開催

- ・主 催：日本風力エネルギー学会
- ・協 賛：日本小形風力発電協会、日本風力発電協会 (五十音順)

- ・後援：産業技術総合研究所、新エネルギー・産業技術総合開発機構、新エネルギー財団、ターボ機械協会、日本科学技術振興財団、日本風工学会、日本太陽エネルギー学会、日本電機工業会、風力発電推進市町村全国協議会（五十音順）
- ・開催日：12月1日～2日
- ・開催場所：科学技術館及びオンライン開催
- ・参加者数：368名
- ・内容：初日は恒例の官公庁からの講演5件、英国 ORE Catapult の研究者による特別招待講演のほか、「カーボンニュートラルに向けた再生可能エネルギー利用、エネルギーシステムと風力」、「人材育成と女性活躍への取組状況」、「研究会報告」として10件の講演が行われました。二日目は口頭発表が83件（口頭とポスター発表の併用9件を含む）と、ポスター発表のみが3件の合計86件の発表が行われました。

5. 学会研究会の実施

- ・「風車ウェイク研究会」、「風車寿命延長技術研究会」および「垂直軸風車空力弾性解析技術研究会」は、第44回風力エネルギー利用シンポジウムにおいて中間報告が行われました。
- ・「ブレード設計・製造・O&M調査研究会」は、オンライン方式で活発に議論を進めています。

6. 本会に関わる風力関連イベントへの協力

- ・グランド再生可能エネルギー2022 国際会議(GRE2022)（12月13-20日）では、フォーラムの分科会5（風力エネルギー）において本会理事が司会役を務めました。また、第17回再生可能エネルギー世界展示会（2月1-3日）においては本会のPRブースを出展しました。
- ・8月31日-9月2日に幕張メッセで開催の第2回 WIND EXPO 秋 国際風力発電展及び3月15日-17日に東京ビッグサイトで開催の第11回 WIND EXPO 春 国際風力発電展において、本会のPRブースを出展しました。

日時	開催場所	イベント名	関係	活動	JWEA 役員の参加
2022/6/15	英国 Aberdeen	Energy Export Conference 2022		講師	上田理事
6/22	オンライン	GWEC 年次総会&理事会	加盟	Web 参加	上田理事
6/23-24	足利市	第22回風力エネルギー利用総合セミナー	後援	Web	石原理事、永尾理事、本田理事、飯田理事、鈴木理事、吉田悟理事
6/28-30	イタリア Rimini	World Wind Energy Conference 2022 (WWEC2022)	加盟	参加	荒川代表委員
7/30-31	東京都	青少年のための科学の祭典 in 科学技術館	協力	講師	今村理事、飯野代表委員
8/4-5	東京都	第31回日本エネルギー学会大会	協賛		
8/9-10	北九州市	洋上風力発電シンポジウム	後援		
8/31-9/2	千葉市	第2回 WIND EXPO 秋 国際風力発電展	後援	展示	
10/30	千葉県 (日本大学)	第15回風力発電コンペ (WINCOM2022)	後援		本庄理事、駒井理事
11/9-11	秋田市	秋田県・GWEC・JWPA 国際洋上風力シンポジウム (GOWSJ2022:Global Offshore Wind Summit-Japan 2022)	後援		植田理事
11/10-11	福井市	令和2022年度 日本太陽エネルギー学会研究発表会	協賛		
12/13-20	Web	グランド再生可能エネルギー2022 国際会議(GRE2022)	共催	Web 座長	本田理事、今村理事、飯田理事、安田理事、吉田茂雄理事
1/27	東京都 (東京大学)	スーパーシミュレーションとAIを連携活用した実機クリーンエネルギーシステムのデジタルツインの	後援		植田理事

		構築と活用(クリーンエネルギー「富岳」第3回シンポジウム)			
2/1-3	東京都	第17回再生可能エネルギー世界展示会&フォーラム	協賛	展示	
3/1	オンライン	第11回 IEA Wind セミナー			石原理事(開会挨拶)、安田理事
3/15-17	東京都	第11回 WIND EXPO 春 国際風力発電展	後援	展示	

7. 表彰の実施

- ・本会の総会において、以下のとおり各賞の表彰を行いました。
 - ・令和4年度総会(2022年5月27日)
 - 功 労 賞：斉藤哲夫氏
 - 学 会 賞：石原孟氏
 - 論 文 賞：本巢芽美氏ほか
 - 優秀発表賞：翁長智幸氏、菊地由佳氏、福王翔氏、見崎豪之氏、杜博見(Bojian Du)氏
 - ポスター賞：今中大貴氏ほか、宋雲鵬氏・銭国偉・石原孟氏(ベストポスター賞)、川端浩和氏ほか、菊地由佳氏ほか、Muhammad Sohail Hasan 氏ほか
- ・学会外への特別表彰として、以下の表彰を行いました。
 - ・日本風力エネルギー学会 長井浩記念賞(2022年10月30日 第15回風力発電コンペ WINCOM2022 にて)
 - 受賞者：東京都立多摩工業高等学校チーム
 - ・日本風力エネルギー学会特別表彰 風力の未来賞(2023年3月3日)
 - 受賞者：山形工業高等学校 齋藤克己氏、矢田目紘乃氏、佐々木美月氏(同高校3年生)

8. 学会誌、論文集、予稿集を J-STAGE に掲載

- ・学会誌(通巻140号まで)、論文集(通巻144号まで)及びシンポジウム予稿集(第43回まで)の電子化と J-STAGE での定期的な公開を通じて、本会のプレゼンスを向上するとともに、会員の記事や論文を広く公開することにより、引用数の増加及び業績評価にも貢献いたしました。

9. ホームページの充実

- ・本会ホームページ内容等について更新・修正を行いました。

10. 会員の状況(令和5年3月31日現在の会員数)

- ・特別団体会員：23 団体(前年度末 20 団体)
 - 會澤高圧コンクリート(株)、INFLUX OFFSHORE WIND POWER HD (株)、(株) ウインドエナジーコンサルティング、M&T(株)、(株) グリーンパワーインベストメント、コスモエコパワー (株)、清水建設(株)、(株) ジャパンウィンドエンジニアリング、ジャパン・リニューアブル・エナジー(株)、ゼネラル・エレクトリック・インターナショナル・インク、電源開発(株)、東芝エネルギーシステムズ(株)、戸田建設 (株)、(一財)日本海事協会、日本風力エネルギー(株)、(株)日立製作所、日立造船(株)、ベスタス・ジャパン(株)、(株)北拓、三菱重工業(株)、(株)ユーラスエナジーホールディングス、(株)レノバ、若築建設 (株)(五十音順)
- ・団体会員 : 102 団体(前年度末 100 団体)
- ・個人会員 : 370 名(前年度末 362 名)
- ・学生会員 : 46 名(前年度末 43 名)
- ・特別会員 : 6 名(前年度末 6 名)
- ・海外会員 : 1 名(前年度末 0 名)
- ・名誉会員 : 6 名(前年度末 7 名)
- ・購読会員 : 8 名(前年度末 8 名)

日本風力エネルギー学会 2021(令和3)年度 事業報告

(自：2021(令和3)年4月1日 至：2022(令和4)年3月31日)

(特記事項)

I. 風力発電の国内外動向

我が国は2020年10月に2050年カーボンニュートラルを目指すことを宣言し、2020年12月には関係省庁連携の「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」が策定されました。2021年6月には本グリーン成長戦略が具体化され、成長が期待される14分野について実行計画が策定されています。この中でエネルギー関連産業の一つとして洋上風力(次世代再生可能エネルギー)では、主な今後の取組として『①導入目標を明示し、国内外の投資を呼び込む。-2030年までに1,000万kW、2040年までに3,000万kW~4,500万kW- ②系統・港湾のインフラを計画的に整備する。③競争力を備えたサプライチェーンを形成する。④規制の総点検によって事業環境を改善する。⑤「技術開発ロードマップ」に基づいた実証を見据え、要素技術開発を加速する。』ことが策定されています。

2021年4月には「洋上風力の競争力強化に向けた官民協議会」の第3回作業部会が開催され、洋上風力の開発促進に寄与することが期待されるとともに、事業環境を後押しする面からも、昨年12月に落札事業者が決定した秋田県沖等の3海域に引き続き、政府では、青森県沖日本海、長崎県西海市江島沖、秋田県男鹿市、潟上市及び秋田市沖、山形県遊佐町沖、新潟県村上市及び胎内市沖、千葉県いすみ市沖などが有望な区域として公表され、次の洋上風力の公募・入札に向け準備を進めていると伝えられております。

一方、本年2月24日からのロシアによるウクライナ侵攻は、世界のエネルギー事情を一変させ、国の安全保障上の観点からも、純国産エネルギーである再生可能エネルギーの優位性を示すこととなりました。

世界の風力発電導入量は2021年末に約8億3,700万kWに達していますが、我が国の風力発電の導入量は2021年度末で約458万kWに留まっており今後大幅な導入拡大が望まれています。

このような情勢においては、風力発電の信頼性向上とコスト低減のために多くの取り組みが必要です。設備利用率の向上とコスト低減を達成し、風力発電の事業性を確保・増大させるとともに、それらを支える人材を育成するためには今後、ますます本会関係者の活躍が期待されます。

II. 本会の活動

2021年度には、新たに3社の特別団体会員が加わり、20社となりました。また、学会の研究会として立ち上げた空中風力発電研究会とブレード技術研究会は年度末までに最終報告を取りまとめました。風力エネルギー利用シンポジウムでは、人材育成の観点から引き続き英語による発表も受け付けるとともに、本会の広報や会員の増強を目的とした第16回再生可能エネルギー世界展示会&フォーラム及び第10回国際風力発電展に出展しました。さらに、これまでと同様にホームページの充実、2020年度までの学会誌及び風力エネルギー利用シンポジウム予稿集並びに2022年2月までの論文集のJ-STAGEへの公開等、会員サービスの向上に努めてきました。風力エネルギー利用シンポジウムは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を回避するため、オンラインで開催しましたが、これまで風力エネルギーに関する啓発活動の一環として実施して見送りの開催は見送りせざるを得ませんでした。このように、2021年度は制約された環境下の中ではありませんでしたが、学会活動を活発化させ、広く会員サービスの向上に努めました。関係各位のご協力とご援助に感謝します。

(今後に向けて)

本会には、学術的研究を基礎とした諸活動を通じ風力エネルギー利用のための社会的基盤を提供するという公共的役割が強く求められております。社会貢献・人材育成・学会活動の見地から継続している従来からの取り組みを充実させ、これまでの方針である若手スクールの開設、研究会の活性化、風力エネルギー教材の作成等についても引き続き取り組みます。また、国内風力発電の導入量拡大と産業活性化のため、より多くの方々に風力に携わっていただけるよう、幅広い分野からの会員増強にも取り組みます。これまで本会会員の多くが工学分野の関係者でしたが、今後は社会科学などの多様な分野からも本会活動への参加をしていただき多様性に富んだ組織を目指すとともに男女共同参画を推進します。そして将来にわたり持続的に風力分野を発展させるため、未来を担う若手や学生、子ども達に風力の魅力を伝える活動にも取り組みます。

本会は、風力発電のさらなる導入拡大に貢献するとともに、風力エネルギー分野の一層の発展を目指します。会員各位の一層のご理解、ご援助とご協力をお願いする次第です。

(概略報告/総括)

1. 総会、代表委員会、理事会の開催

- ・総会は、5月31日に開催し、2020(令和2)年度事業報告、収支報告、監査報告について審議・承認をいただき、令和3年度の事業計画、収支予算について報告・承認されました。
- ・代表委員会は、5月31日の総会前に開催しました。
- ・臨時代表委員会(10月25日)で推薦理事に関する学会規定の改正について審議、「役員選任の手続き」第9条の表現を再度理事会で検討することを条件に承認されました。本件は第6回理事会(1月13日)で再度検討審議のうえ規定の改正を行いました。
- ・理事会は、計7回(4月15日、5月31日、7月16日、9月14日、11月15日、1月13日、3月18日)開催し、各種議案を討議しました。第6回理事会(1月13日)で本会の定款第15条(議長)に第2項を追記することが承認され、今回の社員総会に諮ることとしました。

2. 委員会活動

- ・全体：前年度に引き続き、日本風力エネルギー学会規約・規程の更新を行いました。
- ・企画・運営委員会：第43回風力エネルギー利用シンポジウムは、COVID-19の影響に対するリスクを極力抑えることを優先し、昨年同様ウェビナー形式で開催しました。シンポジウムでは、2019年ノーベル化学賞受賞者 産業技術総合研究所ゼロエミッション国際共同研究センターの吉野彰センター長からビデオメッセージをいただきました。また、第16回再生可能エネルギー世界展示会及び第10回国際風力発電展に出展しました。若手及び女性活躍推進ワーキングでの活動内容を第43回風力エネルギー利用シンポジウムで報告しました。学会活動活性化を図るため、学会内に人材データベースを構築運用する検討を行い、人材登録運営規程案を取りまとめました。
- ・編集委員会：6回の委員会を開催し、学会誌の特集や論文集の編集方針等について検討しました。2021年度の委員会は、前年度から引き続き13名の体制とし人材及び内容の充実と多様性の確保を図りました。学会誌は予定通り4回発行し、特集と発行部数は、後述の「学会誌・論文集の発行(第45巻)」に記載の通りです。
- ・学術・事業委員会：風力エネルギーハンドブック研究会においてWind Energy Handbook(第3版)の翻訳を開始しました。ブレード技術研究会はGWEC「ブレードサプライチェーン」翻訳のために6ヵ月間延長されました。新たに、風車ウェイク研究会、風車運用寿命技術研究会、垂直軸風車空力弾性解析技術研究会の活動が開始されました。
- ・国際・広報委員会：毎月第1もしくは第2木曜日に日本風力発電協会の国際部会と合同で、計10回開催しました。海外団体(GWEC(世界風力会議)とWWEA(世界風力エネルギー協会))との交流(理事会等へのオンライン参加)と協力(日本のニュースと統計データの提供)を行いました。GWEC・WindEurope等の発行した有用な資料は翻訳WGにて和訳して会員に提供しました。会員向けには、学会誌に「海外トピックス・メルマガニュース」を連載して情報提供しました。COVID-19流行のため昨年は開催を自粛したGWEC行事のグローバル・ウインドデイは14回目を開催しました。
- ・表彰委員会：本会規程に基づき、論文賞、優秀発表賞及びポスター賞の表彰とともに、学会外の功労者への特別表彰を実施しました。また2019年度から開始した学会賞及び研究奨励賞の推薦募集には、学会賞の推薦が1件あり、本会規程に基き設置した選考委員会で審査した結果、初の学会賞が決定されました。さらに2021年度には、今後の活躍が期待される若手への特別表彰「風力の未来賞」を創設し、洋上風力関連の研究に取り組む高校2年生を表彰しました。2021年度は、委員会を6回、作業会を7回、論文委員会と合同で学会賞の選考委員会を1回開催して各表彰の審査、準備を進めるとともに、日本学術振興会の各種表彰への学会推薦者の募集のほか、学会外のイベントでの表彰、若手会員や女性会員の活躍、研究会等の学会活動の活性化、風力関連の研究者・エンジニアの裾野拡大やプレゼンス向上に資する新たな表彰創設を含む表彰規程等の改善点について検討を行いました。
- ・論文委員会：論文審査に関わる事項や論文賞候補の選考は随時メール審議を開催しています。2021年度は投稿論文21件を審査しました(内10件掲載、11件審査中・返却等)。なお、2021年度は前年度及びそれ以前からの審査持ち越し4件を含め10件の論文を論文集に掲載しました。

3. 学会誌・論文集の発行(第45巻)

- ・第1号(通巻137号)Vo.45 No.1 2021年5月発行 840部
特集：風力エネルギー研究の基礎-小形風車の開発
- ・第2号(通巻138号)Vo.45 No.2 2021年8月発行 840部
特集：大型風車 最新保守技術
- ・第3号(通巻139号)Vo.45 No.3 2021年11月発行 830部

特集：全国ウィンドファーム最新情報、風力発電 社会受容性に向けた状況と施策

・第4号（通巻140号）Vo. 45 No. 4 2022年2月発行 840部

特集：我が国の国家採択風力関連プロジェクトの紹介、風車騒音のアセス・測定・解析・予測・制御

4. 第43回風力エネルギー利用シンポジウムの開催

- ・主 催：日本風力エネルギー学会
- ・協 賛：日本小形風力発電協会、日本風力発電協会（五十音順）
- ・後 援：産業技術総合研究所、新エネルギー・産業技術総合開発機構、新エネルギー財団、ターボ機械協会、日本科学技術振興財団、日本風工学会、日本太陽エネルギー学会、日本電機工業会、風力発電推進市町村全国協議会（五十音順）
- ・開 催 日：11月18日～19日
- ・開催場所：オンライン開催
- ・参加者数：341名
- ・内 容：初日は、産業技術総合研究所ゼロエミッション国際共同センターの吉野彰センター長（2019年ノーベル化学賞）からビデオメッセージをいただくとともに、恒例の官公庁からの講演5件のほか、「我が国の人材育成の取組」、「学会の取組」として10件の講演が行われました。二日目は口頭発表が74件（口頭とポスター発表の併用10件を含む）と、ポスター発表のみが4件の合計78件の発表が行われました。

5. 学会研究会の実施

- ・「空中風力発電研究会」は学会誌（137号）及び第43回風力エネルギー利用シンポジウムにおいて終了報告が行われるとともに、「ブレード技術研究会」は同シンポジウムにおいて中間報告が行われました。
- ・「風車ウェイク研究会」、「風車寿命延長技術研究会」および「垂直軸風車空力弾性解析技術研究会」は、オンライン方式で活発に議論を進めています。

6. 本会に関わる風力関連イベントへの協力

- ・第16回再生可能エネルギー世界展示会（東京ビッグサイト1月26～28日）&フォーラム（オンライン1月17～25日）では、1月19日に開催されたフォーラムの分科会5（風力エネルギー）において、吉田理事の「開会挨拶」と最後の飯田理事による「まとめと閉会の挨拶」がありました。また、世界展示会においては本会のPRブースを出展しました。
- ・3月16～18日に東京ビッグサイトで開催の第10回国際風力発電展において、本会のPRブースを出展しました。

日時	開催場所	イベント名	関係	活動	JWEA 役員の参加
2021年4/23 ～2022年3/2	オンライン	第1回～第11回 足利大学風力発電アカデミー	後援		石原理事、飯田理事、永尾理事、 松信理事、吉田茂雄理事、吉田悟 監事、荒川代表委員
2021年6/16	オンライン	GWEC 年次総会&理事会		Web 参加	上田理事
6/24-25	足利市	第21回風力エネルギー利用総合セ ミナー	後援	Web	石原理事、上田理事、永尾理事、 本田理事、吉田悟監事
8/4-5	東京都	第31回日本エネルギー学会大会	協賛		
9/29-10/1	東京都	第9回 国際風力発電展 WindExpo 2021 秋	後援	展示	
10/5	北九州市	洋上風力発電シンポジウム	後援	Web	
10/7-8	北九州市	北九州市・GWEC・JWPA 国際洋上風力 シンポジウム(Global Offshore Wind Summit-Japan 2021)	後援		
11/5	名古屋市	日本機械学会東海支部 第7回講演 会	協賛	講師	今村理事、松信理事
11/6-7	東京都	青少年のための科学の祭典 in 科学 技術館	協力	講師	今村理事、飯野代表委員
11/11-12	東京都	令和3年度日本太陽エネルギー学会 研究発表会	協賛	Web	

11/24-26	インド ニューデリー	World Wind Energy Conference (WVEC 2021)		Web	荒川代表委員が WVEA 副会長として 参加
11/26	東京都 (東京大学)	スーパーシミュレーションと AI を 連携活用した実機クリーンエネルギ ーシステムのデジタルツインの構築 と活用(クリーンエネルギー「富岳」 第 2 回シンポジウム)	後援		今村理事
11/30	千葉県 (日本大学)	第 14 回 風 力 発 電 コ ン ペ (WINCOM2021)	後援	Web	
2022 年 1/17-25	オンライン	第 16 回再生可能エネルギーフォー ラム	協賛	Web 参加	吉田理事 (座長)、 飯田理事 (まとめ役)
1/26-28	東京都	第 16 回再生可能エネルギー世界展 示会/基調講演/RE セミナー	協賛	展示	
3/1	オンライン	第 10 回 IEA Wind セミナー		Web 参加	石原理事 (開会挨拶)
3/16-18	東京都	第 10 回国際風力発電展 WindExpo 2022 春	後援	展示	

7. 表彰の実施

- ・本会の総会において、以下のとおり各賞の表彰を行いました。
 - ・令和 3 年度総会 (5 月 31 日)
 - 功 勞 賞：正田剛氏、清野義勝氏
 - 研究奨励賞：菊地由佳氏
 - 論 文 賞：菊地由佳氏ほか、藤本修平氏ほか
 - 優秀発表賞：菊地由佳氏、David Eliecer Carrillo Canizalez 氏、渡邊慶一郎氏、長村篤氏、花村真絃氏、深谷有輝氏
 - ポスター賞：石原孟氏、飯田芳久氏(ベストポスター賞)、内田孝紀氏ほか、川端浩和氏ほか、桐原慎二氏
- ・学会外への特別表彰として、以下の表彰を行いました。
 - ・日本風力エネルギー学会 長井浩記念賞 (2021 年 11 月 第 14 回風力発電コンペ WINCOM2021 にて)
 - 受賞者：千葉県立下総高等学校チーム
 - ・日本風力エネルギー学会特別表彰 風力の未来賞 【新設】(12 月 16 日)
 - 受賞者：芝浦工業大学柏中学高等学校 高見陽菜氏 (同高校 2 年生)

8. 学会誌、論文集、予稿集を J-STAGE に掲載

- ・学会誌 (通巻 136 号まで)、論文集 (通巻 140 号まで) 及びシンポジウム予稿集 (第 42 回まで) の電子化と J-STAGE での定期的な公開を通じて、本会のプレゼンスを向上するとともに、会員の記事や論文を広く公開することにより、引用数の増加及び業績評価にも貢献いたしました。

9. ホームページの充実

- ・本会ホームページ内容等について更新・修正を行いました。

10. 会員の状況(令和 4 年 3 月 31 日現在の会員数)

- ・特別団体会員：20 団体 (前年度末 17 団体)
 - 會澤高圧コンクリート(株)、INFLUX OFFSHORE WIND POWER HD (株)、M&T(株)、(株)グリーンパワーインベストメント、コスモエコパワー (株)、清水建設(株)、ジャパン・リニューアブル・エナジー(株)、ゼネラル・エレクトリック・インターナショナル・インク、電源開発(株)、東芝エネルギーシステムズ(株)、戸田建設 (株)、(一財)日本海事協会、日本風力エネルギー(株)、(株)日立製作所、日立造船(株)、ベスタス・ジャパン(株)、(株)北拓、三菱重工業(株)、(株)ユーラスエナジーホールディングス、(株)レノバ (五十音順)
- ・団体会員 : 100 団体 (前年度末 84 団体)
- ・個人会員 : 362 名 (前年度末 357 名)
- ・学生会員 : 43 名 (前年度末 47 名)
- ・特別会員 : 6 名 (前年度末 5 名)
- ・海外会員 : 0 名 (前年度末 0 名)

- ・名誉会員 : 7 名 (前年度末 7 名)
- ・購読会員 : 8 名 (前年度末 8 名)

日本風力エネルギー学会 2020(令和2)年度 事業報告

(自：2020(令和2)年4月1日 至：2021(令和3)年3月31日)

(特記事項)

I. 風力発電の国内外動向

菅首相は、2020年11月22日のG20サミットで2050年に温室効果ガスの排出量を実質ゼロとする脱炭素社会の構築を宣言しました。また、2020年12月21日に行われた総合資源エネルギー調査会基本政策分科会では、2050年の総発電量に占める再生可能エネルギーの比率を50-60%にするとの参考値案が提示されています。

これらの目標を達成するには、風力発電、中でもポテンシャルが膨大な洋上風力発電の導入拡大を図る必要があります。洋上風力発電の3つの特徴として、火力発電に比べて二酸化炭素の排出量が少ないことから地球温暖化対策に有効であること、大規模開発ができれば発電コストが火力発電並みに抑えられること、及び洋上風力発電設備の設置・運転・維持管理において地元産業へ好影響をもたらすことを挙げることができます。2020年には、経済産業省 梶山大臣と国土交通省 赤羽大臣が主導して「洋上風力の産業競争力強化に向けた官民協議会」が始まりました(7月17日に第1回、12月15日に第2回)。第2回の官民協議会では「洋上風力産業ビジョン」として、「2030年までに1,000万kW、2040年までに3,000~4,500万kW」という世界有数の野心的な導入目標が政府から発表され、産業育成の呼び水になっています。

世界の風力発電導入量は2020年末に約7億4,300万kWに達していますが、我が国の風力発電の導入量は約444万kWで、世界の0.6%程度に留まっています。風力発電の認定設備容量は、固定価格買取制度(FIT)が導入されて以降、2020年9月末までに約938万kWが認定されていますが、その20%程度が導入されているに過ぎません。一方で環境アセスメントの手続中の案件が、陸上・洋上風力合計で3,000万kW以上あります。2020年の新規導入量は51.6万kWと2019年の1.9倍に増えており、今後も大幅な導入拡大が期待されます。

このような情勢においては、風力発電の信頼性向上とコスト低減のために多くの取り組みが必要です。設備利用率の向上とコスト低減を達成し、風力発電の事業性を確保・増大させるためには今後、ますます本会関係者の活躍が期待されます。

II. 本会の活動

2020年度には、新たに3社の特別団体会員が加わり、17社となりました。また、学会の研究会として立ち上げた空中風力発電研究会とブレード技術研究会は年度末までに中間報告を取りまとめました。風力エネルギー利用シンポジウムでは、人材育成の観点から引き続き英語による発表も受け付けるとともに、本会の広報や会員の増強を目的とした第15回再生可能エネルギー世界展示会&フォーラム及び第9回国際風力発電展に出展しました。さらに、これまでと同様にホームページの充実、2019年までの学会誌・論文集及び風力エネルギー利用シンポジウム予稿集のJ-STAGEへの公開等、会員サービスの向上に努めてきました。風力エネルギー利用シンポジウムは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を回避するため、オンラインで開催しましたが、これまで風力エネルギーに関する啓発活動の一環として実施していた見学会の開催は見送りせざるを得ませんでした。このように、2020年度は制約された環境下の中ではありませんでしたが、学会活動を活発化させ、広く会員サービスの向上に努めました。関係各位のご協力とご援助に感謝します。

(今後に向けて)

今年度は、本会の取り組むべき方向性として、社会貢献・人材育成・学会活動の見地から、これまでの取り組みを継続するとともに、若手スクールの開設、研究会の活性化、風力エネルギー教材の作成等に取り組めます。また、国内風力発電の導入量拡大と産業活性化のためには、より多くの人に風力に携わっていただくことが不可欠であるため、幅広い分野からの会員増強に取り組めます。これまで本会会員の多くが工学分野の関係者でしたが、今後は社会科学などの多様な分野からも本会活動への参加や男女共同参画を推進します。そして持続的に風力分野を発展させるため、将来を担う若手や学生、子ども達に風力の魅力を伝える活動にも取り組めます。なお、これらの活動を、早期に重点的に行う仕組みを作ることについても取り組めます。

本会は、風力発電のさらなる導入拡大に貢献するとともに、風力エネルギー分野の一層の発展を目指します。会員各位の一層のご理解、ご援助とご協力をお願いする次第です。

(概略報告/総括)

1. 総会、代表委員会、理事会の開催

- ・総会は、5月27日に開催し、2019(令和元)年度事業報告、収支報告、監査報告について審議・承認をいただき、令和2年度の事業計画、収支予算について報告・承認されました。
- ・代表委員会は、5月27日の総会前に開催しました。
- ・理事会は、計7回(4月17日、5月27日、7月17日、9月17日、11月17日、1月13日、3月11日)開催し、各種議案を討議しました。

2. 委員会活動

- ・全体：前年度に引き続き、日本風力エネルギー学会規約・規程の更新を行いました。
- ・企画・運営委員会：第42回風力エネルギー利用シンポジウムは、COVID-19の影響に対するリスクを極力抑えることを優先し、本会としては初めてウェビナー形式で開催しました。シンポジウムでは、2014年ノーベル物理学賞受賞者 名古屋大学の天野浩教授からビデオメッセージをいただきました。また、第15回再生可能エネルギー世界展示会及び第9回国際風力発電展に出展しました。新たに、若手及び女性活躍推進ワーキングを立ち上げ、第42回風力エネルギー利用シンポジウムで活動内容の報告を行いました。
- ・編集委員会：6回の委員会を開催し、学会誌の特集や論文集の編集方針等について検討しました。2020年度の委員会は、学会会員全体から募った計13名の体制とし、人材と内容の充実と多様性の確保を目指しました。学会誌は予定通り4回発行し、特集と発行部数は、後述の「学会誌・論文集の発行(第44巻)」に記載の通りです。
- ・学術・事業委員会：前年度に引き続き、風力エネルギーハンドブック研究会において Wind Energy Handbook(第2版)の翻訳を完了し、校正・修正を実施しました。なお、発刊と講習会は次年度に延期することとしました。また、研究会のホームページを開設して、各研究会の概要と企画方法、参加方法の紹介をしました。次年度から開始の研究会は、風車ウェイク研究会、風車運用寿命技術研究会、垂直軸風車空力弾性解析技術研究会で、会員の募集を始めました。
- ・国際・広報委員会：毎月第1もしくは第2木曜日に日本風力発電協会の国際部会と合同で、計10回開催しました。海外団体(GWEC(世界風力会議)とWWEA(世界風力エネルギー協会))との交流(理事会等へのオンライン参加)と協力(日本のニュースと統計データの提供)を行いました。会員向けには、学会誌に「海外トピックス・メルマガニュース」を連載して情報提供しました。GWEC 行事のグローバル・ウインドデイは13回を迎えましたが、COVID-19流行で風車見学会が開催できず、2020年は休催となりました。
- ・表彰委員会：本会規程に基づき、論文賞、優秀発表賞及びポスター賞の表彰とともに、学会外の功労者への特別表彰を実施しましたが、例年本会が後援する風力発電コンペ(WINCOM2020)がCOVID-19により開催されなかったため「日本風力エネルギー学会長井浩記念賞」の表彰は行えませんでした。また2019年度から開始した学会賞及び研究奨励賞の推薦募集には、学会賞の推薦はありませんでしたが、研究奨励賞には1件応募があり、本会規程に基き設置した選考委員会で審査した結果、初の研究奨励賞が決定されました。2020年度は、委員会を6回、作業会を7回、論文委員会と合同で研究奨励賞の選考委員会を1回開催して各表彰の審査、準備を進めるとともに、日本学術振興会の各種表彰への学会推薦者の募集のほか、学会外のイベントでの表彰、若手会員や女性会員の活躍、研究会等の学会活動の活性化、プレゼンス向上に資する新たな表彰創設を含む表彰規程等の改善点について検討を行いました。
- ・論文委員会：論文審査に関わる事項や論文賞候補の選考は随時メール審議を開催しています。2020年度は投稿論文7件を審査しました(内3件掲載、4件審査中・返却等)。なお、2020年度は前年度及びそれ以前からの審査持ち越し3件を含め6件の論文を論文集に掲載しました。

3. 学会誌・論文集の発行(第44巻)

- ・第1号(通巻133号) Vo. 44 No. 1 2020年5月発行 800部
特集：風力発電コストとその低減化
- ・第2号(通巻134号) Vo. 44 No. 2 2020年8月発行 800部
特集：風力発電の未来戦略を紹介する、空中風力発電の現状と未来、新理事の抱負
- ・第3号(通巻135号) Vo. 44 No. 3 2020年11月発行 800部
特集：ブレード技術研究会中間報告
- ・第4号(通巻136号) Vo. 44 No. 4 2021年2月発行 800部
特集：最新国内外の洋上風力発電、風車発電に関わる測定

4. 第42回風力エネルギー利用シンポジウムの開催

- ・主 催：日本風力エネルギー学会
- ・協 賛：日本小形風力発電協会、日本風力発電協会 (五十音順)

- ・後援：産業技術総合研究所、新エネルギー・産業技術総合開発機構、新エネルギー財団、ターボ機械協会、日本科学技術振興財団、日本風工学会、日本太陽エネルギー学会、日本電機工業会、風力発電推進市町村全国協議会（五十音順）
- ・開催日：11月26日～27日
- ・開催場所：オンライン開催
- ・参加者数：326名
- ・内容：初日は、名古屋大学未来・材料システム研究所の天野浩教授（2014年ノーベル物理学賞）からビデオメッセージをいただくとともに、恒例の官公庁からの講演5件のほか、「我が国の洋上風力への展望」、「学会の取組」として8件の講演が行われました。二日目は口頭発表が68件（口頭とポスター発表の併用6件を含む）と、ポスター発表のみが2件の合計70件の発表が行われました。

5. 学会研究会の実施

- ・「空中風力発電研究会」及び「ブレード技術研究会」の2つの研究会は、COVID-19の中にあってもオンラインにより活発に開催されるとともに、学会誌及び第42回風力エネルギー利用シンポジウムにおいて中間報告が行われました。

6. 本会に関わる風力関連イベントへの協力

- ・第15回再生可能エネルギー世界展示会（東京ビッグサイト12月9～11日）&フォーラム（オンライン12月1～8日）では、12月3日に開催されたフォーラムの分科会5（風力エネルギー）において、吉田理事の「開会挨拶」、安田理事の「風力発電大量導入時代の電力の安定供給」、本庄理事の「系統制約の克服と調整力の確保」の講演とともに、最後に飯田理事より「まとめと閉会の挨拶」がありました。また、世界展示会においては本会のPRブースを出展しました。
- ・3月3～5日に東京ビッグサイトで開催の第9回国際風力発電展において、本会のPRブースを出展しました。

日時	開催場所	イベント名	関係	活動	JWEA 役員の参加
2020年 5/6	オンライン	GWEC 理事会		Web 参加	上田理事
5/12-14	フランス Paris	第2回フラッターとその応用に関する 国際シンポジウム	協賛		
8/5-6	富山県 富山市	第29回日本エネルギー学会大会	協賛		
9/7-9	フランス Marseille	FOWT2020（Floating Offshore Wind Turbines 2020）		Web 参加	荒川代表委員
11/4-6	東京都	2020年（令和2年）度日本太陽エネルギー 学会研究発表会（オンライン）	協賛		
11/12	オンライン	GWEC 理事会		Web 参加	上田理事
11/20	福岡県 北九州市	洋上風力発電シンポジウム（オンライ ン）	後援	講演	荒川代表委員（講演、全体総括）、 吉田監事（講演）
11/30-12/ 2	東京都	第26回風工学会シンポジウム	協賛		
12/1-4	ドイツ Hamburg	WindEurope Conference & WindEnergy Hamburg 2020		Web 参加	
12/1-11	東京都	第15回再生可能エネルギー世界展示会 &フォーラム	協賛	展示 ＋ Web 参加	フォーラム：吉田理事（開会挨拶）、 安田理事・本庄理事（講演）、飯田理 事（まとめと閉会挨拶）
2021年 2/16	オンライン	第9回 IEA Wind セミナー		Web 参加	石原理事（開会挨拶）、三保谷副会 長（学会代表委員として参加）、小 垣理事・吉田理事・安田理事（講演）
2/25-26	東京都	日独洋上風力オンライン・シンポジウム		後援	

		(主催：ドイツ連邦経済エネルギー省)			
3/3-5	東京都	第9回国際風力発電展 WindExpo 2021	後援	展示	

*2020年度はCOVID-19流行により、リアルなイベントの開催の多くは自粛となった。

7. 表彰の実施

- ・本会の総会において、以下のとおり各賞の表彰を行いました。
 - ・令和2年度総会（5月27日）
 - 特別表彰：森利男氏
 - 論文賞：嶋田進氏ほか、安田晃久氏ほか
 - 優秀発表賞：猪俣海斗氏、久保徳嗣氏、只野卓巳氏、長島久敏氏、林煜為氏、水戸俊成氏、Alex Bunodiére氏
 - ポスター賞：川端浩和氏ほか、長谷川隆徳氏ほか(ベストポスター賞)（五十音順）

8. 学会誌、論文集、予稿集をJ-STAGEに掲載

- ・学会誌及び論文集(通巻132号まで)、シンポジウム予稿集(第41回まで)の電子化とJ-STAGEでの定期的な公開を通じて、本会のプレゼンスを向上するとともに、会員の記事や論文を広く公開することにより、引用数の増加及び業績評価にも貢献いたしました。

9. ホームページの充実

- ・本会ホームページ内容等について更新・修正を行うとともに、新たに研究会のページを設けました。

10. 会員の状況(令和3年3月31日現在の会員数)

- ・特別団体会員：17団体（前年度末14団体）
 - 會澤高圧コンクリート(株)、M&T(株)、(株)グリーンパワーインベストメント、清水建設(株)、ジャパン・リニューアブル・エナジー(株)、ゼネラル・エレクトリック・インターナショナル・インク、電源開発(株)、東芝エネルギーシステムズ(株)、(一財)日本海事協会、日本風力エネルギー(株)、(株)日立製作所、日立造船(株)、ベスタス・ジャパン(株)、(株)北拓、三菱重工業(株)、(株)ユーラスエナジーホールディングス、(株)レノバ
- ・団体会員：84団体（前年度末89団体）
- ・個人会員：357名（前年度末376名）
- ・学生会員：47名（前年度末40名）
- ・特別会員：5名（前年度末8名）
- ・海外会員：0名（前年度末1名）
- ・名誉会員：7名（前年度末6名）
- ・購読会員：8名（前年度末9名）

日本風力エネルギー学会 2019 年度事業報告

(自：2019(平成 31)年 4 月 1 日 至：2020(令和 2)年 3 月 31 日)

(特記事項)

I. 風力発電の国内外動向

経済産業省は、「第 5 次エネルギー基本計画」において、再生可能エネルギーを 2030 年に電源構成の最適化を図るエネルギーミックスの中で経済的に自立した主力電源として位置づけています。なかでも、風力発電はコスト競争力にある電源として、電力市場への統合を図ることが期待されています。また、2019 年 4 月 1 日に「海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律」が施行され、国の主導により洋上風力発電の一般海域への長期占有を可能とする方向性が示されました。前記エネルギー基本計画、改正港湾法(2016 年 7 月施行, 2019 年 2 月 14 日一部改正)等の新法に基づき、海域や港湾の利用ルール整備や、コストを低減させる取り組みは、洋上風力発電の導入促進に繋がるものと考えられます。さらに、2020 年 4 月 1 日に「送電分離」が実施されました。これは、ガス会社や再生可能エネルギー等を手掛ける「新電力」と既存の電力会社が公平に送配電網を使えるようにして競争原理を促し、電気料金の引き下げを狙ったものです。これにより風力発電をはじめ再生可能エネルギーの利用拡大に結び付くことを期待したいものです。

世界の風力発電導入量は 2019 年末に約 6 億 5100 万 kW に達していますが、我が国の風力発電の導入量は約 392 万 kW で、世界の 0.6%程度に留まっています。風力発電の認定設備容量は、固定価格買取制度(FIT)が導入されて以降、2019 年 9 月末までに約 733 万 kW(内、洋上風力 25 万 kW)が認定されていますが、その 18%程度が導入されているに過ぎないことから、計画中の風力発電設備が確実に建設されれば、大幅な導入拡大が期待されます。

このような情勢においては、風力発電の信頼性向上とコスト低減のために多くの技術開発が必要です。設備利用率の向上とコスト低減を達成し、風力発電の事業性を確保・増大させるためには今後、ますます本会関係者の活躍が期待されます。

II. 本会の活動

2019 年度には、新たに 2 社の特別団体会員が加わり、14 社となりました。また昨年度、学会研究会として立ち上げた空中風力発電研究会とブレード技術研究会は活動を開始し、新設した学会賞と研究奨励賞の公募も行いました。風力エネルギー利用シンポジウムでは人材育成の観点から引き続き英語による発表も受け付けるとともに、本会の広報や会員の増強を目的とした第 14 回再生可能エネルギー世界展示会及び第 8 回国際風力発電展に出展しました。さらに、これまでと同様にホームページの充実、2018 年までの学会誌・論文集及び風力エネルギー利用シンポジウム予稿集の J-STAGE への公開、人材バンクの整備、学会の新しいパンフレットの作成等、会員サービスの向上に努めてきました。また、風力エネルギーに関する啓発活動の一環として、株式会社日立製作所殿のご協力を得て、埠頭工場(風力発電機組立工場)及び歴史博物館(小平記念館)の見学会を開催しました。このように、2019 年度は学会活動を活発化させて、広く会員サービスに努めることができました。関係各位のご協力とご援助に感謝します。

(今後に向けて)

今年度は、本会の取り組むべき方向性として、社会貢献・人材育成・学会活動の見地から、これまでの取り組みを継続するとともに、若手スクールの開設、研究会の活性化、風力エネルギー教材の作成等に取り組めます。

本会は、風力発電のさらなる導入拡大に貢献するとともに、風力エネルギー分野の一層の発展を目指します。会員各位の一層のご理解、ご援助とご協力をお願いする次第です。

(概略報告/総括)

1. 総会、代表委員会、理事会の開催

- ・総会は、5 月 28 日に開催し、平成 30 年度事業報告、収支報告、監査報告について審議承認をいただき、令和元年度の事業計画、収支予算について報告・承認された。
- ・代表委員会は、5 月 28 日の総会前に開催し、理事との懇談会にて各委員会からの報告と意見交換を行った。
- ・理事会は、計 7 回(4 月 15 日、5 月 28 日、7 月 25 日、9 月 17 日、11 月 14 日、1 月 9 日、3 月 13 日)開催し、各種議案を討議した。

2. 委員会等の開催

- ・全体：前年度に引き続き、日本風力エネルギー学会規約・規程の更新を行った。
- ・企画・運営委員会：見学会及び第 41 回風力エネルギー利用シンポジウムを開催するとともに、再生可能エネルギー

- ギー世界展示会・国際風力発電展に出展した。新しい試みである研究会が本格的に活動を開始した。
- ・**編集委員会**：6回の委員会及び2回の準備会を開催、特集の企画や学会誌・論文集の編集方針等について検討した。
133号より、我が国の風力業界に貢献する会員企業を紹介する新連載「わが社と風力エネルギー」を始めることとした。学会誌は予定通り4回発行し、特集の内容は後述する「学会誌・論文集の発行」の通りである。
 - ・**学術・事業委員会**：前年度に引き続き、風力エネルギーハンドブック研究会において Wind Energy Handbook(第2版)の翻訳を完了し、校正・修正を実施した。なお、発刊と講習会は次年度に延期することとした。
 - ・**国際・広報委員会**：原則として毎月第2木曜日に日本風力発電協会の国際部会と合同で、計10回開催した。
国際会議に参加して複数回の発表を実施した。海外団体(GWEC(世界風力会議)とWWEA(世界風力エネルギー協会))との交流(理事会等への出席)と協力(日本のニュースと統計データの提供)を行った。
GWEC行事のグローバル・ウインドデ이는12回目を迎え、日本でも29件を開催、過去のイベント累計は130件・参加者累計は1万人を越えた。出前授業も約10件実施した。
 - ・**表彰委員会**：本会規程に基づき、功労賞、論文賞、優秀発表賞及びポスター賞の表彰を実施するとともに、学会外においても、本会が後援する風力発電コンペ(WINCOM2019)において「日本風力エネルギー学会長井浩記念賞」の表彰を行った。また今年度から、学会賞及び研究奨励賞の推薦募集を開始したが、学会賞の推薦はなく、研究奨励賞には該当者なしの結果となった。今年度は、委員会を6回、作業会を6回開催、及び論文委員会と合同で研究奨励賞の選考委員会を1回開催して各表彰の審査、準備を進めるとともに、日本学術振興会における各種表彰制度への学会推薦者の募集、表彰規程等の改善点について検討を行った。
 - ・**論文委員会**：論文審査に関わる事項や論文賞候補の選考は随時メール審議を開催している。令和元年度は投稿論文13件を審査した(内7件掲載、6件審査中・返却等)。なお、令和元年度は前年からの審査持ち越し2件を含め9件の論文を論文集に掲載した。

3. 学会誌・論文集の発行(第43巻)

- ・第1号(通巻129号) Vo. 43 No. 1 2019年5月発行 800部
特集：これからの”環境づくり”と風力発電普及を目指した取り組み事例
- ・第2号(通巻130号) Vo. 43 No. 2 2019年8月発行 800部
特集：風況測定用LIDAR技術特集
- ・第3号(通巻131号) Vo. 43 No. 3 2019年11月発行 800部
特集：落雷・耐雷技術、風力関連産業の統計調査報告
- ・第4号(通巻132号) Vo. 43 No. 4 2020年2月発行 820部
特集：風力エネルギーハンドブックの紹介

4. 第41回風力エネルギー利用シンポジウムの開催

- ・主 催：日本風力エネルギー学会
- ・協 賛：日本小形風力発電協会、日本風力発電協会 (五十音順)
- ・後 援：産業技術総合研究所、新エネルギー・産業技術総合開発機構、新エネルギー財団、ターボ機械協会、日本科学技術振興財団、日本風工学会、日本太陽エネルギー学会、日本電機工業会、風力発電推進市町村全国協議会 (五十音順)
- ・開 催 日：12月4日～5日
- ・開催場所：科学技術館／東京
- ・参加者数：400名
- ・内 容：初日は恒例の官公庁からの講演5件のほか、「製品開発と市場展望」、「学会からの報告」として7件の講演が行われた。二日目は口頭が71件(口頭とポスター発表の併用10件を含む)と、ポスターのみが2件の合計73件の発表が行われた。

5. 見学会の開催

- ・本会主催見学会：10月15日に株式会社日立製作所の風力発電機組立工場である埠頭工場及び歴史博物館(小平記念館)を訪問した。学生1名を含む55名が参加した。

6. 学会研究会の実施

- ・「空中風力発電研究会」および「ブレード技術研究会」の2つの研究会が活動を開始した。

7. 第14回再生可能エネルギー世界展示会&フォーラム及び第8回国際風力発電展の開催への協力

- ・パシフィコ横浜で開催の第14回再生可能エネルギー&フォーラムにおいて、7月12日に分科会5(風力エネルギー)の吉田理事の開会挨拶後に石原会長が「世界の洋上風力発電の現状と将来展望」について講演するとともに、

併設の世界展示会(7月10日～12日)においては本会のPRブースを出展した。

・2月26日～28日に青海展示棟で開催の第8回国際風力発電展において、本会のPRブースを出展した。

8. 国内外の風力関連イベントへの参加

日時	場所	イベント名	関係	活動	JWEA 理事の参加
2019 年 4/2-4	スペイン Bilbao	WindEurope Conference & Exhibition		出席	荒川理事, 安田理事, 上田理事が参加(安田理事はポスター発表)
4/3-4	スペイン Bilbao	GWEC 世界統計発表会 GWEC 理事会&総会		出席	GWEC 理事会に上田理事が日本代表として出席
4/24-25	台湾 台北	Global Offshore Wind Summit in Taiwan(GWEC 洋上 TF を併催)		出席	GWEC 洋上 TF に上田理事が日本代表として出席
4/25	中国 上海	Asian Offshore Wind Power Industry Development International Forum		講演	松信理事が講演
5月-10月	日本各地で 計 29 件	グローバル・ウインドデイ行事 (JWPA と協力して実施)	協力	支援	風車見学会や出前授業, 風車工作教室等の活動をサポート
5/18	福岡県 北九州市	北九州市立大学主催の風力発電市民 講座		講義	上田理事が出前授業
6/18	東京都	ドイツと日本の再生可能エネルギー オフショア風力発電プロジェクト・ ソリューション		後援	(主催:在日ドイツ商工会議所)
6/27-28	栃木県 足利大学	第 20 回風力エネルギー利用総合セ ミナー	後援	出席 講演	石原会長, 永尾副会長, 本田理事、安 田理事, 吉田監事が発表
7/8-9	福岡県 北九州市	NEDO-CDTI 合同ワークショップ 洋上風力発電の次世代技術		講演	吉田理事が講演
7/10-12	神奈川県 横浜	第 14 回再生可能エネルギー世界展 示会&フォーラム	協賛	出席 出展	石原会長, 吉田理事, 飯田理事が参 加(石原会長は講演)
7/24-25	イギリス London	GWEC at Global Offshore Wind 2019		出席	GWEC 洋上 TF に上田理事が日本代表 として出席
7/27-28	東京都	青少年のための科学の祭典 全国大 会		出展	今村理事が風車工作教室を出展
8/7	東京都	風力発電推進市町村全国協議会		出席	三保谷副会長
8/7-8	大阪府 関西大学	第 28 回日本エネルギー学会大会	協賛		(主催:日本エネルギー学会)
8/10-11	東京都	第 25 回流れの不思議展	協賛		(主催:日本機械学会 流体工学部 門)
10/10-11	北海道 せたな町	第 20 回全国風サミット in せたな	共催	講演	前田副会長が交流会で挨拶し, 出野 監事が講演
10/12-14	東京都	東京タワー・キッズ環境科学博士 2019	後援		(主催:株式会社東京タワー)
10/16-18	青森県 青森市	日本太陽エネルギー学会研究発表会 2019	協賛	講演	本田理事が講演
10/22-24	中国 北京	China Wind Power 2019 (併設 GWEC 理事会)		出席	GWEC 理事会に上田理事が日本代表 として出席
10/31-11/1	福岡県 北九州市	JWPA10周年記念 洋上風力シンポジ ウム		講演	石原会長, 赤星理事が講演 上田理事も期成会向けに講演
11/3	千葉県 習志野市	第 12 回風力発電コンペ WINCOM2019 (日本大学主催)	後援	出席	赤星理事が審査員として出席して、 長井浩記念賞を授与
11/17～22	東京都	日本ガスタービン学会 2019	協賛		(主催:日本ガスタービン学会)
11/20	秋田県	秋田県秋田風力発電コンソーシアム		講演	飯田理事が講演

	秋田市	「秋田風作戦」講演会			
11/27	ブラジル Rio de Janeiro	WWEA2019 Conference		出席	荒川理事が副会長に再選
12/6	福岡県 北九州市	第 10 回 九州パワーアカデミー研究 部会シンポジウムでの出前授業		講義	上田理事が出前授業
12/6-7	福岡県 北九州市	私立明治学園（中学校）		講義	上田理事が出前授業
12/13	福岡県 北九州市	北九州市主催の風力発電事業に関す る社会人向け出前授業		講義	上田理事が出前授業
12/17, 19	福島県 いわき市	福島高等専門学校 再生可能エネル ギー講義		講義	飯田理事が出前講義
2020 年 1/27	佐賀県 佐賀市	再生可能エネルギー等イノベーション 共創プラットフォーム		講演	松信理事が講演
2/18	埼玉県 久喜市	久喜工業高校講義		講演	飯田理事が講演
2/20	長崎県 壱岐市	壱岐市洋上風力発電等導入検討 協議会・勉強会		講演	永尾副会長が講演
2/24	和歌山県 田辺市	令和元年度和歌山県海洋再生可能エ ネルギー(洋上風力発電)フォーラム		講演	飯田理事が講演
2/26-28	東京都	第 8 回風力発電展 WindExpo 2020	後援	展示	

9. 表彰の実施

- ・ 本会の総会及び日本大学主催の風力発電コンペ WINCOM2019 において、以下のとおり各賞の表彰を行った。
 - ・ 令和元年度総会（5 月 28 日）
 - 功労賞：片野俊雄氏、坂野俊紀氏
 - 論文賞：川島泰史氏ほか
 - 優秀発表賞：佐伯真於氏、清水悠正氏、分山達也氏
 - ポスター賞：川端浩和氏ほか、竹山優子氏ほか、藤本修平氏ほか(ベストポスター賞)
 - ・ 第 12 回風力発電コンペ WINCOM2019（11 月 3 日）
 - 日本風力エネルギー学会 長井浩記念賞：蕨市立第一中学校チーム（中学・高校生の部）

10. 学会誌、論文集、予稿集を J-STAGE に掲載

- ・ 学会誌及び論文集(通巻 128 号まで)、シンポジウム予稿集(第 40 回まで)の電子化と J-STAGE での定期的な公開を通じて、本会のプレゼンスを向上するとともに、会員の記事や論文を広く公開することにより、引用数の増加及び業績評価にも貢献した。

11. ホームページの充実

- ・ 本会ホームページ内容等について、更新・修正を行った。

12. 会員の状況(令和 2 年 3 月 31 日現在の会員数)

- ・ 特別団体会員：14 団体（前年度末 12 団体）
 - 會澤高圧コンクリート(株)、M&T(株)、清水建設(株)、ゼネラル・エレクトリック・インターナショナル・インク、電源開発(株)、東芝エネルギーシステムズ(株)、(一財)日本海事協会、日本風力エネルギー(株)、(株)日立製作所、日立造船(株)、ベスタス・ジャパン(株)、(株)北拓、三菱重工業(株)、(株)ユーラスエナジーホールディングス
- ・ 団体会員：89 団体（前年度末 87 団体）
- ・ 個人会員：376 名（前年度末 361 名）
- ・ 学生会員：40 名（前年度末 43 名）
- ・ 特別会員：8 名（前年度末 7 名）
- ・ 海外会員：1 名（前年度末 2 名）
- ・ 名誉会員：6 名（前年度末 6 名）
- ・ 購読会員：9 名（前年度末 7 名）

日本風力エネルギー学会 2018(平成30)年度 事業報告

(自：2018(平成30)年4月1日 至：2019(平成31年)3月31日)

(特記事項)

I. 風力発電の国内外動向

経済産業省は、2018年7月3日に閣議決定された「第5次エネルギー基本計画」において、2030年と2050年に向けた対応として、温室効果ガス排出量を2013年度比で26%(2030年)と80%(2050年)それぞれ削減するため、風力発電を含む再生可能エネルギーに対して経済的に自立し脱炭素化した主力電源化を目指すことが謳われています。また、2019年4月1日に「海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律」が施行され、国の主導により洋上風力発電占有海域を確保する方向性が示されました。これらを踏まえ、これまで以上に風力エネルギーの導入に弾みがつくものと考えられます。

世界の風力発電導入量は2018年末に約59,100万kWに達していますが、我が国の風力発電の導入量は約365万kWで、世界の0.6%程度に留まっています。風力発電の認定設備容量は、固定価格買取制度(FIT)が導入されて以降、2018年3月末までに653万kWとなっていますが、その15%程度が導入されているに過ぎないこと、また、環境アセスメントの実施案件は2019年3月29日の時点で約2,186万kWもあることから、計画中の風力発電設備が確実に建設されれば、大幅な導入が期待されます。一方、2018年8月と9月には台風による風車の事故が発生しました。

このような情勢においては、風力発電の信頼性向上とコスト低減のために多くの技術開発が必要です。設備利用率の向上とコスト低減を達成し、風力発電の事業性を確保・増大させるためには今後、ますます本会関係者の活躍が期待されます。

II. 本会の活動

2018年度には、新たに2社の特別団体会員が加わり、12社となりました。学会の新たな取り組みとして、ブレード技術研究会と空中風力発電研究会を創設するとともに、会員の研究業績を讃えるための学会賞と研究奨励賞を立ち上げました。さらに、風力エネルギー利用シンポジウムでは人材育成の観点から引き続き英語セッションを設置するとともに、本会のPR・会員の募集を目的とした第13回再生可能エネルギー世界展示会及び第7回国際風力発電展に出展しました。また、これまでと同様にホームページの充実、2017年までの学会誌・論文集及び風力エネルギーシンポジウム予稿集のJ-STAGEへの公開、人材バンクの整備等、会員サービスの向上に努めるとともに、風力エネルギーに関する啓発活動の一環として、製品評価技術基盤機構殿及び駒井ハルテック殿のご協力を得て、「蓄電池評価センター」と「大阪事業所風車製造工場」の見学会を開催しました。このように、2018年度は学会活動を活発化させて、広く会員サービスに努めることができました。関係各位のご協力とご援助に感謝します。

(今後に向けて)

今年度は、本会の取り組むべき方向性として、社会貢献・人材育成・学会活動の活性化・研究促進の見地から、これまでの取り組みを継続するとともに、若手スクールの開設、研究会の活性化、風力エネルギー教材の作成等に取り組めます。

本会は、風力発電のさらなる導入拡大に貢献するとともに、風力エネルギー分野の一層の発展を目指します。会員各位の一層のご理解、ご援助とご協力をお願いする次第です。

(概略報告/総括)

1. 総会、代表委員会、理事会の開催

- ・総会は、5月28日に開催し、平成29年度事業報告、収支報告、監査報告について審議承認をいただき、平成30年度の事業計画、収支予算について報告・承認された。
- ・代表委員会は、5月28日の総会前に開催し、NEDO受託研究や総会の議案内容について報告するとともに、理事との懇談会にて各委員会からの報告と意見交換及び風車教育機材に関する講習会を行った。
- ・理事会は、計7回(4月20日、5月28日、7月25日、9月14日、11月16日、1月11日、3月8日)開催し、各種議案を討議した。

2. 委員会等の開催

- ・全体：前年度に引き続き、風力エネルギー学会規定の更新を行った。
- ・企画・運営委員会：見学会及び第40回風力エネルギー利用シンポジウムを開催するとともに、再生可能エネルギ

一世界展示会・国際風力発電展に出展した。学会創立 40 周年記念行事で提案された新しい試みとして、研究の振興を図る「研究会」と、普及啓発を目的とした「人材バンク」を取り上げ、来年度からの本格的実施を目指して一部試行的に実施した。

- ・**編集委員会**: 6 回の委員会及び 4 回の準備会を開催、特集の企画や学会誌・論文集の編集方針等について検討した。新たに「風車とカメラ」の連載を始めた。学会誌は予定通り 4 回発行し、特集の内容は後述する「学会誌・論文集の発行」の通りである。
- ・**学術・事業委員会**: 前年度に引き続き、風力エネルギーハンドブック研究会において Wind Energy Handbook(第 2 版)の翻訳を完了した。なお、発刊と講習会は次年度に延期することとした。
- ・**国際・広報委員会**: 原則として毎月第 2 木曜日に日本風力発電協会の国際部会と合同で、計 11 回開催した。国際会議に参加して複数回の発表を実施した。海外団体(GWEC(世界風力会議)と WWEA(世界風力エネルギー協会))との交流(理事会等への出席)と協力(日本のニュースと統計データの提供)を行った。GWEC 行事のグローバル・ウインドデイは 11 回目を迎え、日本も過去最多の 40 件を開催、過去のイベント累計は 100 件・参加者累計は 1 万人を越えた。出前授業も約 10 件実施した。
- ・**表彰委員会**: 本会規程に基づき、功労賞、論文賞、優秀発表賞及びポスター賞の表彰を実施した。また、学会外においても、本会が後援する風力発電コンペ(WINCOM2018)において「日本風力エネルギー学会長井浩記念賞」の趣旨紹介と表彰を行った。今年度は委員会を 7 回、作業会を 7 回開催し、新たな表彰(学会賞、研究奨励賞)の表彰対象者の考え方について整理し、表彰規程等の改正を実施した。
- ・**論文委員会**: 論文審査に関わる事項や論文賞候補の選考は随時メール審議を開催している。平成 30 年度は投稿論文 10 件を審査した(内 7 件掲載、3 件審査中・返却等)。なお、平成 30 年度は前年からの審査持ち越し 2 件を含め 9 件の論文を論文集に掲載した。

3. 学会誌・論文集の発行(第 42 巻)

- ・第 1 号(通巻 125 号) Vo. 42 No. 1 2018 年 5 月発行 800 部
特集: 風況観測とデータ解析、日本風力エネルギー学会 40 周年記念企画(続き)
- ・第 2 号(通巻 126 号) Vo. 42 No. 2 2018 年 8 月発行 800 部
特集: 洋上風力: 風車・港湾・船舶・工法
- ・第 3 号(通巻 127 号) Vo. 42 No. 3 2018 年 11 月発行 800 部
特集: 人材育成とメンテナンス
- ・第 4 号(通巻 128 号) Vo. 42 No. 4 2019 年 3 月発行 800 部
特集: 系統容量最大活用のための風車連系技術と最新動向

4. 第 40 回風力エネルギー利用シンポジウムの開催

- ・主 催: 日本風力エネルギー学会
- ・協 賛: 日本小形風力発電協会、日本風力発電協会 (五十音順)
- ・後 援: 産業技術総合研究所、新エネルギー・産業技術総合開発機構、新エネルギー財団、ターボ機械協会、日本科学技術振興財団、日本風工学会、日本太陽エネルギー学会、日本電機工業会、風力発電推進市町村全国協議会 (五十音順)
- ・開 催 日: 12 月 4 日・12 月 5 日
- ・開催場所: 科学技術館/東京
- ・参加者数: 394 名(昨年より 29 名増加)
- ・内 容: 初日は恒例の官公庁からの講演 5 件のほか、「世界と日本の風力市場」、「学会からの報告」として 2 テーマについて講演が行われた。二日目は口頭が 80 件と、ポスターのみが 5 件の合計 85 件の発表が行われた。

5. 見学会の開催

- ・本会主催見学会: 9/25 大阪市にある(独法)製品評価技術基盤機構蓄電池評価センターシステム試験設備と(株)駒井ハルテック風車工場を訪問した。学生 12 名を含む 32 名が参加した。

6. 学会研究会の準備と試行

- ・研究会として「空中風力発電研究会」と「ブレード技術研究会」の 2 つを立ち上げ、実施方法の検討、規約の整備、学会誌等による会員公募を行った。その中で空中風力発電研究会は試行的に活動を開始した。

7. 再生可能エネルギー 2018 国際会議(併設第 13 回再生可能エネルギー世界展示会)及び第 7 回国際風力発電展の開催への協力

- ・6月17日～22日にパシフィコ横浜で開催のグランド再生可能エネルギー2018 国際会議において石原会長がプログラム委員会共同委員長として参画するとともに、併設世界展示会(6月20日～22日)においては本会のPRブースを出展した。
- ・2月27日～3月1日に東京ビッグサイトで開催の第7回国際風力発電展において、本会のPRブースを出展するとともに、専門技術セミナーには本会として協力し、28日には松信理事が「東アジアの風力市場と産業界動向」、1日には飯田理事が「風力発電の稼働率向上メンテナンスと人材育成」について、それぞれ講演を行った。本会ブースでは、日本の大学・高専・研究機関の活動をPCとディスプレイを用いて展示したほか、「写真で見る我が国の風力発電の歩み」、と「学会ポスター賞受賞研究」をポスターで展示し、理事から若手に至る学会員が来客に対応した。

8. 国内外の風力関連イベントへの参加

日時	場所	イベント名	関係	活動	JWEA 理事の参加
2018年 5～9月	日本各地で 計30件	グローバル・ウインドデイ行事 (JWPAと協力して実施)	協力	支援	風車見学会や出前授業、風車工作教室等の活動をサポート
4/25～27	フランス Marseille	FOWT2018 浮体式洋上風力世界会議			上田理事が参加
5/7～10	アメリカ Chicago	AWEA Windpower 2018		出席	GWEC 理事会に上田理事が日本代表として出席
6/17～22	神奈川県 横浜市	Grand Renewable Energy 2018 Conference & Exhibition	共催		石原会長が組織委員、多数の理事が参加
6/19・20	イギリス Manchester	Global Offshore Wind 2018			荒川理事が参加
6/28	東京	風力発電推進市町村全国協議会		出席	三保谷副会長
6/28・29	栃木県 足利大学	風力エネルギー利用総合セミナー (第19回)	後援	Oral	石原会長と上田・飯田・安田理事が発表
7/28・29	東京	科学の祭典 全国大会 2018		出展	今村理事が風車工作教室を出展
8/8・9	東京	日本エネルギー学会大会 (第27回)	協賛		(日本エネルギー学会主催)
8/11・12	東京	流れの不思議展 (第24回)	協賛		(機械学会主催)
9/25～28	大阪	関西 WindExpo 2018 (第2回)	後援	Oral	安田理事が講演。
9/25～28	ドイツ Hamburg	WindEurope Summit 2018 & WindEnergy Hamburg		Oral	上田理事が Oral 発表、 荒川理事他が参加
10/6～8	東京	東京タワー・キッズ環境科学博士 2018	後援		(東京電波塔株式会社主催)
11/4	千葉県 習志野市	風力発電コンペ WINCOM2018 (日本大学主催)	後援	出席	赤星理事が審査員として出席して、 長井浩記念賞を授与
11/7～9	島根県 松江市	日本太陽エネルギー学会・日本風力エ ネルギー学会合同研究発表会 2018	共催		
11/13～16	東京	日本地熱学会 学術講演会 H30 年	後援		(日本地熱学会主催)
11/17～22	東京	日本ガスタービン学会 2018	協賛		(日本ガスタービン学会主催)
11/28・29	パキスタン Karachi	WWEC2018		出席	WWEA 理事会に荒川理事が日本代表として出席
11/30	オランダ Amsterdam	GWEC 理事会		出席	上田理事が日本代表として出席
12/1	東京	風に関するシンポジウム (第60回)	共催		(気候影響・利用研究会と共催)
2019/1/24	東京	5th Asia Offshore Wind Day in Tokyo		Oral	上田理事が Oral 発表
2/27～3/1	東京	WindExpo 2019 (第7回)	後援	Oral	松信・飯田理事が専門セミナーで発表

9. 表彰の実施

- ・本会の総会及び日本大学主催の風力発電コンペ WINCOM2018 において、以下のとおり各賞の表彰を行った。
 - ・平成30年度総会(5月28日)
 - 功労賞：江口英範氏、遠藤 昭氏、菊山功嗣氏、谷垣三之介氏

論文賞：榎屋治紀氏

優秀発表賞：一柳絵美氏、加藤茉莉氏、森山喬史氏

ポスター賞：斎藤亮太氏ほか、嶋田進氏ほか(ベストポスター賞)、和田光樹氏ほか

・第 11 回風力発電コンペ WINCOM2018 (11 月 4 日)

日本風力エネルギー学会 長井浩記念賞：山形県立山形工業高校 引率教員チーム YAMAKAO-T-2018

10. 学会誌、論文集、予稿集を J-STAGE に掲載

- ・学会誌及び論文集(通巻 123 号まで)、シンポジウム予稿集(第 39 回まで)の電子化と J-STAGE での定期的な公開を通じて、本会のプレゼンスを向上するとともに、会員の記事や論文を広く公開することにより、引用数の増加及び業績評価にも貢献した。

11. 人材育成と風力発電の出前授業活動

- ・風力エネルギー啓発について社会からの要請に応えるための仕組みとして「人材バンク」の運用方法、派遣候補者について検討し、来年度から実施できる準備を行った。

12. ホームページの充実

- ・本会ホームページ内容等について、更新・修正を行った。

13. 会員の状況(平成 31 年 3 月 31 日現在の会員数)

- ・特別団体会員：12 団体（前年度末 10 団体）
M&T(株)、清水建設(株)、Svendborg Brakes ApS、ゼネラル エレクトリック インターナショナル、電源開発(株)、東芝エネルギーシステムズ(株)、(一財)日本海事協会、(株)日立製作所、日立造船(株)、(株)北拓、三菱重工業(株)、(株)ユーラス エナジー ホールディングス
- ・団体会員：87 団体（前年度末 72 団体）
- ・個人会員：361 名（前年度末 360 名）
- ・学生会員：43 名（前年度末 43 名）
- ・特別会員：7 名（前年度末 5 名）
- ・海外会員：2 名（前年度末 2 名）
- ・名誉会員：6 名（前年度末 6 名）
- ・購読会員：7 名（前年度末 8 名）

日本風力エネルギー学会 2017(平成 29)年度 事業報告

(自：2017(平成 29)年 4 月 1 日 至：2018(平成 30 年)3 月 31 日)

(特記事項)

I. 風力発電の国内外動向

経済産業省は、今年 4 月 10 日に開かれた有識者会議において 2050 年に向けた長期エネルギー戦略の素案を示しました。ここでは、温暖化対策の国際枠組み「パリ協定」において長期目標としている 2050 年を視野に置いたもので、「脱炭素化」を掲げ、原子力発電は脱炭素化の選択とし依存度を低減する方針とともに、再生可能エネルギーは「経済的に自立した主力電源化を目指す」と明記されています。これを踏まえ、これまで以上に風力エネルギーの加速的な導入を図らねばなりません。

世界の風力発電導入量は 2017 年末に約 53,960 万 kW に達していますが、我が国の風力発電の導入量は約 340 万 kW で、世界の 0.6%に留まっています。風力発電の認定設備容量は、固定価格買取制度(FIT)が導入されて以降、2017 年 3 月末までに 697 万 kW となっていますが、その 10%程度が導入されているに過ぎないこと、また、環境アセスメントの実施案件は 2017 年 11 月の時点で約 1,564 万 kW もあることから、計画中の風力発電設備が確実に建設されれば、大幅な導入が期待されます。一方、認定の仕組みが「設備認定」から「事業計画認定」への変更が検討されており、今まで以上に風況等自然条件の事前調査や適切な保守点検・維持管理の実施が重要であるとともに、中長期的な価格目標として FIT からの自立化が求められています。

このような情勢においては、風力発電の信頼性向上とコスト低減のために多くの技術開発が必要です。設備利用率の向上とコスト低減を達成し、風力発電の事業性を確保・増大させるためには今後、ますます本会関係者の活躍が期待されます。

II. 本会の活動

2017 年度には、新たに 2 社の特別団体会員が加わり、10 社となりました。今年は、本会創設 40 周年を迎え、会員への記念バッジの配布、40 周年記念号(第 123 号)の発刊の他、風力発電の加速的な導入拡大に対する本会の役割を討議した座談会の開設、本会に対する意見・要望等の会員へのアンケート調査等々、多くの行事を実施し、シンポジウムでその結果を発表致しました。また、人材育成の観点からシンポジウムに英語セッションを設置するとともに、本会の PR・会員の募集を目的とした第 6 回国際風力発電展に出展を致しました。さらに、今後の風力発電に係る技術開発のシーズを発掘することを目的とした NEDO 委託調査も実施致しました。また、これまでと同様にホームページの充実、2016 年までの学会誌・論文集及び風力エネルギーシンポジウム予稿集の J-STAGE への公開等、会員サービスの向上に努めるとともに、風力エネルギーに関する啓発活動の一環として、産業技術総合研究所及びエコ・パワー株式会社のご協力を得て福島再生可能エネルギー研究所及び会津若松ウィンドファーム見学会を開催しました。このように、2017 年度は学会活動を活発化させて、広く会員サービスに努めることができました。関係各位のご協力とご援助に感謝します。

(今後に向けて)

今年度は、前述した座談会とアンケート調査の結果からみえてきた本会の取り組むべき方向性として、社会貢献・人材育成・学会活動の活性化・研究促進の見地から、シンポジウムの英語セッションの開設等、昨年度の取り組みを継続するとともに、若手スクールの開設、研究会の立ち上げ、風力エネルギー教材の作成等に取り組めます。

本会は、風力発電のさらなる導入拡大に貢献するとともに、風力エネルギー分野の一層の発展を目指します。会員各位の一層のご理解、ご援助とご協力をお願いする次第です。

(概略報告/総括)

1. 総会、代表委員会、理事会の開催

- ・総会は、5 月 29 日に開催し、平成 28 年度事業報告、収支報告、監査報告について審議承認をいただき、29 年度の事業計画、収支予算について報告・承認された。
- ・代表委員会は、5 月 29 日の総会前に開催し、総会の議案内容について報告するとともに、40 周年記念行事及び学術活動・会員サービスの向上への取り組みに関して意見交換を行った。
- ・理事会は、これまで計 7 回(4 月 17 日、5 月 29 日、7 月 19 日、9 月 14 日、11 月 7 日、1 月 18 日、3 月 9 日)開催し、各種議案を討議した。

2. 委員会等の開催

- ・全体：前年度に引き続き、風力エネルギー学会規定の更新を行った。

- ・ **企画・運営委員会**：「産総研福島再生可能エネルギー研究所」及び「会津若松ウインドファーム」の見学会を開催した。見学会は、国立研究開発法人産業技術総合研究所殿、エコ・パワー株式会社殿の多大な協力を得て行い、北海道、関西を含めて39名が参加した。また、第39回風力エネルギー利用シンポジウムを開催した。例年通り初日は官公庁から国の取り組みに関する基調講演の他、「風力発電の大量導入時代に向けて」と「40周年記念セッション」をテーマとして大学、民間、本会理事からの講演、2日目は一般研究発表の場に、新たに人材育成の観点から英語セッションを設けて、学術論文発表が行われた。参加者は2日間全体で365名であった。さらに、平成30-31年度役員選挙のために、代表委員選挙および理事選挙を行った。
- ・ **編集委員会**：7回の委員会及び3回の準備会を開催、40周年記念号の企画や学会誌・論文集の編集方針等について検討した。なお、40周年記念号は「日本風力エネルギー学会この10年間 これからの10年間」の特集を組んで、第123号に掲載した。学会誌は予定通り4回発行した。学会誌の特集の内容は、後述する「学会誌・論文集の発行」の通りである。
- ・ **学術・事業委員会**：NEDOより「浮体式洋上風力発電に関する調査」を受託し、関連分野の10人の会員で構成するワーキンググループにて調査を実施した。また、前年度に引き続き、風力エネルギーハンドブック研究会にてWind Energy Handbook（第2版）の翻訳を行った。発刊と講習会は次年度に延期することとした。
- ・ **国際・広報委員会**：原則として毎月第2木曜日に日本風力発電協会の国際部会と合同で、計11回開催した。国際会議に参加して複数回の発表を実施した。海外団体（WWEA（世界風力エネルギー協会）とGWEC（世界風力会議））との交流と協力を行った。特に2017年にはグローバル・ウインドデ이는10周年を迎え、日本も過去最多の34イベントを開催、過去10年の参加者累計は1万人を越えた。出前授業も16件実施した。
- ・ **表彰委員会**：本会規程に基づき、功労賞、論文賞、優秀発表賞、ポスター賞及び出版賞とともに、40周年記念行事の一環として「日本風力エネルギー学会40周年特別表彰」を実施した。また、学会外においても、本会が後援する風力発電コンペ（WINCOM2017）において日本風力エネルギー学会特別賞の表彰とともに、初めての試みとして日本学術振興会賞への推薦を実施した。今年度は委員会を5回、作業会を7回開催し、表彰時期の見直しや新たな表彰（学会賞、研究奨励賞）の創設も含め、本会の表彰制度の在り方について検討するとともに、表彰規程等の改正を実施した。
- ・ **論文委員会**：論文審査に関わる事項や論文賞候補の選考は随時メール審議を開催している。平成29年度は投稿論文13件を審査した（内4件掲載、9件審査中・返却等）。なお、平成29年度は前年からの審査持ち越し2件を含め6件の論文を論文集に掲載した。

3. 学会誌・論文集の発行（第41巻）

- ・ 第1号（通巻121号）Vo. 41 No. 1 2017年5月発行 825部
特集：NEDOプロジェクト「洋上風況観測システム実証研究（洋上風況マップ）の紹介」、
「風力発電設備に関する認証・規格類」
- ・ 第2号（通巻122号）Vo. 41 No. 2 2017年8月発行 800部
特集：IEA Wind TCPにおける取り組み
- ・ 第3号（通巻123号）Vo. 41 No. 3 2017年11月発行 820部
特集：日本風力エネルギー学会この10年間 これからの10年間
- ・ 第4号（通巻124号）Vo. 41 No. 4 2018年3月発行 800部
特集：40周年記念行事

4. 第39回風力エネルギー利用シンポジウムの開催

- ・ 主 催： 日本風力エネルギー学会
- ・ 協 賛： 日本小形風力発電協会、日本風力発電協会（五十音順）
- ・ 後 援： 産業技術総合研究所、新エネルギー・産業技術総合開発機構、新エネルギー財団、ターボ機械協会、
日本科学技術振興財団、日本風工学会、日本太陽エネルギー学会、日本電機工業会、風力発電推進
市町村全国協議会（五十音順）
- ・ 開 催 日： 12月6日・12月7日
- ・ 開催場所： 科学技術館／東京
- ・ 参加者数： 365名

5. 再生可能エネルギー2017 国際フォーラム及び、第6回国際風力発電展（第12回再生可能エネルギー世界展示会内）の開催への協力

- ・ 7月5日～7日にパシフィコ横浜で開催の再生可能エネルギー2017 国際フォーラムにおいて、本会のPRブースを出展するとともに、5日の風力フォーラム（「風力発電がかかえる課題と期待をつぶさに紹介」）には本会として協力し、石原孟会長が「日本風力エネルギー学会の取り組み」、上田悦紀理事（国際広報委員長）が「国内外の風力発

電導入状況の紹介」について、それぞれ講演を行った。

- ・2月28日～3月2日に東京ビッグサイトで開催の第6回国際風力発電展同展示会（第12回再生可能エネルギー世界展示会内）において本会のPRブースを出展するとともに、専門技術セミナーには本会として協力し、28日には石原孟会長が「日本における浮体式洋上風力開発の最新動向」、1日には安田陽理事が「風力発電をめぐる系統連系の最新動向～何が問題で、なぜ問題になるのか」について、それぞれ講演を行った。

6. 風力関連学会の国際会議への本会役員等の参加協力等

- ・ AWEA Windpower 2017 (GWEC 理事会を併催) 2017 5/22～25 米国・アナハイム (上田理事が参加)
- ・ Offshore Wind Energy 2017 2017 6/6～8 英国・ロンドン (荒川理事が参加)
- ・ WWEC2017 (WWEA 理事会を併催) 2017 6/12～15 スウェーデン・マルメ (荒川理事が組織委員)
- ・ RE2017 第12回再生可能エネルギー世界展示会・風力フォーラム 2017 7/5～7 横浜市 (石原会長・上田理事が発表)
- ・ 関西 WIND EXPO 2017 (風力市町村協議会の風力シンポを併催) 2017 9/20～22 大阪 (石原会長が発表)
- ・ China Wind Power 2017 (GWEC 洋上 Workshop を併催) 2017 10/17～19 中国・北京 (上田理事が参加)
- ・ WindEurope Summit 2017 (GWEC 理事会を併催) 2017/11/27-30 オランダ・アムステルダム (上田理事が参加)
- ・ 3rd Asia Offshore Wind Day in Tokyo 2018 1/25 東京都 (上田理事が発表)
- ・ WIND EXPO 2018 2018 2/28～3/2 東京都 (石原会長が発表)

7. 見学会の実施と参加

- ・ 本会主催見学会：10/6 産業技術総合研究所「福島再生可能エネルギー研究所」及びエコ・パワー㈱「会津若松ウインドファーム」の見学

8. 風力利用事業に関する助言等普及啓発活動

- ・ 風力発電推進市町村全国協議会 (6/28) (三保谷副会長が参加・挨拶)
- ・ 青少年のための科学の祭典 2017 全国大会 (科学技術館) に出展 (ウインドデイ行事を兼ねる) 7/29～30 東京都 (今村理事が参加)

9. 国内の風力関連事業への支援 末尾の括弧内は JWEA の支援形態を示す。

- ・ ISWL2017 (International Symposium on Winter Lightning) 2017 4/12～14 上越市 (電力中央研究所・東京大学) (協賛)
- ・ 世界ウインドデイの一環の日本行事 2017 4月～10月 (日本風力発電協会と共同実施)
- ・ 第18回風力エネルギー利用総合セミナー 2017 6/29・30 (足利工業大学総合研究センター) (後援)
- ・ 第12回再生可能エネルギー世界展示会 2017 7/5～7 パシフィコ横浜 (再生可能エネルギー協議会/展示会へ出展、世界会議等への協力) (協賛)
- ・ 第26回日本エネルギー学会大会 2017 8/1・2 名古屋市 (日本エネルギー学会) (協賛)
- ・ 第23回流れのふしぎ展 2017 8/17・18 東京都 (日本機械学会) (協賛)
- ・ WIND EXPO 2017 第1回関西風力発電展 2017 9/20～22 大阪市 (リード エグジビション ジャパン (株)) (後援)
- ・ 風力発電シンポジウム「地域社会と風力発電」 2017.9/22 大阪市 (風力発電推進市町村全国協議会、日本風力発電協会) (後援)
- ・ 日本地熱学会 平成29年学術講演会 2017 10/18～20 函館市 (日本地熱学会) (協賛)
- ・ 平成29年度日本太陽エネルギー学会・日本風力エネルギー学会合同研究発表会 2017 10/25・26 長岡市 (共催)
- ・ 第10回風力発電コンペ WINCOM2017 2017 11/5 習志野市 (日本大学生産工学部) (後援)
- ・ 第1回講習会 2017 11/24 東京都 (エネルギー・資源学会) (協賛)
- ・ WIND EXPO 2018 第6回国際風力発電展 2018 2/28～3/2 東京都 (リード エグジビション ジャパン (株)) (後援)
- ・ 国際ワークショップ (WRDM: International Workshop on Wind-Related Disasters and Mitigation) 2018 3/11～14 仙台市 (日本風工学会) (後援)

10. GWEC (世界風力会議)

- ・ GWEC Japan 運営委員会を日本風力発電協会と共同で運営して、研究活動と普及啓発活動に協力した。
- ・ GWEC 協賛の国際イベント (AWEA Windpower 2017、China Wind Power 2017、WindEurope Summit 2017; いずれも理事会等の行事を併設) に参加した。

- ・年次統計 (Global Wind Statistics)、年次報告書 (Global Wind Report)、メルマガ (GWEC News Letter) 等に日本情報を提供した。
- ・GWEC からの情報連絡 (GWEC News Letter、WindLog) を日本の風力関係者に配信した。
- ・世界ウインドデイ行事 (Global Wind Day) の日本行事 34 件の開催に日本風力発電協会と共同で企画・協力した。

1 1. WWEA (世界風力エネルギー協会)

- ・日本支部として、研究活動と普及啓発活動に協力、理事会にも参加した。
- ・WindEurope (欧州風力協会) には年会費高騰により加盟を休止した。
- ・AsiaWEA (アジア風力協会、2016 年 12 月に新規発足) の洋上風力国際会議 (1 月 25 日東京) に初参加した。本学会が加盟する程のメリットは認められず。したがって今後は同団体の台湾洋上風力関係のイベントのみフォローする。

1 2. 表彰の実施

- ・本会の総会、日本大学主催の風力発電コンペ WINCOM2017 及び第 39 回シンポジウムにおいて、以下のとおり各賞の表彰を行った。
 - ・平成 29 年度総会 (5 月 29 日)
 - 平成 29 年度 功労賞：鈴木茂行氏、中村成人氏、松村博久氏
 - 平成 28 年度 優秀発表賞：稲留将人氏、藤本修平氏、湯上訓平氏
 - 平成 28 年度 出版賞：安田 陽氏
 - ・風力発電コンペ WINCOM2017 (11 月 5 日)
 - 日本風力エネルギー学会特別賞：足利工業大学附属高等学校チーム (高校生の部)
 - ・第 39 回風力エネルギー利用シンポジウム (12 月 6 日)
 - 日本風力エネルギー学会 40 周年特別表彰：牛山 泉氏

1 3. 学会誌、論文集、予稿集を J-STAGE に掲載

- ・学会誌及び論文集 (通巻 118 号まで)、シンポジウム予稿集 (第 38 回まで) の電子化と J-STAGE での定期的な公開を通じて、本会のプレゼンスを向上するとともに、会員の記事や論文を広く公開することにより、引用数の増加及び業績評価にも貢献した。

1 4. 風力発電の出前授業活動

- ・一般・学生向けの風力発電の講義を、青森市、福島市、いわき市、新潟市、松戸市、横浜市、大阪市、北九州市、西海市、五島市で実施した。ペットボトル風車の工作教室を、東京都 (科学の祭典)、松戸市、横浜市、横須賀市、五島市で開催した。その多くは日本風力発電協会 (JWPA) と共同でウインドデイ行事として行った。

1 5. ホームページの充実

- ・本会ホームページ内容等について、更新・修正を行った。

1 6. 会員の状況 (平成 30 年 3 月 31 日現在の会員数)

- ・特別団体会員：10 団体 (前年度末 8 団体)
 - 清水建設(株)、Svendborg Brakes ApS、ゼネラル エレクトリック インターナショナル、電源開発(株)、(一財)日本海事協会、(株)日立製作所、日立造船(株)、(株)北拓、三菱重工業(株)、(株)ユーラス エナジー ホールディングス
- ・団体会員：72 団体 (前年度末 65 団体)
- ・個人会員：408 名 (含,学生会員 43 名/特別会員 5 名) (前年度末 429 名 ; 含,学生会員 43 名/特別会員 4 名)
- ・海外会員：2 名 (前年度末 2 名)
- ・名誉会員：6 名 (前年度末 2 名)
- ・購読会員：8 名 (前年度末 8 名)

日本風力エネルギー学会 平成28年度(2016年度) 事業報告

(自：平成28年4月1日 至：平成29年3月31日)

(特記事項)

I. 風力発電の国内外動向

2016年11月に発効したパリ協定には、世界の二酸化炭素排出量の4割以上を占めるアメリカと中国が協定に批准し、深刻化する地球温暖化に対して世界の主要国がともに行動を始めることになりました。今後、パリ協定に対するアメリカの動向が注目されますが、地球温暖化防止のために、これまで以上に風力エネルギーの加速的な導入を図らねばなりません。世界の風力発電導入量は2016年末に486.8GWに達しています。我が国の風力発電の導入量も3.3GWに達しましたが、世界の0.7%に留まっています。一方、現在環境アセスメント中及び終了した案件は約1100万kWもあり、これらの風力発電設備が確実に建設されれば、2020年の初頭に2030年1000万kWの政府目標が達成されると期待されます。

このような情勢においては、風力発電の信頼性向上とコスト低減のために多くの技術開発が必要です。風車定期安全管理検査制度の施行を見据えたハード・ソフトに係るメンテナンス技術の導入と風車や施工に係る技術開発が両輪になって、設備利用率の向上とコスト低減を達成し、風力発電の事業性を確保・増大させて、固定価格買取制度からの自立化を目指すことが重要です。そのためには今後、ますます本会関係者の活躍が期待されます。

II. 本会の活動

平成28年度には新たに2社の特別団体会員が加わり、8社となりました。この1年間、学会支援センターへの業務委託から自前で会員管理等の業務を行うとともに、新たな会計事務所を選定し、会計事務の効率化を図りました。またホームページの充実、2015年までの学会誌・論文集及び風力エネルギーシンポジウム予稿集のJ-STAGEへの公開等、会員サービスの向上に努めてまいりました。さらに、風力エネルギーに関する啓発活動の一環として、三重大大学のご協力を得て風力研究関連施設及び青山高原ウインドファーム見学会を開催するとともに、「風力エネルギーハンドブック」の翻訳をさらに進めました。このように、平成28年度は学会活動を活発化させて、広く会員サービスに努めることができました。関係各位のご協力とご援助に感謝します。

(今後に向けて)

今年は本会創設40周年を迎えます。これを機会に、40周年記念号(第123号)の発刊、シンポジウムにおける記念集会の開設とともに、人材育成の観点からシンポジウムに英語セッションの設置、研究会の立ち上げ、講習会の拡充、風力エネルギー教材の作成等に取り組みます。

本会は、風力発電のさらなる導入拡大に貢献するとともに、風力エネルギー分野の一層の発展を目指します。会員各位の一層のご理解、ご援助とご協力をお願いする次第です。

(概略報告/総括)

1. 総会、代表委員会、理事会の開催

- ・総会は、5月27日に開催し、平成27年度事業報告、収支報告、監査報告について審議承認をいただき、28年度の事業計画、収支予算について報告・承認された。
- ・代表委員会は、5月27日の総会前に開催した。総会の議案内容について報告し、意見交換を行った。
- ・臨時総会を8月18日に開催し、定款の変更(事務所移転登記等の変更)について審議承認をいただき、決算書の一部の誤記修正を報告・承認された。
- ・理事会は、これまで計7回(4月21日、5月27日、7月19日、9月16日、11月7日、1月16日、3月10日)開催し、各種議案を討議した。

2. 委員会等の開催

- ・全体：昨年度に引き続き、風力エネルギー学会規定の更新を行った。
- ・企画・運営委員会：三重大大学の風力研究施設及び青山高原ウインドファームの見学会を開催した。見学会は、青山高原ウインドファーム殿、三重大学殿、日立製作所殿の多大な協力を得て行い、九州、中国、関西を含めて31名が参加した。第38回風力エネルギー利用シンポジウムを開催した。今回は国の取り組みに関する基調講演

の他、「風力発電の競争力強化に向けて」と「人財育成」をテーマとし、全体で 349 名が参加した。また、来年度は日本風力エネルギー協会／学会の設立 40 周年を迎えるため、記念行事の準備を行った。

- ・ **編集委員会**: 理事会のスケジュールにほぼ合わせて 6 回の委員会及び 2 回の準備会を開催、40 周年記念号（第 123 号）の企画や学会誌・論文集の編集方針等について検討した。また、風車教育と人財育成に関する座談会を開催し、120 号の特集として掲載した。学会誌は予定通り 4 回発行した。学会誌の特集の内容は、後述する「学会誌・論文集の発行」の通りである。
- ・ **学術・事業委員会**: 風力エネルギーハンドブック研究会にて、Wind Energy Handbook（第 2 版）の翻訳を行った。ただし完成までには至らなかったため、発刊と講習会は次年度に延期することとした。
- ・ **国際・広報委員会**: 原則として毎月第 2 木曜日に日本風力発電協会の国際部会と合同で、計 11 回開催した。国際会議に参加して複数回の発表を実施した。海外団体（WWEA（世界風力エネルギー協会）と GWEC（世界風力会議））との交流と協力を行った。また、国内イベントと出前授業にも協力した。
- ・ **表彰委員会**: 本会規程に基づき、功労賞、論文賞、優秀発表賞及びポスター賞を選出し表彰した。論文賞は前年度に本会論文集に掲載された論文を対象に、優秀発表賞とポスター賞はシンポジウムにおける口頭発表者とポスター制作者を対象に選定し、功労賞（平成 28 年度）と優秀発表賞（平成 27 年度）は平成 28 年度総会で、論文賞（平成 27 年度）とポスター賞（平成 28 年度）は平成 28 年度シンポジウムで表彰した。また学会外においても、本会が後援するイベントにおいて、日本風力エネルギー学会賞の表彰を行った。今年度は委員会を 3 回、作業会を 8 回開催し、表彰時期の見直し（論文賞、ポスター賞）や新たな表彰の創設も含め、本会の表彰制度の在り方について検討した。
- ・ **論文委員会**: 論文審査に関わる事項や論文賞候補の選考は随時メール審議を開催している。平成 28 年度は投稿論文 13 件を審査した（内 6 件掲載、7 件審査中・返却等）。なお、平成 28 年度は前年からの審査持ち越し 2 件を含め 8 件の論文を論文集に掲載した。

3. 学会誌・論文集の発行（第 40 巻）

- ・ 第 1 号（通巻 117 号）Vo. 40 No. 1 2016 年 5 月発行 850 部
特集：洋上風力発電施設の実験用水槽の紹介
- ・ 第 2 号（通巻 118 号）Vo. 40 No. 2 2016 年 8 月発行 850 部
特集：新役員、学会発展に向けた抱負を語る、風力発電に関連した国内外の風洞設備の紹介
- ・ 第 3 号（通巻 119 号）Vo. 40 No. 3 2016 年 11 月発行 850 部
特集：風力発電関連機器産業調査、中大型風力発電システム仕様一覧表
- ・ 第 4 号（通巻 120 号）Vo. 40 No. 4 2017 年 2 月発行 850 部
特集：風車教育と人財育成

4. 第 38 回風力エネルギー利用シンポジウムの開催

- ・ 主 催： 日本風力エネルギー学会
- ・ 協 賛： 日本小形風力発電協会、日本風力発電協会（五十音順）
- ・ 後 援： 産業技術総合研究所、新エネルギー・産業技術総合開発機構、新エネルギー財団、ターボ機械協会、日本科学技術振興財団、日本風工学会、日本太陽エネルギー学会、日本電機工業会、風力発電推進市町村全国協議会（五十音順）
- ・ 開 催 日： 11 月 30 日・12 月 1 日
- ・ 開催場所： 科学技術館／東京
- ・ 参加者数： 349 名

5. 再生可能エネルギー 2016 国際フォーラムと第 11 回再生可能エネルギー世界展示会の開催への協力

- ・ 6 月 29 日～7 月 1 日にパシフィコ横浜で開催の同展示会において本会の PR ブースを出展するとともに、30 日の風力フォーラム（「躍動する風力発電、最新情報発信」）には本会として協力し、石原孟会長が「風力発電の課題を克服するため学会活動と挑戦」、上田悦紀理事（国際広報委員長）が「世界の風力発電、日本の風力発電、現状と計画」について、それぞれ講演を行った。

6. 風力関連学会の国際会議への本会役員等の参加協力等

- ・ AWEA Windpower 2016 (GWEC 理事会を併催) 2016 5/23～26 米国・ニューオーリンズ (上田理事が参加)
- ・ アジア生産性機構 (APO) 再生可能エネルギー技術ワークショップ 2016 5/14～5/18 イラン・テヘラン (永尾副会長が講義)
- ・ The Dutch Wind Days 2016 6/15 オランダ・ロッテルダム (上田理事が参加)
- ・ RE2016 第 11 回再生可能エネルギー世界展示会・風力フォーラム 2016 6/29～7/1 横浜 (石原会長・上田理事が発表)
- ・ WindEurope Summit 2016 & HamburgMesse 2016 9/27～30 ドイツ・ハンブルグ (上田理事・松信理事が発表、他)
- ・ Global Offshore Wind 2016 2016 6/21・22 英国・ロンドン (荒川理事が参加)
- ・ WWEC2016TOKYO (本会協賛) 2016 10/31～11/2 東京 (荒川理事が組織委員長)
- ・ アジア再生可能エネルギーワークショップ 2016 12/7～12/9 ベトナム・ハノイ (永尾副会長/小垣理事が講演)
- ・ WIND EXPO 2017 第 5 回国際風力発電展 2017 3/1～3 東京ビックサイト (上田理事、吉田監事他が発表や参加)
- ・ FOWT2017 (浮体式洋上風力発電国際会議) 2017 3/15・16 フランス・マルセイユ (荒川理事が発表)

7. 見学会の実施

- ・ 本会主催見学会：10/13 三重大学風力研究関連施設及び青山高原ウインドファーム見学会

8. 風力利用事業に関する助言等普及啓発活動

- ・ 風力発電推進市町村全国協議会 (8/5)、全国風サミット in 珠洲 (10/27～29) (三保谷副会長が参加・挨拶)
- ・ 青少年のための科学の祭典 2016 全国大会 (科学技術館) に出展 (ウィンドデイ行事を兼ねる) 7/30～31 東京 (今村理事が参加)

9. 国内の風力関連事業への支援

- ・ 世界ウィンドデイの一環の日本行事 2016 4 月～9 月 (日本風力発電協会と共同実施)
- ・ 第 17 回風力エネルギー利用総合セミナー 2016 6/23・24 (足利工業大学総合研究センター：後援)
- ・ 第 11 回再生可能エネルギー世界展示会 2016 6/29～7/1 (パシフィコ横浜・再生可能エネルギー協議会：協賛, 展示会へ出展、世界会議等への協力)
- ・ 海洋産業フェスタ in Nagasaki 2016 7/16～18 (長崎県長崎市)
- ・ 第 25 回日本エネルギー学会大会 2016 8/9・10 (日本エネルギー学会：協賛)
- ・ 第 22 回流れのふしぎ展 2016 8/11・12 (日本機械学会：協賛)
- ・ 東京タワー・キッズ環境科学博士 2016 2016 10/8～10 (東京タワー・キッズ環境科学博士 2016 実行委員会)
- ・ 日本地熱学会 平成 28 年学術講演会 2016 10/19～21 (日本地熱学会：協賛)
- ・ 第 19 回全国風サミット in 珠洲 2016 10/27・28 (風力発電推進市町村全国協議会：共催)
- ・ WWEC2016 TOKYO 2016 10/31～11/2 (世界風力エネルギー協会：協賛)
- ・ 第 9 回風力発電コンペ WINCOM2016 2016 11/6 (日本大学生産工学部：後援)
- ・ 平成 28 年度日本太陽エネルギー学会・日本風力エネルギー学会合同研究発表会 2016 11/24・25 (愛媛県松山市：共催)
- ・ 第 24 回「風工学シンポジウム」 2016 12/5～7 (日本建築学会：協賛)
- ・ スマートコミュニティ+IoT World 東北 2017 1/30・31 (スマートコミュニティ+IoT World 東北 実行委員会：後援)
- ・ 第 59 回「風に関するシンポジウム」 2017 3/13 (日本風工学会：共催)

10. WWEA (世界風力エネルギー協会)

- ・ 日本支部として、研究活動と普及啓発活動に協力した。
- ・ WWEC2016 TOKYO (東京、10/31～11/2) に協力した (協賛)。
- ・ WWEA Quarterly Bulletin に日本情報を提供した。

1 1. GWEC（世界風力会議）

- ・ GWEC Japan 運営委員会を日本風力発電協会と共同で運営して、研究活動と普及啓発活動に協力した。
- ・ GWEC 協賛の国際イベント（AWEA Windpower 2016、WindEurope Summit 2016 & HamburgMesse）に参加した。
- ・ 理事会（5/25 ニューオーリンズ）に参加した。
- ・ Sawyer 事務局長来日時（3/7）に交流会を開催した。
- ・ 年次統計（Global Wind Statistics）、年次報告書（Global Wind Report）、メルマガ（GWEC News Letter）等に日本情報を提供した。
- ・ GWEC からの情報連絡（GWEC News Letter、WindLog）を日本の風力関係者に配信した。
- ・ 世界ウィンドデイ行事（Global Wind Day）の日本行事 28 件の開催に日本風力発電協会と共同で企画・協力した。

1 2. 表彰の実施

- ・ 本会の総会、風力エネルギー利用シンポジウム及び日本大学主催の風力発電コンペ WINCOM2016 において、以下のとおり各賞の表彰を行った。
- ・ 平成 28 年度総会（5 月 27 日）
 - 平成 28 年度 功労賞：2 氏（澤田 雅氏、松坂知行氏）
 - 平成 27 年度 優秀発表賞：4 氏（津田実穂氏、菊地由佳氏、村田淳介氏、稲村友彦氏）
- ・ 第 38 回風力エネルギー利用シンポジウム（12 月 1 日）
 - 平成 27 年度 論文賞：1 件（種本 純氏・石原 孟氏）
 - 平成 28 年度 ポスター賞：5 件（菊地由佳氏他、稲留雅人氏他、佐々木隆博氏他、日置史紀氏他、植田祐子氏他）
- ・ 風力発電コンペ WINCOM2016（11 月 6 日）
 - 日本風力エネルギー学会賞：1 件（山形県立山形工業高等学校指導教員チーム）

1 3. 学会誌、論文集、予稿集を J-STAGE に掲載

- ・ 学会誌及び論文集（通巻 116 号まで）、シンポジウム予稿集（第 37 回まで）の電子化と J-STAGE での定期的な公開を通じて、本会のプレゼンスを向上するとともに、会員の記事や論文を広く公開することにより、引用数の増加及び業績評価にも貢献した。

1 4. 風力発電の出前授業活動

- ・ 海洋産業フェスタ in Nagasaki の海洋キッズコーナーのワークショップでミニ風力発電装置製作（7/16～18 長崎市、ウィンドデイ行事を兼ねる）

1 5. ホームページの充実

- ・ 本会ホームページ内容等について、更新・修正を行った。

1 6. 会員の状況（平成 29 年 3 月 31 日現在の会員数）

- ・ 特別団体会員：8 団体（前年度末 6 団体）
- ・ 団体会員：65 団体（前年度末 66 団体）
- ・ 個人会員：429 名（含、学生会員 39 名/特別会員 3 名）（前年度末 430 名；含、学生会員 34 名/特別会員 3 名）
- ・ 海外会員：2 名（前年度末 2 名）
- ・ 名誉会員：2 名（前年度末 2 名）
- ・ 購読会員：8 名（前年度末 8 名）

日本風力エネルギー学会 平成27年度(2015年度) 事業報告

(自：平成27年4月1日 至：平成28年3月31日)

(特記事項)

I. 風力発電の国内動向

我が国における風力発電の設備容量は、平成27年末には300万kWを超えました。平成27年度末の時点で環境アセスメントの手続きが終了もしくは終了間近で、且つ固定価格買取制度の設備認定を受けている案件は、約250万kWあり、それ以外に約600万kWの案件で環境アセスメントの手続きが進められています。これらの風力発電設備が確実に建設されれば、平成42年(2030年)1000万kWの政府目標も早期に達成され、さらなる加速的な導入に繋がるものと思われます。今後、ますます学会関係者の活躍が期待されるところです。

一方、風力発電の導入促進に向けた課題として、“買取制度等支援制度の安定性と早期設備認定制度等の予見性の向上”、“系統接続可能量の拡大”、“環境アセスメントの合理化と規制緩和”及び“風力発電の信頼性の向上とコストの低減”があげられます。今後、以上の課題を確実に解決するとともに、陸上から洋上、安全性から経済性、技術から社会に関わるさまざまな問題に挑戦し、風力発電導入目標設定の高度化、コスト削減等について実行することが必要です。

II. 学会活動

昨年、学会は新事務所の開設と体制強化を図り、会員相互の連絡・親睦、国内外の研究者・研究団体との交流が円滑に行われるようになりました。また特別団体会員として、6社の団体会員からご賛同を頂き、学会活動もより活発化しています。この1年間、会員サービスの向上のため、学会ロゴと学会バッジの製作、パンフレットの更新、ホームページの一新と内容の充実化を図るとともに、2013年までの学会誌・論文集のJ-STAGEへの公開、2009年から2014年までの風力エネルギーシンポジウムの予稿集のホームページへの公開を行いました。さらに風力エネルギーに関する啓発活動の一環として、「風力エネルギーハンドブック」の翻訳を進めるとともに、学会誌に連載されていた記事を「風力発電設備と雷-その影響と対策-」として発刊しました。このように平成27年度は学会活動を活発化させて、広く会員サービスに努めることができました。関係各位のご協力とご援助に感謝します。

(今後に向けて)

昨年新設した特別団体会員をさらに増やし、学会の財務基盤の強化により、学会の広報活動の拡充、学会図書の発刊、講習会の開催、ホームページの充実(学会誌・論文集等のライブラリー化)やe-learningにより、会員へのサービスのさらなる向上を図るとともに、産業界から期待されている風力発電の技術力の向上及び人材育成にも注力します。本学会は、機械工学、建設工学、電気工学のみならず、気象学、環境学、経済学等の分野の人材を有しています。この強みを生かして、我が国の風力発電分野が直面している様々な問題を解決し、風力発電のさらなる導入拡大に貢献するとともに、風力エネルギー分野の一層の発展を目指すべく、会員各位の一層のご理解、ご援助とご協力をお願いする次第です。

(概略報告/総括)

1. 総会、代表委員会、理事会の開催

- ・総会は、5月29日に開催し、平成26年度事業報告、収支報告、監査報告について審議承認をいただき、27年度の事業計画、収支予算について報告・承認された。
- ・代表委員会は、5月29日の総会前に開催した。総会の議案内容について報告し、意見交換を行った。
- ・理事会は、これまで計7回(4月21日、5月29日、7月13日、9月8日、11月5日、1月21日、3月14日)開催し、各種議案を討議した。

2. 委員会等の開催

- ・全体：昨年度に引き続き、風力エネルギー学会規定の更新を行った。
- ・企画・運営委員会：新開発の5MWダウンウィンド風車とかみす洋上発電所の見学会を開催し、52名の参加があった。第37回風力エネルギー利用シンポジウムを開催し、今年のテーマは「風力発電の活性化のために」と「日本風力エネルギー学会からの役割・主張・報告」を選んだ。昨年度に引き続き、過去のシンポジウム予稿集と学会誌をJ-STAGEに入力するとともに、学会ウェブサイトに掲載し、広く利用できる体制を構築した。新しい学会マークを制定し、学会誌やその他の出版物で使用を始めた。これに合わせてバッジを製作し販売した。年度末の学会役員改選に向けて、選挙管理委員会を作り、選挙行程を進めた。
- ・編集委員会：1.に記載された理事会のスケジュールにほぼ合わせて5回の委員会及び7回の準備会を開催、学会誌の編集方針等について検討し、予定通り学会誌を4回発行した。高田吉治氏が執筆された学会誌「風力エネルギー」の連載記事「雷」を単行本化するための検討委員会を1回開催し、風力エネルギー学会としては推薦図書とすることとし、理事会で承認された。18.にあるように、単行本は「風力発電設備と雷-その影響と対策-」として成山堂書店より平成27年10月28日に発刊された。学会誌の特集の内容は、3.学会誌の発行の通り

である。

- ・ 学術・事業委員会：風力エネルギーハンドブック研究会にて、Wind Energy Handbook の翻訳を行った。ただし完成までには至らなかったため、発刊と講習会は次年度に延期することとした。
- ・ 国際・広報委員会：原則として毎月第2木曜日に日本風力発電協会の国際部会と合同で開催。計10回（4月9日、5月14日、6月11日、7月9日、9月10日、11月12日、12月10日、1月14日、2月12日、3月10日）開催した。7.項に示す国際会議に参加して複数回の発表を実施した。海外団体（11. WWEA（世界風力エネルギー協会）と12. GWEC（世界風力会議））との交流と協力を行った。また国内イベント（10.）と出前授業（15.）にも協力した。
- ・ 表彰委員会：学会規程に基づき、功労賞、論文賞、奨励賞及びポスター賞を選出し表彰した。論文賞は前年度に学会誌「風力エネルギー」に掲載された論文を対象に、奨励賞とポスター賞はシンポジウムにおける口頭発表者とポスター制作者を対象に選定し、功労賞と奨励賞(H26)は平成27年度総会で、論文賞(H26)とポスター賞(H27)は平成27年度シンポジウムで表彰した。また学会外においても、学会が後援するイベントにおいて、日本風力エネルギー学会賞の表彰を行った。今年度は委員会を3回開催し、新たな表彰の創設も含め、本学会の表彰制度の在り方について検討した。
- ・ 論文委員会：論文審査に関わる事項や論文賞候補の選考は随時メール審議を開催している。27年度は一般投稿論文16件を審査した（内7件掲載、9件審査中・棄却等）。なお27年度は前年からの審査持ち越し2件を含め9件の論文を論文集に掲載した。

3. 学会誌の発行（第39巻）

- ・ 第1号（通巻113号）Vo. 39 No. 1 2015年5月発行 850部
特集：Grand RE2014 国際会議「風力分野」での推薦論文-その2
- ・ 第2号（通巻114号）Vo. 39 No. 2 2015年8月発行 850部
特集：国内外における風力発電の系統連系 最新情報を探る
- ・ 第3号（通巻115号）Vo. 39 No. 3 2015年11月発行 850部
特集：「風力発電関係、最近公開されたナショナルプロジェクトをまとめて紹介(NEDO 編)」
- ・ 第4号（通巻116号）Vo. 39 No. 4 2016年2月発行 850部
特集：NEDO ナショナルプロジェクト平成26年度成果報告「10MW 超級風車の調査研究」の全体概要紹介

4. 風力エネルギー利用シンポジウムの開催(第37回)

- ・ 主 催： 日本風力エネルギー学会
- ・ 協 賛： 日本小形風力発電協会、日本風力発電協会（五十音順）
- ・ 後 援： 産業技術総合研究所、新エネルギー・産業技術総合開発機構、新エネルギー財団、ターボ機械協会、日本科学技術振興財団、日本風工学会、日本太陽エネルギー学会、日本電機工業会、風力発電推進市町村全国協議会（五十音順）
- ・ 開 催 日： 11月26・27日
- ・ 開催場所： 科学技術館／東京
- ・ 参加者数： 338名

5. 研究会の開催

- ・ 外部受託研究の「浮体式洋上風力発電基盤調査」について、ワーキングを設置して実施した。

6. 再生可能エネルギー2015 国際フォーラムと第10回再生可能エネルギー世界展示会の開催への協力

- ・ 7月29日～31日に東京ビッグサイトで開催の同展示会において学会のPRブースを出展するとともに、31日の風力フォーラム（「風力発電大幅導入、そのブレークスルーとは何か？」）には学会として協力し、石原会長が「洋上風力発電の開発と今後の展望」について講演を行った。

7. 風力関連学会の国際会議への学会役員等の参加協力等

- ・ International Wind Power Conference 2015 (IWPC2015) 3/31～4/2 トルコ イスタンブール (GWEC 理事会 3/31)
- ・ 日本・ノルウェーエネルギーサイエンスウィーク 2015 5/27 東京 (洋上風力分科会プログラム)
- ・ RE2015 世界展示会 7/29～31 東京
- ・ APEC Workshop on Local Content Requirements in Energy 10/7・8 ベトナム ハノイ (エネルギー機器の現地調達率規制に関する APEC の検討会)
- ・ China Wind Power 2016 (CWP2015) 10/13～16 中国 北京 (GWEC 理事会 10/13)
- ・ WWEC2015 10/26～28 イスラエル エルサレム (WWEA 理事会が併催)
- ・ EWEA2015 11/17～20 フランス パリ
- ・ WindExpo2016 3/2～4 東京

8. 見学会の実施

- ・JWEA 主催見学会：8/24 日立 5MW ダウンウィンド風車とウィンドパワーかみす洋上発電所見学会 茨城県神栖市

9. 風力利用事業に関する助言等普及啓発活動

- ・風力発電推進市町村全国協議会(7/1)、全国風サミット in 庄内(10/21～23)に参加・挨拶
- ・青少年のための科学の祭典(科学技術館)に出展(ウィンドデイ行事を兼ねる) 7/25～26 千代田区/東京

10. 国内の風力関連事業への支援

- ・第16回風力エネルギー利用総合セミナー 6/25・26(足利工業大学総合研究センター：後援)
- ・第10回再生可能エネルギー世界展示会 7/29～31 東京ビッグサイト(再生可能エネルギー協議会：協賛)
展示会へ出展、世界会議等への協力
- ・世界ウィンドデイの一環の日本行事 6月～8月 全国3か所(日本風力発電協会と共同実施)
- ・第24回日本エネルギー学会大会 8/3・4(日本エネルギー学会：協賛)
- ・第21回流れのふしぎ展 8/11・12(日本機械学会：協賛)
- ・東京タワー・キッズ環境科学博士2015 10/9～10/12(東京タワー・キッズ環境科学博士2015 実行委員会)
- ・第18回全国風サミット in 庄内 10/21～10/23(風力発電推進市町村全国協議会：共催)
- ・日本地熱学会 平成27年学術講演会(別府大会) 10/21～10/24(日本地熱学会：協賛)
- ・第8回風力発電コンペ WINCOM2015 11/1(日本大学生産工学部：後援)
- ・第1回ソーラークラッカー全国大会 11/2・3(足利工業大学総合研究センター：後援)
- ・スマートコミュニティ+IoT World 東北 11/12・13(スマートコミュニティ+IoT World 東北 実行委員会：後援)
- ・第1回フラッターとその応用に関する国際シンポジウム(ISFA2016) 5/19～26(宇宙航空研究開発機構：協賛)

11. WWEA(世界風力エネルギー協会)

- ・日本支部として、研究活動と普及啓発活動に協力した。
- ・WVEC2015(イスラエル エルサレム、10/26～28)及び併催のWWEA 理事会に参加した。
- ・年次報告書(WWEA Annual Report)やWWEA Quarterly Bulletinに日本情報を提供した。

12. GWEC(世界風力会議)

- ・GWEC Japan 運営委員会を日本風力発電協会(JWPA)と共同で運営して、研究活動と普及啓発活動に協力した。
- ・GWEC 協賛の国際イベント(IWPC2015、CWP2015、EWEA2015等)に参加した。
- ・理事会(10/13 北京)に参加した。
- ・年次統計(Global Wind Statistics)、年次報告書(Global Wind Report)、メルマガ(GWEC News Letter)等に日本情報を提供した。
- ・GWEC からの情報連絡(GWEC News Letter、WindLog)を日本の風力関係者に配信した。
- ・世界ウィンドデイ行事(Global Wind Day)の日本行事27件の開催に日本風力発電協会と共同で企画・協力した。

13. 学会表彰

- ・本学会の総会、風力エネルギー利用シンポジウム及び日本大学主催の風力発電コンペ WINCOM2015において、以下のとおり各賞の表彰を行った。
- ・平成27年度総会(5月29日)
 - 功労賞：3氏(東 昭氏、勝呂 幸男氏、林 農氏)
 - 奨励賞：4氏(畦地 啓太氏、上原 総一郎氏、小長谷 瑞木氏、種本 純氏)
- ・第37回風力エネルギー利用シンポジウム(11月27日)
 - 論文賞：2件(松田 寿氏他、中村 昭裕氏他)
 - ポスター賞：6件(竹山 優子他、田中 元史他、川端 浩和他、緒方 淳他、中島 健三郎他、見上 伸他)
- ・風力発電コンペ WINCOM2015(11月1日)
 - 日本風力エネルギー学会賞：1件(山形県立村山産業高等学校チーム)

14. 学会誌、予稿集をJ-STAGEに掲載

- ・学会誌、シンポジウム予稿集の電子化とJ-STAGEでの定期的な公開を通じて、当学会のプレゼンスを向上するとともに、会員の記事や論文を広く公開することにより、引用数の増加及び業績評価にも貢献した。
- ・学会ホームページにシンポジウム予稿集(第31回～第36回)を公開した。

15. 風力発電の出前授業活動

- ・全国風サミット in 庄内で地元学校に出前授業(10/23 庄内町、本橋理事、牛山顧問、丹元理事)
- ・富高未来講座に講師派遣(安田理事) (大阪府立富田林高校、2016.2.9「日本が知らない風力発電の実力」)

16. 学会ホームページの充実

- ・学会ホームページ内容の充実、メニュー構成の変更と統廃合、書籍の紹介コーナーの整理と更新、沿革の追記、特別団体会員のバナーの設置等について修正を行った。

17. 投稿論文の充実

- ・9編(通巻113号～116号)の論文を掲載した。

18. 学会誌からの発刊

- ・成山堂書店から高田吉治氏(代表委員)による「風力発電設備と雷—その影響と対策(日本風力エネルギー学会推薦)」が発刊された。

19. 学会の新シンボルの制定とバッジの製作

- ・日本風力エネルギー協会時代からのロゴマークを新しいデザインに変え、併せて学会のバッジを製作した。
- ・ロゴマーク変更を海外加盟団体(GWEC,WWEA,EWEA)に通知、先方 Web 掲載ロゴの更新を依頼した。

20. 会員の活動(平成28年3月末日現在の会員数)

- ・特別団体会員：6団体(前年度末0団体)
- ・団体会員：66団体(前年度末71団体)
- ・個人会員：432名(含,学生会員34名/特別会員3名)(前年度末462名;含,学生会員41名/特別会員3名)
- ・名誉会員：2名(前年度末2名)
- ・購読会員：8名(前年度末7名)

日本風力エネルギー学会 平成 26 年度（2014 年度） 事業報告
(自：平成 26 年 4 月 1 日 至：平成 27 年 3 月 31 日)

(特記事項)

I. 風力発電の国内動向

平成 26 年 4 月 1 日に洋上風力発電の買取価格が設定されました。これを受けて日本各地の海域で洋上風力発電の導入が数多く計画されていますし、国土交通省港湾局は平成 27 年 3 月末に「港湾における洋上風力発電施設等の技術ガイドライン(案)」を公表しました。銚子沖・北九州市沖着床式洋上風車、福島県沖・五島沖浮体式風車が引き続き運転され、貴重なデータが取得されています。これらの洋上風力発電に係る実証研究は、我が国の再生可能エネルギー機器の代表として、洋上風力発電導入を牽引するものと思われます。学会関係者が活躍される年でした。

一方、平成 26 年も残念ながら風力発電の事故が発生しました。維持管理の課題、落雷による故障と事故のように、改めて日本の自然環境の厳しさを再認識させられた一年でした。経済産業省では風車の定期検査を義務化する電気事業法の改正手続きに入るとともに、風力発電設備の安全性評価に助成制度を設けました。風車事故を撲滅し、適切な風力発電の計画・設計・建設・維持管理を実現するために、学会員各位のご援助とご協力をお願いしたいと思います。

風力発電の導入拡大を図るために、経済産業省では「電力系統の広域的運営と電力システム改革」として、系統の整備や、電力広域的運営推進機関による電力の安定供給体制の抜本的強化と全国規模での需給整備機能の強化に取り組むことが宣言されています。これにより「風力発電のための送電網整備実証事業」、「電力系統出力変動対応技術研究開発事業」等が進められています。これらのプロジェクトの実現により、風力発電等の再生可能エネルギーの導入量が増加することが大いに期待されます。

II. 事務体制の強化と会員へのサービスの向上

平成 27 年 2 月に新しい学会事務局を神田に開設し、新事務局長と事務員により従来の週 2 日から週 5 日の体制を構築し、会員の利便性を向上させることに努めました。また、新設した特別団体会員に対して、6 機関からご賛同を得ることができ、同会員には学会ホームページにバナーを設ける等の特典を設けさせて頂くとともに、会員へのサービスの向上策も提案しました。このように、平成 26 年度は学会活動を活発化させて、広く会員サービスに努める事務体制と財政基盤を構築することができました。関係各位のご協力とご援助に感謝します。

(今後に向けて)

外部資金による受託研究を獲得し、学会の財務体質の強化に繋げるとともに、今後も学会ホームページの充実、研究会の活性化、講習会の開催等を実施します。学会としては、風力エネルギー利用に係る研究・教育に携わっておられる会員相互の連携・協力を通して、風力発電の技術振興あるいは導入促進に積極的な貢献を果たすべく、会員各位の一層のご理解、ご援助、ご協力をお願いする次第です。

(概略報告/総括)

以下の通り、主たる活動に関し、概略を報告いたします。

1. 総会の開催

- ・5 月 26 日に定時社員総会を開催。平成 25 年度の事業報告、収支報告、監査報告について審議承認いただき、26 年度の事業計画、収支予算について報告承認いただいた。

2. 代表委員会の開催

- ・5 月 26 日の総会前に開催。総会の議案内容につき報告し、意見交換を行った。

3. 理事会の開催

- ・4 月 23 日、5 月 26 日、7 月 23 日、9 月 9 日、11 月 6 日、1 月 22 日及び 3 月 18 日に開催、各種議案を討議した。

4. 各委員会等の開催/活動

- ・全体：会長選挙規定を始めとして、風力エネルギー学会の規程の見直しを行って、更新したものを学会ホームページに掲載して利用の利便性を向上させた。
- ・企画・運営委員会：当学会最大の行事である風力エネルギー利用シンポジウムを開催した。テーマとしては社会的に関心の高い「風力発電の研究開発と電力インフラ整備」、「風力発電の安全性とリスクマネジメント」を選んだ。また、風力エネルギーシンポジウムの過去の予稿集を、J-STAGE LITE へ掲載し、広く利用できる体制を整えるとともに、ロゴデザイン等の検討を行った。
- ・編集委員会：ほぼ上記理事会のスケジュールに合わせて 5 回の委員会及び 4 回の準備会を開催、学会誌の編集方針等について検討し、予定通り学会誌を 4 回発行した。通巻 111 号及び 112 号では学術・事業委員会で翻訳作業中の「風力エネルギーハンドブック」の内容を実務者向けの特集として紹介した。新たな試みとして、Grand RE2014 国際会議「風力分野」から論文を推薦し論文委員会との共同作業により論文特集号（通巻 112 号）を編集した。学会誌がアカデミックな内容に偏り過ぎないように、会員の皆様の多様なニーズにお応じられるような特

集や連載を企画し、地域創生、文化、名所・旧跡、新エネ、再エネ、風力発電をキーワードとした新連載「わがまちわがフルサト」を通巻 113 号から連載することや、「ユニークな風車、新開発の風車」等の特集を組むこととした。また、学会誌「風力エネルギー」の連載記事「雷」を単行本「風力発電施設と雷対策（仮題）」として発刊することにして、編集/監修作業に入っているが、監修委員会の開催等、次年度に継続する。

・学術・事業委員会：電気学会と合同で研究発表会（関西大学）を開催し、風力発電関連の電気工学系研究者・実務者の交流活性化を図った。風力エネルギーハンドブック研究会にて 27 年度秋の出版に向け、Wind Energy Handbook の翻訳を行った。

・国際・広報委員会：欧州の風力市場が飽和・停滞して、先進国で最後の大市場として日本に注目が高まっている。この結果、海外の風力・再生可能エネルギー団体、業界誌、コンサル会社、関連企業、大使館・商工会議所、等からの情報提供や取材、面談の依頼が年間約 100 件あった。インド、トルコ、オランダ等から風力発電関連でミッション団が来日した。GWEC や EWEA の国際行事への参加も恒例化している。

（詳細は後述の各種活動内容を参照。）

・表彰委員会：委員会名称を「表彰・啓発委員会」から「表彰委員会」に改め、表彰・啓発委員会規程及び表彰規程を見直し、それぞれ「表彰委員会規程」及び「表彰者選考手続き」に改訂した。改訂に合わせ「出版賞」を新設した。また特別功労賞、論文賞、奨励賞を選出し、特別功労賞、論文賞はシンポジウムで、奨励賞は平成 27 年度総会で表彰する。なお、シンポジウムではポスター賞も表彰した。新たな表彰についても検討を開始した。

・論文委員会：26 年度は一般投稿論文 15 件を審査した（内 8 件掲載、7 件審査中）。なお、26 年度は前年からの審査持ち越し 4 件を含め 12 件の論文を論文集に掲載した。これらとは別に通巻 112 号の Grand RE2014 国際会議推薦論文特集への対応として 13 件の論文を審査し、10 件を 112 号に掲載、1 件を次年度 113 号に掲載、2 件を返却した。またシンポジウムにおいて座長から推薦された発表論文について論文集への投稿を依頼したほか、奨励賞候補を表彰委員会へ推薦した。25 年度に論文集に掲載された論文の中から論文賞候補論文について審議し表彰委員会へ推薦した。

5. 学会誌の発行（第 38 巻）

・第 1 号（通巻 109 号）Vol.38 No.1 2014 年 5 月発行 900 部

特集：風力発電の地域導入への取り組みと社会受容性向上、並びに地域振興を目指して

・第 2 号（通巻 110 号）Vol.38 No.2 2014 年 8 月発行 900 部

特集：新理事が語る風力エネルギー利用に向けた抱負、風車に関する普及啓発教育現場からの発信

・第 3 号（通巻 111 号）Vol.38 No.3 2014 年 11 月発行 900 部

特集：風車の設計と風力エネルギーハンドブック紹介、更なる風力エネルギー利用に向けて

・第 4 号（通巻 112 号）Vol.38 No.4 2015 年 2 月発行 900 部

特集：Grand RE2014 国際会議「風力分野」での推薦論文、風力エネルギーハンドブック紹介（その 2）

6. 風力エネルギー利用シンポジウムの開催（第 36 回）

・共催：日本科学技術振興財団

・協賛：日本風力発電協会、日本小形風力発電協会

・後援：新エネルギー・産業技術総合開発機構、産業技術総合研究所、新エネルギー財団、日本電機工業会、ターボ機械協会、日本太陽エネルギー学会、風力発電推進市町村全国協議会、日本風工学会

・開催日：11/27～28

・開催場所：科学技術館／東京

・参加者数：363 名

7. グランド再生可能エネルギー2014 国際会議・展示会の開催への協力

・東京ビッグサイトにて開催された（7/27～8/1）。風力発電で 165 件、洋上風力発電で 26 件の論文発表があり、その多くが JWEA 関係者によって行われた。PR ブースの出展でも協力した。

8. 風力関連学会の国内及び国際会議への学会役員等の参加協力等

・WWEA2014 4/7～9 中国 上海（WWEA 理事会）

・AWEA Windpower 2014 5/5～7 米国ラスベガス（GWEC 年次総会と理事会 5/7）

・Grand RE2014 7/27～8/1 東京

・トルコ南マルマラ州開発公社のミッション団来日 9 月

・GWEC 理事会 10/21 中国 北京

・講演会「浮体式洋上風力発電に関する米国の最新動向」 10/21 九大

・日米浮体式洋上セミナー 10/23 東大

・オランダ洋上風力発電ミッション団の来日 10 月

・次期 IECRE 議長の Sandy Butterfield 氏との交流会 11/11

- ・インド Andhra Pradesh&Telangana 州のミッション団来日 10～12 月
- ・WindExpo2015 国際展示会 2015/2/25～27 東京
- ・EWEA Offshore 2015 2015/3/10～12 デンマーク コペンハーゲン
- ・IWPC2015、2015/3/31～4/2 トルコ イスタンブール (GWEC 理事会 3/31)

9. 日本太陽エネルギー学会との合同研究発表会及び見学会の開催

- ・見学会 11/12 産総研 福島再生可能エネルギー研究所
- ・研究発表会 11/13～14 福島県いわき市いわき文化センター

10. 風力利用事業に関する助言等普及啓発活動

- ・青少年のための科学の祭典（科学技術館）に出展 7/26～27 千代田区／東京
- ・風力発電推進市町村全国協議会 総会 6/25 他

11. 国内の風力関連事業/催しへの協力

- ・世界ウィンドディの一環の日本行事 5/20～7/28 20 か所（日本風力発電協会と共同実施）
- ・スマートコミュニティ Japan2014 6/18～20（日刊工業新聞：協賛）
- ・第 15 回風力エネルギー利用総合セミナー 6/26～27（足利工業大学総合研究センター：後援）
- ・再生可能エネルギー2014 国際会議と再生可能エネルギー2014 世界展示会
7/28～8/1 東京ビックサイト（再生可能エネルギー協議会：協賛）
展示会へ出展、国際会議への協力等
- ・第 23 回日本エネルギー学会大会 7/19～20（日本エネルギー学会：協賛）
- ・第 20 回流れのふしぎ展 8/12～13（日本機械学会：協賛）
- ・第 7 回風力発電コンペ WINCOM2014 11/2（日本大学生産工学部：後援）
- ・スマートコミュニティ東北 2014 10/14～15（スマートコミュニティ東北実行委員会：後援）
- ・第 17 回全国風サミット in 平戸 10/28～29（平戸市、風力発電推進市町村全国協議会：共催）
- ・日本地熱学会平成 26 年学術講演会 10/29～11/1（日本地熱学会：協賛）

12. EWEA（欧州風力エネルギー協会）

- ・日本支部として、研究活動と普及啓発活動に協力した。
- ・EWEA と GWEC が主催する世界ウィンドディ（Global Wind Day）では、20 件の国内イベントを行った。

13. WWEA（世界風力エネルギー協会）

- ・日本支部として、研究活動と普及啓発活動に協力した。
- ・WWEA2014（中国上海、4/7～9）及び併催の WWEA 理事会に参加した。
- ・WWEA Quarterly Bulletin に日本情報を提供した。

14. GWEC（世界風力会議）

- ・GWEC Japan 委員会を日本風力発電協会(JWPA)と共同で運営して、研究活動と普及啓発活動に協力した。
- ・GWEC 協賛の AWEA Windpower 2014 と IWPC2015 に参加した。
- ・年次総会（米国ラスベガス、5/7）、理事会（同左と北京 10/21 の 2 回）に参加して積極的に交流した。
- ・Steve Sawyer 事務局長の来日時に交流会（3/2）を開催した。
- ・年次統計（Global Wind Statistics）、年次報告書（Global Wind Report annual market update）、メルマガ（GWEC News Letter）等に日本情報を提供した。

15. 学会表彰の授与

- ・総会にて 奨励賞 4 件
- ・風力エネルギー利用シンポジウムにて 特別功労賞 1 件（長井浩氏）、論文賞 1 件（浅生利之氏）
ポスター賞 7 件
- ・風力発電コンペ WINCOM2014 にて 日本風力エネルギー学会賞 1 件

16. 風力発電の出前授業活動

- ・日本の将来を担う子供たちに風力発電に親しんでもらう目的で、日本風力発電協会と協力して出前授業を数回実施した。
- ・日本エネルギー環境教育学会（JAEED）の第 9 回全国大会（8/9～10 東邦大学習志野キャンパス）で JWPA の出前授業活動を紹介した。
- ・安田理事が兵庫県立洲本実業高校で出前授業を実施（11/26）、地元のテレビや新聞でも紹介された。

17. 会員の動向(3月末日現在の会員数)

- ・団体会員 71 団体（前年度末 70 団体）
- ・個人会員 464 名（内 学生会員 41 名、特別会員 3 名、名誉会員 2 名）
（前年度末 461 名（内学生 37 名、特別 3 名、名誉 2 名））

日本風力エネルギー学会 2013年度(平成 25 年度) 事業報告
(自：2013 年 4 月 1 日 至：2014 年 3 月 31 日)

(特記事項)

1. 洋上風車元年

平成 25 年度は洋上風車元年と呼んでも良いような年になりました。銚子沖洋上風車、北九州沖洋上風車、いわき沖浮体式風車、五島沖浮体式風車が建設され運転が開始されています。今後の我が国の風力発電導入を牽引するものとして、また再生可能エネルギー機器の代表として今後益々導入促進が図られることとなると思われます。引き続き学会関係者の各方面での活躍が期待される年でした。

2. 系統線増強プロジェクトと環境アセス

未利用の豊富な風資源が存在する北海道北部と青森県・秋田県周辺の系統線の増強プロジェクトの本格的な検討が始まりました。今まで賦存エネルギーがあるにも拘らず系統連系が出来ないという残念なことがありましたが、これらのプロジェクトが実現すれば、大きく風力発電等の再生可能エネルギーの導入量が増加することが期待されます。

また学会でも EWEA の系統連系に関する報告の翻訳版の学会誌掲載、および出版等と講習会を行い系統連系の課題に対する一つの先例を示し、関係者の理解を求めました。しかしながら平成 25 年度の我が国の風車導入量は期待に反してわずかなものとなりました。その原因は環境アセスメントの適用によるもので太陽光発電装置の増加に比し少し寂しいものとなりました。環境アセスの関連では、低周波音を含んだ音の問題やバードストライク等と絡んだ、いわゆる社会的受容性の重要性も増しています。今後の風力発電の導入に向けて今まで以上の努力が必要です。

3. 会員へのサービスの向上

学会ホームページの更新や J-STAGE に依る学会誌の閲覧開始等関係各位の努力で新しいサービスを始めることが出来ました。また風力シンポジウムの参加費低減と会費の維持を図り世の中が何となく値上げに動いている状況の中で何とか会員各位にご迷惑をお掛けすることなく一年を終えることが出来ました。関係各位のご協力とご援助に感謝します。

(今後の課題)

本年の風力発電で後年への課題として残ったものの第一は事故の多発であろうと思います。機器の課題、落雷による故障と事故といったように多くの風車で日本の自然の凄さを再認識させられた一年であったと思います。平成 26 年度はこの様な事故を撲滅して更なる安定した運転を行い、関係各位の安心を得られるような風力発電の計画・設計・建設を実現するために、学会員各位のご援助とご協力をお願いしたいと思います。

一方で、学会の財政も厳しい状況になっております。今後皆様には更なるご協力をお願いすることがあるかと思っています。学会としては風力発電技術の向上と安全、安心、安定した機器とするための技術開発・機器開発に積極的な貢献も果たしていきたく、会員各位の一層のご理解、ご援助ご協力をお願いする次第です。

(概略報告/総括)

以下の通り、主たる活動に関し、概略を報告いたします。

1. 総会の開催

5 月 27 日に定時社員総会を開催。24 年度の事業報告、収支報告、監査報告について審議承認いただき、25 年度の事業計画、収支予算について報告承認いただいた。

2. 代表委員会の開催

5 月 27 日の総会前に開催。総会の議案内容につき報告し、意見交換を行った。

3. 理事会の開催

4 月 19 日、5 月 27 日、7 月 19 日、9 月 13 日、11 月 6 日、2014 年 1 月 20 日及び 3 月 19 日に開催、各種議案を討議した。

4. 各委員会等の開催/活動

- ・ 企画・運営委員会：当学会最大の行事である風力エネルギー利用シンポジウムについて協議開催した。また見学会の開催、科学の祭典等を実行した。シンポジウムの参加登録・発表申込に Web 登録システムを導入した。
- ・ 編集委員会：ほぼ上記理事会のスケジュールに合わせて開催、学会誌の編集方針等について検討し、予定通り学会誌を 4 回発行した。また、学会誌「風力エネルギー」の連載記事「雷」を単行本「風力発電施設と雷対策（仮題）」として発刊することにして編集/監修作業に入っているが、次年度に継続する。
- ・ 学術・事業委員会：前年に引き続き、洋上風力発電の技術講習会を開催した（東京大学）。また、風力発電導入のための電力系統工学を翻訳出版し技術講習会を開催した。風力エネルギーハンドブック研究会を発足させ Wind Energy Handbook の翻訳を開始した。
- ・ 国際・広報委員会：欧州と米国で風力市場が低迷し、先進国で最後の大市場として日本に注目が高まっている。この結果、海外の風力・再生エネルギー団体、業界誌、コンサル会社、関連企業、大使館・商工会議所、等からの情報提供や取材、面談の依頼が年間約 100 件に増加した。GWEC や EWEA の国際行事への参加も恒例化している。

(詳細は後述の各種活動内容と海外への広報活動を参照。)

・表彰啓発委員会：功労賞、奨励賞、論文賞を選出し、功労賞、奨励賞は総会で、論文賞はシンポジウムで表彰した。なお、シンポジウムではポスター賞も表彰した。出版賞の検討を開始した。

・論文委員会：25年度は投稿論文11件を審査した(内6件掲載、5件審査中)。なお、25年度は前年からの持ち越し5件を含め11件の論文を論文集に掲載した。またシンポジウムにおいて座長から推薦された発表論文について論文集への投稿を依頼したほか、奨励賞候補を表彰啓発委員会へ推薦した。24年度に論文集に掲載された論文の中から論文賞候補論文について審議し表彰啓発委員会へ推薦した。

6. 学会誌の発行

第37巻 第1号(通巻105号)	2013年	5月発行	1000部
特集：風車に対する風況解析と荷重連成解析			
〃 第2号(通巻106号)	2013年	8月発行	1000部
特集：洋上風力発電とわが国の実証プロジェクト全貌			
〃 第3号(通巻107号)	2013年	11月発行	1000部
特集：風力発電、大容量導入を可能にする系統技術の最前線			
〃 第4号(通巻108号)	2014年	2月発行	1000部
特集：革新が進む風力発電機器と風車の大型化			

7. 風力エネルギー利用シンポジウムの開催(第35回)

共催：日本科学技術振興財団

協賛：日本風力発電協会、日本小形風力発電協会

後援：外務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省、新エネルギー・産業技術総合開発機構、産業技術総合研究所、新エネルギー財団、日本電機工業会、ターボ機械協会、日本太陽エネルギー学会、風力発電推進市町村全国協議会、日本風工学会

11月12日(火)～13日(水) 科学技術館／東京 (参加者 362名)

8. 第8回再生可能エネルギー世界展示会の開催への協力

東京ビックサイト(7月24日～26日)において開催されたが、風力のフォーラムを開催するとともに、PRブースの出展(日本太陽エネルギー学会と合同にて)により協力した

9. 風力関連学会の国内および国際会議への学会役員等の参加協力等

- 1) IEC ExCo 国際会議、2013/4/9・10、京都
- 2) AWEA Windpower 2013、5/5～8、米国 シカゴ(GWEC 年次総会と理事会 5/7)
- 3) WWEC2013、6/3～5、キューバ ハバナ(WWEA 理事会)
- 4) オランダ大使館主催再生エネルギーセミナー、6/26、横浜
- 5) RE2013、7/24～26、東京(日仏洋上セミナー)
- 6) ノルウェー大使館主催洋上風力ワークショップ、8/29、東京
- 7) GWEC 理事会、10/15 中国 北京
- 8) NACE EAP Conference & Expo 2013(国際腐食防蝕会議)、11/11～13、京都
- 9) APEC 風力エネルギー導入ワークショップ、11/25・26、ベトナム ハノイ
- 10) WindExpo2014 国際展示会、2014/2/26～28、東京
- 11) EWEA2014、3/10～13、スペイン バルセロナ(GWEC 市場開拓 Workshop 3/11、EWEA 広報連絡会 3/14)

10. 見学会の実施

- ・九州大学博多湾風レンズ風車&NEDO 技術開発機構・電源開発(株)北九州市沖の洋上風力発電所見学会 8月7日
- ・日本太陽エネルギー学会共催の合同研究発表会見学会 11月27日 糸満観光農園(600kW 風力発電)→平和記念公園→糸満市役所(太陽光発電・日除け・採光等の省エネ建築)→比嘉酒造(バイオマス発電)
- ・日本太陽エネルギー学会共催の合同研究発表会見学会 宮古島 11月30日 メガソーラー実証研究施設・風力発電施設)

11. 日本太陽エネルギー学会と共催の合同研究発表会 11月28-29日 那覇市市町村自治会館

12. 風力利用事業に関する助言等普及啓発活動

- ・青少年のための科学の祭典(科学技術館)に出展 7月27-28日 千代田区／東京
- ・風力発電推進市町村全国協議会 総会 6月25日 他

13. 国内の風力関連事業/催しへの協力

- ・再生可能エネルギー2013 世界展示会 7月24日～26日 東京ビックサイト
展示会へ出展、セミナー等への協力(再生可能エネルギー協議会：協賛)
- ・世界ウインドデイの一環の日本行事 6月15日～7月28日 12か所(日本風力発電協会と共同実施)
- ・第6回風力発電コンペ WINCOM2013 11月3日(日本大学生産工学部：後援)
- ・第19回流れのふしぎ展 8月13日～14日(日本機械学会：協賛)
- ・第14回風力エネルギー利用総合セミナー 6月27日～28日(足利工業大学総合研究センター：後援)
- ・第22回日本エネルギー学会大会 8月5日～6日(日本エネルギー学会：協賛)

- ・日独科学シンポジウム 21 世紀のエネルギー 5 月 21 日（ドイツバーデンヴェルテンベルク州：後援）
- ・第 52 回電気科学技術講演会 4 月 17 日（電気科学技術奨励会：協賛）
- ・雷害対策のための風力発電設置システム 7 月 22 日（電気学会東海支部：協賛）
- ・スマートコミュニティ Japan2013 5 月 29 日～31 日（日刊工業新聞：協賛）
- ・日本地熱学会平成 24 年学術講演会 11 月 7 日～9 日（日本地熱学会：協賛）
- ・Japan Home & Building Show2013 10 月 23 日～25 日（日本能率協会：協賛）
- ・NEDO 技術フォーラム in 九州(2013) 11 月 19 日（NEDO：協賛）
- ・風況予測モデルソフトウェア講習会 2014 年 3 月 4 日（日本太陽エネルギー学会：協賛）

1 4. EWEA（欧州風力エネルギー協会）

- ・日本支部として、研究活動と普及啓発活動に協力した。
- ・EWEA2014(バルセロナ、2014/3/10～13)に参加して、広報連絡会（Communication Academy）に参加、日本の状況を報告した。
- ・EWEA と GWEC が主催する世界ウインドデイ行事（Global Wind Day）では、12 件の国内イベントを行い、啓蒙活動に協力した。

1 5. WWEA（世界風力エネルギー協会）

- ・日本支部として、研究活動と普及啓発活動に協力した。
- ・WWEA2013（キューバ ハバナ、6/3～5）および併催の WWEA 理事会に参加した。
- ・年次報告書（WWEA Annual Report）や四季報（WWEA Quarterly Bulletin）に日本情報を提供した。

1 6. GWEC（世界風力会議）

- ・GWEC Japan 委員会を日本風力発電協会(JWPA)と共同で運営して、研究活動と普及啓発活動に協力した。
- ・GWEC 協賛の AWEA Windpower 2013 と EWEA2014 に参加した。
- ・年次総会（シカゴ、5/7）、理事会（同左と北京 10/15 の 2 回）、および市場開拓ワークショップ（バルセロナ、3/11）、などの GWEC 行事に参加して積極的に交流した。
- ・年次統計（Global Wind Statistics）、年次報告書（Global Wind Report annual market update）、メルマガ（GWEC News Letter）などに日本情報を提供した。

1 7. 海外への広報活動

- ・再生可能エネルギーの国際業界誌「Recharge」の日本特集号（2014 年 2 月号）に対し、企画段階から協力した。日本風力発電協会(JWPA)と共に、掲載記事の提案および具体的な取材先の斡旋等を行った。
- ・この他にも適時、海外に情報提供を行い、多数の海外記事の掲載に繋がっている。

1 8. 会員の動向

3 月末日現在の会員数は、団体会員 70 団体（70 口）（前年度末 71 団体） 個人会員 461 名（内 学生会員 37 名、特別会員 3 名、名誉会員 2 名）（前年度末 466（内学生 45、特別 2、名誉 2））

1 9. 学会表彰制度の実施

- | | |
|------------------------|------------------------------------|
| ・総会にて | 功労賞 1 件（橋本保氏）、奨励賞 6 件授与 |
| ・風力エネルギー利用シンポジウムにて | 論文賞 2 件（山田達郎氏、河野孝昭氏）、論文ポスター賞 4 件授与 |
| ・流れの不思議展にて | 日本風力エネルギー学会賞 2 件授与 |
| ・風力発電コンペ WINCOM2012 にて | 日本風力エネルギー学会賞 1 件授与 |

2 0. 風力発電の出前授業活動

- ・日本の将来を担う子供たちに風力発電に親しんでもらう目的で出前授業 WG を正式発足させ、活動を開始した。
- ・JWEA 会員へのアンケート調査結果を JWEA 学会誌で報告した。
- ・出前授業用の説明資料と教材の収集と整備を開始した。
- ・日本エネルギー環境教育学会（JAEED）に、授業の受け手となる学校とのパイプ役を依頼した。

日本風力エネルギー学会 2012 年度(平成 24 年度) 事業報告
(自: 2012 年 4 月 1 日 至: 2013 年 3 月 31 日)

(特記事項)

1. 日本における FIT 制度の導入

昨年 7 月 1 日に再生可能エネルギー電力の買取りに固定価格制度が導入され、日本の風力発電導入拡大に対する期待は日本の内外で大きく高まり、海外の関連団体との交流も拡大・深化する結果となりました。

一方で、10 月から始まった環境アセス法の適用もあり、環境アセス法的な制約のない太陽光と比べて、風力発電の新規導入拡大への導入拡大への FIT 導入の効果は限定的となっています。

2. 各種洋上風力プロジェクトがスタート

我国では未利用の豊富な風資源が洋上に賦存していますが、昨年は国や NEDO が支援する複数の洋上プロジェクトが実質的にスタートしました。これらには、当学会の会員/団体会員も参加しています。また、当学会が主催したシンポジウムでも洋上風力を大きく取り上げ、種々の角度から専門家に講演頂き、活発な質疑が行われました。更に、昨年当学会が翻訳・出版した「洋上風力発電」を使用した講習会を大阪で開催し、多数の参加を得ることができました。

3. 会員へのサービスの向上

昨年学会ホームページを更新し、ホームページのデザインの変更および内容の充実により、画面を見やすくすると共に、過去の学会誌・シンポジウム予稿集の論文を利用しやすくしました。また風力エネルギー利用シンポジウムの事務の低減、プログラム編集の迅速化のために、シンポジウムに関する電子投稿システムを構築し、論文の登録と投稿をしやすくしました。さらに、団体会員と正会員へのサービスの向上のために、団体会員の講習会への参加費の低減および無料講習会の実施を行いました。

(今後の課題)

日本の風力発電の導入拡大のための最大の課題は電力系統への連系問題と考えます。当学会では、既に各種のセミナーや講演会を主催・共催していますが、今後とも当学会としての役割を認識し、積極的に建設的な提言等を行うことも検討して行きたいと考えています。また、積極的な会員各位並びに外部への有用な情報の発信を実現するためにも、既に手掛けている学会ホームページの改善、外部機関(J-Stage 等)を活用した学会誌やシンポジウム予稿集の公開にも取り組んで参ります。

(概略報告/総括)

以下の通り、主たる活動に関し、概略を報告いたします。

1. 総会の開催

5 月 24 日に第 1 期目の定時社員総会を開催。23 年度の事業報告、収支報告、監査報告、役員選出について審議承認いただき、24 年度の事業計画、収支予算について報告承認いただいた。

2. 代表委員会の開催

5 月 24 日の総会前に開催。総会の議案内容につき報告し、意見交換を行った。

3. 理事会の開催

4 月 23 日、5 月 24 日、7 月 10 日、9 月 18 日、11 月 28 日、2013 年 1 月 21 日及び 3 月 21 日に開催、各種議案を討議した。

4. 各委員会等の開催/活動

・企画・運営委員会：当学会最大の行事である秋季シンポジウムについて協議開催した。また見学会の開催、科学の祭典や RE2012 展示会等への出展等を実行した。さらには流れの不思議展や WINCOM2012 への学会賞贈呈等を行った。

・編集委員会：ほぼ上記理事会のスケジュールに合わせて開催、学会誌の編集方針等について検討し、予定通り学会誌を 4 回発行した。また、編集委員会の役割分担を決定した。

・学術・事業委員会：前年に翻訳出版した「洋上風力発電」を使って大阪での講習会を開催した。また JEMA と共催で国際ワークショップの開催、電力系統における風力発電学術研究会を開催した(継続中)。次の海外文献の翻訳・出版として「電力系統における風力発電」について検討を開始した。

・国際・広報委員会：昨年 7 月の FIT 導入を契機に日本における風力発電の導入拡大に対する海外の期待が大きく高まった。その結果、従来の EWEA, GWEC, WWEA 等への協力に加えて、他の海外再生エネルギー団体や業界誌、コンサル会社からの問合せ・情報提供依頼が年間 48 件へと急増した。

GWEC 理事会参加と EWEA カンファレンスでの日本紹介発表も恒例になり、さらに韓国・台湾他のアジア地域の関連団体との交流も活発化している。

また、風力の先端技術を討議する国際組織 IEA Wind の Task25「系統連系」の国際会議が日本で開かれたり、民間による新しい国際展示会 WindExpo も始まるなど、非常に忙しい 1 年となった。

(詳細は後述の各種活動内容を参照。)

・表彰啓発委員会：功労賞、奨励賞、論文賞を選出した。功労賞、奨励賞は総会で、論文賞はシンポジウムで表彰

した。なお、シンポジウムではポスター賞も表彰した。

・論文委員会：次世代風力発電技術開発、着底式・浮体式洋上風力発電、風車騒音低減技術等の各種国家プロジェクトが進められ、また研究成果を国内・国際標準に反映する活動も活発になり、風力発電に関わる研究も幅広くなってきた。投稿された論文の分野も広がりつつあり、24年度は投稿論文11件を審査した（内6件掲載、4件審査中、1件返却）。なお、24年度は前年からの持ち越し6件を含め12件の論文を論文集に掲載した。またシンポジウムにおいて座長から推薦された発表論文について論文集への投稿を依頼したほか、奨励賞候補を表彰啓発委員会へ推薦した。23年度に論文集に掲載された論文の中から論文賞候補論文について審議し表彰啓発委員会へ推薦した。

6. 学会誌の発行

第36巻 第1号（通巻101号）	2012年	5月発行	1000部
特別企画：～風力発電普及に向けた産学協働をさらに高めるために～その3			
第2号（通巻102号）	2012年	8月発行	1000部
特集：日本風力エネルギー学会「新たな活動に向けて」～代表委員所信			
第3号（通巻103号）	2012年	11月発行	1000部
特集：小形風車の普及促進に向けた課題と挑戦			
第4号（通巻104号）	2013年	2月発行	1000部
特集：風車発生音に対する解析、予測、対策技術			

7. 風力エネルギー利用シンポジウムの開催(第34回)

共催：日本科学技術振興財団

協賛：日本風力発電協会、日本小形風力発電協会

後援：外務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省、新エネルギー・産業技術総合開発機構、産業技術総合研究所、新エネルギー財団、日本電機工業会、ターボ機械協会、日本太陽エネルギー学会、風力発電推進市町村全国協議会、日本風工学会

11月27日（火）～28日（水） 科学技術館／東京（参加者398名）

8. 第7回再生可能エネルギー世界展示会の開催への協力

幕張メッセ（12月5日～7日）において開催されたが、風力のフォーラムを開催するとともに、PRブースの出展（日本太陽エネルギー学会と合同にて）により協力した

9. 風力関連学会の国内および国際会議への学会役員等の参加協力等

- 1) EWEA2012、2012/4/16～19、デンマーク コペンハーゲン
(GWEC 年次総会と理事会 4/15、日本紹介発表 4/17、EWEA 広報連絡会 4/17)
- 2) 再生可能エネルギー国際展示会、4/20、名古屋
- 4) WWEC2012、7/3～5、独 Bonn
- 5) 環太平洋自然エネルギー国際フォーラム、7/26・27、秋田
- 6) モンゴル風力エネルギー協会との交流会、9/7、東京
- 7) IEA Task25「系統接続」Workshop、10/15、東京
- 8) IEA Wind Task 25 国際会議、10/23、東京
- 9) IEA Wind ExCo 国際会議、10/23・24、東京
- 10) Renewable Energy Forum、10/25・26、韓国 扶安
- 11) ICRERA2012、11/12～14、長崎
- 12) China Windpower 2012 (CWP2012)、11/15～17 中国 北京
(GWEC 理事会 11/14)
- 13) 台湾風車工業会 (TWTIA) の Offshore Wind Seminar、11/21・22、台北・台中
- 14) 日米再生可能エネルギー円卓会議、12/3、東京
- 15) 台湾風車工業会 (TWTIA) との交流会、12/4、東京
- 16) RE2012 国際展示会、12/5～7、幕張
- 17) EWEA2013、2013/2/4～7、オーストリア ウィーン
(GWEC 新興市場 Workshop 2/6、日本紹介発表 2/7、EWEA 広報連絡会 2/7)
- 18) Wind Energy Asia 2013 (WEA2013)、2/24～26 韓国 済州島

10. 見学会の実施

- ・日本太陽エネルギー学会との合同研究発表会（共催）の北九州（風力・メガソーラ）見学会 11月7日（火）
- ・神栖の洋上風力発電所見学説明会 8月7日（火）

11. 日本太陽エネルギー学会と共催の合同研究発表会 11月8-9日 北九州

12. 風力利用事業に関する助言等普及啓発活動

- ・青少年のための科学の祭典（科学技術館）に出展 7月27日から3日間 千代田区／東京
- ・風力発電推進市町村全国協議会 総会 6月29日 他

13. 国内の風力関連事業/催しへの協力

- ・再生可能エネルギー2012世界展示会 12月5日～7日 幕張メッセ
展示会へ出展、セミナー等への協力（再生可能エネルギー協議会：協賛）

- ・世界ウインドデイの一環の日本行事 6月6日～29日 銚子市、横浜市など（日本風力発電協会と共同実施）
- ・風力発電コンペ WINCOM2012 11月4日（日本大学生産工学部：後援）
- ・第18回流れのふしぎ展 8月11日～12日（日本機械学会：協賛）
- ・第13回風力エネルギー利用総合セミナー 6月28日～29日（足利工業大学総合研究センター：後援）
- ・第2回環太平洋自然エネルギー国際フォーラム 7月26日～27日（同実行委員会：後援）
- ・第21回日本エネルギー学会大会 8月6日～7日（日本エネルギー学会：協賛）
- ・みんなのエネルギーフェスタ2012 8月11日～13日（みんなのエネルギー会議：後援）
- ・ドイツ風力エネルギー技術セミナー2012 9月13日（ドイツ連邦経済技術省：後援）
- ・第16回全国風サミット in わっかない 9月20日～21日（風力発電推進市町村全国協議会：共催）
- ・風災害フォーラム・強風災害の変遷と教訓 10月10日（日本風工学会：後援）
- ・日本地熱学会平成24年学術講演会 10月24日～26日（日本地熱学会：協賛）
- ・第3回OETR（海洋エネルギー東北再生）シンポジウム 11月1日（東京大学：後援）
- ・Japan Home & Building Show2012 11月14日～16日（日本能率協会：協賛）
- ・第9回自然エネルギー利用総合セミナー 11月22日～23日（足利工業大学：後援）
- ・第22回風工学シンポジウム 12月5日～7日（日本風工学会他：協賛）
- ・ドイツ風力エネルギーシンポジウム2013 2013年2月26日（ドイツ商工会議所：後援）

14. EWEA（欧州風力エネルギー協会）

- ・日本支部として、研究活動と普及啓発活動に協力した。
- ・EWEA2012（コペンハーゲン、2012/4/16～19）とEWEA2013（ウィーン、2013/2/4～7）に参加して、日本紹介発表と広報連絡会（Communication Meeting）出席を行った。
- ・EWEAとGWECが主催する世界ウインドデイ行事（Global Wind Day）では、4人のアンバサダーの選出と11件の国内イベントを行い、啓蒙活動に協力した。

15. WWEA（世界風力エネルギー協会）

- ・日本支部として、研究活動と普及啓発活動に協力した。
- ・WWEA2012（独 ボン、7/3～5）および併催のWWEA理事会に参加した。
- ・年次報告書（WWEA Annual Report）や四季報（WWEA Quarterly Bulletin）に日本情報を提供した。

16. GWEC（世界風力会議）

- ・GWEC Japan 委員会を日本風力発電協会（JWPA）と共同で運営して、研究活動と普及啓発活動に協力した。
- ・GWEC 協賛のEWEA2012、CWP2012、EWEA2013、WEA2013に参加して、その内の2回で日本紹介発表を実施した。
- ・年次総会（コペンハーゲン、4/15）、プレス発表会（コペンハーゲン、4/17）、理事会（同左と北京 11/14の2回）、および振興市場 Workshop（ウィーン、2/6）、などのGWEC行事に参加して積極的に交流した。
- ・年次統計（Global Wind Statistics）、年次報告書（Global Wind Report annual market update）、メルマガ（GWEC News Letter）などに日本情報を提供した。
- ・GWECとEWEAが主催するウインドデイ行事（Global Wind Day）では、4人のアンバサダーの選出と11件の国内イベントを行い、啓蒙活動に協力した。

17. 会員の動向

3月末日現在の会員数は、団体会員71団体（71口）（前年度末67団体） 個人会員466名（内 学生会員45名、特別会員2名、名誉会員2名）（前年度末438（内学生45、特別3、名誉2））

18. 学会表彰制度の実施

- ・総会にて 功労賞2件（丹省一氏、山本克彦氏）、奨励賞5件授与
- ・風力エネルギー利用シンポジウムにて 論文賞1件（原豊氏）、論文ポスター賞7件授与
- ・流れの不思議展にて 日本風力エネルギー学会賞2件授与
- ・風力発電コンペ WINCOM2012にて 日本風力エネルギー学会賞1件授与

19 風力発電の出前授業活動

- ・日本の将来を担う小学生～高校生に風力発電に親しんでもらうために、出前授業の活動強化の企画を開始した。
- ・組織的かつ効率的に授業を行うために、受入窓口（ニーズの調査）と、提供側（講師と教材）のアンケート調査を実施した。

日本風力エネルギー協会/学会 2011 年度(平成 23 年度) 事業報告

(自：2011 年 4 月 1 日 至：2012 年 3 月 31 日)

(特記事項)

1. 法人化と名称変更

5 月の総会での審議・承認を経て、6 月 20 日付で一般社団法人 日本風力エネルギー学会を設立登記し、法人化と学会への名称変更を実現しました。

2. 海外文献の翻訳と講習会の開催

東日本大震災を契機として、我が国においても風力発電を始めとする再生可能エネルギー導入拡大への期待が高まり、今年 7 月 1 日からの固定価格買取制度を導入するための法律も制定されました。当学会も、これらの動きを背景として、洋上風力及び系統連系をテーマとする欧州の最新文献を翻訳・出版し、前者については講習会も開催し好評を博しました。法人化後の学会として、順調な滑り出しが出来たと考えています。

・「洋上風力発電」＝Offshore Wind Power, Multi-Science Publishing 2010：鹿島出版会

・「風力発電の系統連系」＝Powering Europe：Wind Energy and the Electricity Grid：当学会でウェブ出版

(今後の課題)

上記の通り、最近では日本においても再生可能エネルギーへの期待が益々高まっています。一方で、風力発電については導入が進むにつれて逆に、景観・騒音あるいは低周波といった問題について、誤解を含めた様々な見解が表明されており、風力発電に関する社会的受容性が大きな課題として浮上して来ています。当学会としては、かような課題についても技術的な側面から取り組み、講習会等の場で分かり易く本質を説明したり、研究会を開催したりすることも検討し、我が国における風力エネルギーの健全な普及促進に貢献することを目指して参ります。

(概略報告/総括)

以下の通り、主たる活動に関し、概略を報告いたします。

1. 総会の開催

- ・5 月 12 日：旧協会の総会を開催。2010 年度の決算、法人化と学会への名称変更等を承認。
- ・7 月 19 日：一般社団法人日本風力エネルギー学会の臨時総会(設立総会)を開催。役員人事、事業計画及び収支計画等を承認。

2. 評議委員会の開催(旧協会)

5 月 12 日の総会前に開催。総会の議案内容につき報告し、意見交換を実施。

3. 理事会の開催

- ・旧協会：4 月 12 日、5 月 12 日に開催、各種議案を討議。
- ・新学会：6 月 21 日、7 月 19 日、9 月 16 日、11 月 11 日、1 月 13 日及び 3 月 15 日に開催、各種議案を討議。尚、7 月 6 日には電子理事会を開催した。

4. 各委員会等の開催/活動

- ・企画委員会：企画委員会では 11 月 29、30 日の風力エネルギー利用シンポジウムの招待講演者、風サミット代替のシンポジウム開催、一般講演のプログラム作成、風力発電施設見学会サイトの決定開催、日本太陽エネルギー学会との共催行事（研究発表会、見学会、新エネルギー世界展示会）、科学の祭典出展、GWEC ウィンドディ出張についてメール等で協議を行い対応した。
- ・編集委員会：ほぼ上記理事会のスケジュールに合わせて開催、協会誌／学会誌の編集方針等について検討した。
- ・事業委員会：上記特記事項にて報告した通り、海外文献を翻訳・出版するとともに、講習会を開催した。また、法人化・学会化を記念して扇子を制作し、(株)ミュージアムクルー（科学技術館）にて委託販売した。
- ・国際委員会：ほぼ毎月国際委員会及び GWEC 日本運営委員会を JWPA 国際部会と合同で開催した。主として、東日本大震災の日本の風力発電所への影響並びにその後の日本政府の政策動向等につき、積極的に海外への情報発信に務めた。GWEC と WWEA の両事務局長と交流会を開催し、国内 10 か所でウィンドデイ行事を開催した。
- ・表彰啓発委員会：表彰規定を見直し整備した。また、功労賞、論文賞を授与し、新たに奨励賞を決定した。
- ・論文委員会：継続して論文審査を行い、23 年度は投稿論文 16 件を審査した（内 8 件掲載、8 件審査中）。なお、23 年度は前年からの持ち越しを含め 12 件の論文を会誌に掲載。またシンポジウムにおいて座長から推薦された発表論文について会誌への投稿を依頼したほか奨励賞候補を表彰啓発委員会へ推薦した。22 年度に会誌に掲載された論文の中から論文賞候補論文について審議し表彰啓発委員会へ推薦した。
- ・選挙管理委員会：24 年／25 年の役員選挙を管理し遂行した。

5. 協会誌／学会誌の発行

第 35 巻 第 1 号 (通巻 97 号)	2011 年	5 月発行	1000 部
〃 第 2 号 (通巻 98 号)	2011 年	8 月発行	1000 部 (学会誌に変更)
〃 第 3 号 (通巻 99 号)	2011 年	11 月発行	1000 部 (学会誌内を会誌と論文集に分割)
〃 第 4 号 (通巻 100 号)	2012 年	2 月発行	1000 部

6. 風力エネルギー利用シンポジウムの開催(第 33 回)

共催：日本科学技術振興財団

協賛：日本風力発電協会、日本小形風力発電協会、風力発電推進市町村全国協議会

後援：外務省、文部科学省、経済産業省、国土交通省、環境省、新エネルギー・産業技術総合開発機構、産業技術総合研究所、新エネルギー財団、日本電機工業会、ターボ機械協会、日本太陽エネルギー学会、日本風工学会

11月29日(火)～30日(水) 科学技術館／東京 (参加者 300名)

7. 第6回再生可能エネルギー世界展示会の開催への協力

幕張メッセ(12月5日～7日)において開催、フォーラムの開催するとともに、学会として初めてのPRブースを出展(日本太陽エネルギー学会と合同にて)により協力した

8. 風力関連学会の国内および国際会議への協会／学会役員等の参加協力等

- 1) RenewableUKの日本洋上風力取材会, London, UK, 2011/05/10-11
- 2) WWEAとの交流会、東京、2011/9/14
- 3) GWECとの交流会、東京、2011/9/15
- 4) GWEC理事会、北京、中国、2011/10/18、China Wind Power2011, 2011/10/19-21
- 5) EWEA Offshore 2011, Amsterdam, Netherland, 2011/11/29-12/01
- 6) RE2011(風力デー)、幕張、2011/12/5
- 7) North Africa & Middle East RE Seminar, 東京、2012/2/27
- 8) GWECとの交流会、東京、2012/3/8
- 9) WWEAとの交流会、東京、2012/3/9

9. 見学会の実施

・世界ウインドデイの一環としての見学会等を、6月2日(木)足利工大、11日(土)横浜、13日(月)・14日(火)秋田市出前授業、18日(土)秋田県八竜市、19日(日)は苦前町・寿都町・銚子氏・掛川市・北九州市、26日(日)平戸市、の10件開催。開催結果はGWEC/EWEAに報告。

・日本太陽エネルギー学会との合同研究発表会(共催)の稚内(風力・メガソーラ)見学会 9月20日(火)
・御前崎・掛川・磐田の大型風力発電施設見学会 8月25日(木)

10. 日本太陽エネルギー学会と共催の合同研究発表会 9月21-22日 稚内

11. 風力利用事業に関する助言等普及啓発活動

・青少年のための科学の祭典(科学技術館)に出展 7月30日から3日間 千代田区／東京
・風力発電推進市町村全国協議会 総会 6月29日 他

12. 国内の風力関連事業/催しへの協力

- ・再生可能エネルギー2011世界展示会 12月5日～7日 幕張メッセ
展示会へ出展、セミナー等への協力(再生可能エネルギー協議会：協賛)
- ・風力発電コンペ WINCOM2011 10月30日(日本大学生産工学部：後援)
- ・第12回風力エネルギー利用総合セミナー 6月2日～3日(足利工業大学総合研究所：後援)
- ・第20回日本エネルギー学会大会 8月9日～10日(日本エネルギー学会：協賛)
- ・第17回流れのふしぎ展 8月13日～14日(日本機械学会：協賛)
- ・日本地熱学会平成23年学術講演会 11月9日～11日(日本地熱学会：協賛)
- ・第33回Japan Home & Building Show2011 9月28日～30日(日本能率協会：協賛)
- ・クリーン発電&スマートグリッドフェア 10月12日～14日(同実行委員会：協賛)
- ・風工学シンポジウム 12月5日～7日(日本風工学会他：協賛)
- ・洋上風力発電ワークショップ 10月25日(日本海事協会：共催)
- ・第8回自然エネルギー利用総合セミナー 11月24日～25日(足利工業大学：協賛)
- ・フラッターの制御と利用に関する第1回シンポジウム 9月15日～16日(フラッター研究会：協賛)
- ・風災害フォーラム 12月5日(風工学会：後援)
- ・全量買い取り制度による日本の再生可能エネルギーの新展開 3月6日(日本自然エネルギー学会：協賛)
- ・第2回OETR(海洋エネルギー東北再生)シンポジウム 3月27日(東京大学：後援)

13. EWEA(欧州風力エネルギー協会)日本支部として

研究活動、啓発活動に協力

14. WWEA(世界風力エネルギー協会)日本支部として

研究活動、啓発活動に協力、Annual Reportに情報を提供

15. GWEC(世界風力会議)日本支部(JWEA、JWPA事務局)として

理事会への参加、研究活動、啓発活動に協力、Annual Reportに情報を提供

16. 会員の動向

3月末日現在の会員数は、団体会員67団体(67口)(前年度末70団体) 個人会員438名(内 学生会員45名、特別会員3名、名誉会員2名)(前年度末441(内学生47、特別3、名誉2))

17. 協会／学会表彰制度の実施

- ・総会にて 功労賞3名(高田吉治氏、槌屋治紀氏、永尾徹氏)
- ・風力エネルギー利用シンポジウムにて 論文賞2件、論文ポスター賞7件授与
- ・流れの不思議展にて 日本風力エネルギー学会賞2件授与
- ・風力発電コンペ WINCOM2011にて 日本風力エネルギー学会賞1件授与

2010年度（平成22年度）事業報告

自：2010年4月 1日

至：2011年3月31日

1. 総会の開催

5月8日に総会を開催し、平成21年度事業報告、同収支決算報告及び第31回風力エネルギー利用シンポジウム決算報告、平成22年度事業計画、同収支予算計画の各議案を審議し承認した。

2. 評議員会の開催

5月8日に総会に先立ち評議員会を開催し、平成21年度事業報告、同収支決算報告及び第31回風力エネルギー利用シンポジウム決算報告、平成22年度事業計画、同収支予算計画の各議案を報告し、また意見交換をした。

3. 理事会の開催

4月14日、5月8日、6月8日、8月6日、10月8日、12月6日、2月7日に理事会を開催し、各種議案を討議した。

4. 委員会等の開催

- ・企画委員会では随時イベントに対して協議を行い対応した。
- ・編集委員会では6月8日、8月6日、10月8日、12月6日、2月7日に編集委員会を開催し協会誌の編集方針等について検討した。
- ・事業委員会では海外文献の翻訳事業を行い、鹿島出版を通して出版することとした。
- ・国際委員会では5月21日、7月9日、8月3日、9月10日、10月4日、11月8日、12月13日、1月17日、2月2日、3月9日に国際委員会ならびにGWECジャパン運営委員会を開催し国際関連について討議した。（別紙にて詳細説明）
- ・表彰啓発委員会では表彰規定について、協議検討し策定した。
- ・論文委員会では継続して論文審査を行い、22年度は投稿論文12件を審査した（内7件掲載、4件審査中、1件辞退）。なお、22年度は前年からの持ち越しを含め12件の論文が協会誌に掲載された。またシンポジウムにおいて座長から推薦された発表論文について協会誌への投稿を依頼した。21年度に協会誌に掲載された論文の中から論文賞候補論文について審議し表彰啓発委員会へ推薦した。
- ・法人化検討タスクフォースにて法人化について検討した。

5. 協会誌の発行

- 第34巻第1号(通巻93号)2010年5月発行 1000部
- 〃 第2号(通巻94号)2010年8月発行 1000部
- 〃 第3号(通巻95号)2010年11月発行 1000部
- 〃 第4号(通巻96号)2011年2月発行 1000部

6. 風力エネルギー利用シンポジウムの開催(第32回)

共催：(財)日本科学技術振興財団

協賛：(社)日本風力発電協会、日本小形風力発電協会
後援：外務省、文部科学省、経済産業省、国土交通省、環境省、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構、(独)産業技術総合研究所、(財)新エネルギー財団、(社)日本電機工業会、ターボ機械協会、(社)日本太陽エネルギー学会、風力発電推進市町村全国協議会、(社)日本風工学会

11月24日(水)～25日(木) 科学技術館／東京（参加者300名）

7. 再生可能エネルギー2010国際会議の開催

パシフィコ横浜(6月27日～7月2日)において開催、同時開催の再生可能エネルギー世界フェア(国際展示会)2010に協会のPRブースを出展(日本太陽エネルギー学会と合同にて)

8. 風力関連学会の国内および国際会議への協会役員等の参加協力等

- 1) EWEC2010, Warsaw, Poland, 20-23 Apr 2010
- 2) Windpower 2010 Conference and Exhibition (AWEA), Dallas, USA, 16-19 May 2010
- 3) 9th World Wind Energy Conference & Exhibition (WWEC), Istanbul, Turkey, 15-17 June 2010
- 4) GWEC 理事会, Warsaw, Poland, 19 Apr 2010 (EWEC開催の前日)
- 5) EWEC2011, Brussels, Belgium, 14-17 Mar 2011

9. 見学会の実施

- ・世界ウインドデイの一環としての見学会
6月9日(水)足利工大 13日(日)横浜市、掛川市、苫前町、秋田市、寿都町 15日(火)銚子市
- ・日本太陽エネルギー学会との合同研究発表会(共催)の見学会
11月3日(水)郡山布引高原風力発電所、安積疎水、猪苗代湖

10. 日本太陽エネルギー学会と共催の合同研究発表会

11月4,5日 日本大学工学部(福島県郡山市)

11. 風力利用事業に関する助言等普及啓発活動

- ・風力発電推進市町村全国協議会 第15回全国風サミット in ろっかしょ(青森県六ヶ所村9月29日～10月1日)
- ・青少年のための科学の祭典(科学技術館)に出展 7月30～8月1日の3日間 千代田区／東京

12. 国内の風力関連事業への支援

- ・再生可能エネルギー2010国際会議 22年6月27日～7月2日 パシフィコ横浜(再生可能エネルギー協議会：協賛) 展示会へ出展、セミナー等への協力
- ・風力発電コンペ WINCOM2010 10月31日(日本大学生産工学部：後援)

- ・第11回風力エネルギー利用総合セミナー 6月9日～10日（足利工業大学総合研究センター：後援）
- ・第19回日本エネルギー学会大会 8月2日～3日（日本エネルギー学会：協賛）
- ・第16回流れのふしぎ展 8月14日～15日（日本機械学会：協賛）
- ・日本地熱学会平成22年学術講演会 11月24日～26日（日本地熱学会：協賛）
- ・第32回 Japan Home & Building Show2009 11月17日～19日（日本能率協会：協賛）
- ・全国風サミット in ろっかしょ 9月29日～10月1日（風力発電推進市町村全国協議会：共催）
- ・クリーン発電&スマートグリッドフェア 7月14日～16日（同実行委員会：協賛）
- ・風工学シンポジウム 12月1日～3日（日本風工学会他：協賛）
- ・風力発電設備支持構造設計指針・同解説講習会 1月11日（土木学会：協賛）
- ・洋上風力発電ワークショップ 2月28日（日本海事協会：協賛）
- ・第7回自然エネルギー利用総合セミナー 3月16日（足利工業大学：協賛）

13. EWEA（欧州風力エネルギー協会）日本支部として研究活動、啓発活動に協力

14. WWEA（世界風力エネルギー協会）日本支部として研究活動、啓発活動に協力

15. GWEC（世界風力会議）日本支部（JWEA、JWPA事務局）として研究活動、啓発活動に協力

16. 会員の動向

入会： 団体会員 5団体 個人会員 38名
 退会： 団体会員 9団体 個人会員 62名
 なお、3月末日現在の会員数は、団体会員 70団体（70口） 個人会員 441名（内 学生会員 47名）

17. 協会表彰制度の実施

・シンポジウムにて論文ポスター賞 7件授与

・流れの不思議展にて2件授与 日本風力エネルギー協会賞

・風力発電コンペ WINCOM2010 にて1件授与 日本風力エネルギー協会賞

2009年度（平成21年度）事業報告

自：2009年4月 1日 至：2010年3月31日

1. 総会の開催

5月9日に総会を開催し、平成20年度事業報告、同収支決算報告及び第30回風力エネルギー利用シンポジウム決算報告、平成21年度事業計画、同収支予算計画の各議案を審議し承認した。

2. 評議員会の開催

5月9日に総会に先立ち評議員会を開催し、平成20年度事業報告、同収支決算報告及び第30回風力エネルギー利用シンポジウム決算報告、平成21年度事業計画、同収支予算計画の各議案を報告し、また意見交換をした。

3. 理事会の開催

4月15日、5月9日、7月2日、9月1日、11月10日、12月15日、2月15日、3月29日に理事会を開催し、各種議案を討議した。

4. 委員会の開催

・4月15日、7月2日、9月1日、11月10日、12月15日、3月29日に編集委員会を開催し協会誌の編集方針等について検討した。
・5月9日に事業委員会を開催し、技術講習会や法人化について検討した。
・5月12日、7月2日、8月25日、10月19日、12月11日、2月12日に国際委員会ならびにGWECジャパン運営委員会を開催し国際関連について討議した。
・論文委員会では継続して論文審査を行い、21年度は投稿論文10件を審査した（内4件掲載、5件審査中、1件辞退）。なお、21年度は前年からの持ち越しを含め12件の論文が協会誌に掲載された。

5. 協会誌の発行

第33巻第1号（通巻89号）2009年5月発行 1000部
〃 第2号（通巻90号）2009年8月発行 1000部
〃 第3号（通巻91号）2009年11月発行 1000部
〃 第4号（通巻92号）2010年2月発行 1000部

6. 風力エネルギー利用シンポジウムの開催（第31回）

共催：（財）日本科学技術振興財団

協賛：（中）日本風力発電協会、風力発電事業者懇話会、日本小形風力発電協会

後援：文部科学省、経済産業省、国土交通省、環境省、
（独）新エネルギー・産業技術総合開発機構、（独）産業技術総合研究所、（財）新エネルギー財団、（社）日本電機工業会、ターボ機械協会、日本太陽エネルギー学会、風力発電推進市町村全国協議会、エネルギー変換懇話会、日本風工学会

11月26日（木）～27日（金） 科学技術館／東京（参加者303名）

7. 風力発電の低周波／騒音セミナーの開催

科学技術館において5月9日14:30-17:00（総会の後）に開催（参加者150余名）

8. 風力発電システム技術講習会の開催

科学技術館において10月16日、30日、11月13日、14日の4回にわたり開催（延べ参加者61名）

9. 風力発電フォーラムの開催

第4回新エネルギー世界展示会兼国際フォーラム 幕張メッセ（6月24日～26日）において6月25日に開催、協会のPRブースを出展（日本太陽エネルギー学会と合同にて）

10. 風力関連学会の国内および国際会議への協会役員等の参加協力等

- 1) Windpower 2009 Conference and Exhibition (AWEA),
Chicago, USA, 4-7 May 2009
- 2) 8th World Wind Energy Conference 2009 (WWEC),
Jeju Island, Korea, 23-25 June 2009
- 3) China WindPower (supported by GWEC),
Beijing, China, 21-23 October 2009

11. 見学会の実施

・風力発電親子見学会（横浜市、三菱重工業（株））の開催 6月14日（世界ウインドデイの一環として 主催：GWEC、JWEA、JWPA、横浜市）
・銚子・神栖見学会の開催 8月28日（参加者80名）
・長崎三菱重工他の見学 11月4日（日本太陽エネルギー学会と共催の合同研究発表会に際して）

12. 日本太陽エネルギー学会と共催の合同研究発表会

長崎ブリックホール／長崎市 11月5日、6日

13. 風力利用事業に関する助言等普及啓発活動

・風力発電推進市町村全国協議会 第14回全国風サミット in ほうくえい（鳥取県北栄町 7月9日～10日）
・青少年のための科学の祭典（科学技術館）に出展 7月31～8月2日の3日間 千代田区／東京
・風力エネルギー連絡協議会（代表 荒川忠一 JWEA 勝呂、長井、JWPA、風力発電事業者懇話会、風力発電推進市町村全国協議会、小型風力・太陽光発電普及協会、自然エネルギー研究会、日本電機工業会、新エネルギー財団）

14. 国内の風力関連事業への支援

・第9回風力エネルギー利用総合セミナー 6月19日～20日（足利工業大学総合研究センター：後援）
・第4回新エネルギー世界展示会兼国際フォーラム 幕張メッセ 6月24日～26日（再生可能エネルギー協議会：協賛）展示会へ出展、セミナー等への協力
・第18回日本エネルギー学会大会 7月30日～31日

(日本エネルギー学会：協賛)

・第15回流れのふしぎ展 8月11日～12日(日本機械学会：協賛)

・風力発電コンペ WINCOM2009 9月6日(日本大学生産工学部：後援)

・全国風シンポジウム in あさひ(富山県朝日町) 9月23日～24日(風力発電推進市町村全国協議会：共催)

・第10回風力エネルギー利用総合セミナー 10月16日～17日(足利工業大学総合研究センター：後援)

・IEC 風力発電専門プロジェクト部会(PT26)セミナー 10月27日(日本風力発電協会：後援)

・第31回 Japan Home & Building Show 11月11日～13日(日本能率協会：協賛)

・日本地熱学会平成21年学術講演会 11月30日～12月2日(日本地熱学会：協賛)

15. EWEA(欧州風力エネルギー協会)日本支部として研究活動、啓発活動に協力(会員数 30名 3

月末日現在)

16. WWEA(世界風力エネルギー協会)日本支部として研究活動、啓発活動に協力(会員数 22名 3月末日現在)

17. GWE C(世界風力会議)日本支部(JWEA、JWPA事務局)として研究活動、啓発活動に協力

18. 会員の動向

入会： 団体会員 3団体 個人会員 49名

退会： 団体会員 7団体 個人会員 36名

なお、3月末日現在の会員数は、団体会員74団体(76口) 個人会員463名(内 学生会員52名)

19. 協会表彰制度の実施

・シンポジウムにて論文ポスター賞7件授与
日本風力エネルギー協会

2008年度（平成20年度）事業報告

自：2008年4月 1日

至：2009年3月31日

1. 総会の開催

5月10日に総会を開催し、平成19年度事業報告、同収支決算報告及び第29回風力エネルギー利用シンポジウム決算報告、平成20年度事業計画、同収支予算計画の各議案を審議し承認した。

2. 評議員会の開催

11月27日に評議員会を開催し、委員会報告と意見交換をした。

3. 理事会の開催

4月25日、5月10日、7月15日、9月18日、11月10日、12月15日、2月20日に理事会を開催し、各種議案を討議した。

4. 委員会の開催

- ・5月10日、7月15日、9月18日、11月10日、12月15日、2月20日に編集委員会を開催し協会誌の編集方針等について検討した。
- ・3月19日に企画委員会を開催しホームページの改定について検討した。
- ・4月18日に事業委員会を開催し、技術講習会や法人化について検討した。
- ・7月7日、9月18日、12月9日、2月16日、3月25日国際委員会ならびに GWEC ジャパン運営委員会を開催し国際関連について討議した。
- ・4月25日に論文委員会を開催し、今後の進め方について討議した。20年度は投稿論文14件を審査し、5件が協会誌に掲載された。(3件は掲載待ち、5件は審査中、1件は辞退)

5. 協会誌の発行

- 第32巻1号(通巻85号)2008年5月発行1000部
- 〃 2号(通巻86号)2008年8月発行1000部
- 〃 3号(通巻87号)2008年11月発行1000部
- 〃 4号(通巻88号)2009年2月発行1000部

6. 風力エネルギー利用シンポジウムの開催(第30回)

共催:(財)日本科学技術振興財団

協賛:(中)日本風力発電協会、風力発電事業者懇話会、小型風力・太陽光発電普及協会

後援:文部科学省、経済産業省、国土交通省、環境省、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構、(独)産業技術総合研究所、(財)新エネルギー財団、(社)日本電機工業会、ターボ機械協会、日本太陽エネルギー学会、風力発電

推進市町村全国協議会、エネルギー変換懇話会、日本風工学会

11月27日(木)～28日(金) 科学技術館／東京 (参加者318名)

7. 風力発電フォーラムの開催

第3回新エネルギー世界展示会兼国際フォーラム 東京ビックサイト(7月30日～8月1日)において8月1日に開催、協会のPRブースを出展(日本太陽エネルギー学会と合同にて)

8. 風力関連学会の国内および国際会議への協会役員等の参加協力等

- 1) European Wind Energy Conference & Exhibition (EWEC), Brussels Expo, Belgium, 31 March – 3 April 2008
- 2) 7th World Wind Energy Conference 2008 (WWEC), Kingston, Canada, 24-26 June 2008
- 3) Global WindPower 2008, China WindPower (supported by GWEC), Beijing, China, 29-31 October 2008
- 4) European Wind Energy Conference & Exhibition (EWEC), Marseille, France, 16 – 19 March 2009

9. 見学会の実施

- ・風力発電親子見学会(横浜市、三菱重工業(株))の開催
6月15日
(世界ウインドデイの一環として 主催:GWEC、GIAC、横浜市)
- ・鳥取北栄町風力発電所の見学 11月5日
(日本太陽エネルギー学会と共催の合同研究発表会に際して)

10. 日本太陽エネルギー学会と共催の合同研究発表会

とりぎん文化会館／鳥取市 11月6日、7日

11. 風力利用事業に関する助言等普及啓発活動

- ・風力発電推進市町村全国協議会 全国風シンポジウム in あさひ(富山県朝日町 9月23日～24日)
- ・青少年のための科学の祭典(科学技術館)に出展 7月25-27の3日間 千代田区／東京
- ・風力エネルギー連絡協議会(代表 荒川忠一 JWEA 勝呂、長井、JWPA、風力発電事業者懇話会、風力 発電推進市町村全国協議会、小型風力・太陽光発電普及協会、自然エネルギー研究会、日本電機工業会、新エネルギー財団)

12. 国内の風力関連事業への支援

- ・第 8 回風力エネルギー利用総合セミナー 6 月 20 日～21 日(足利工業大学総合研究センター:後援)
- ・第 3 回新エネルギー世界展示会兼国際フォーラム 東京ビックサイト 7 月 30 日～8 月 1 日(再生可能エネルギー協議会:協賛) 展示会へ出展、セミナー等への協力
- ・第 17 回日本エネルギー学会大会 8 月 4 日～5 日(日本エネルギー学会:協賛)
- ・第 14 回流れのふしぎ展 8 月 16 日～17 日(日本機械学会:協賛)
- ・全国風シンポジウム in あさひ(富山県朝日町) 9 月 23 日～24 日(風力発電推進市町村全国協議会:共催)
- ・第 6 回 Osaka Home expo2008 10 月 24 日～26 日(日本能率協会:協賛)
- ・日本地熱学会平成 20 年学術講演会 10 月 30 日～11 月 1 日(日本地熱学会:協賛)
- ・風力発電コンペ WINCOM2008 11 月 2 日(日本大学生産工学部:後援)
- ・第 10 回 Japan Home & Building Show2008 11 月 12 日～14 日(日本能率協会:協賛)
- ・第 108 回講習会「クリーンエネルギー…持続可能な次世代エネルギーの開発」 1 月 28 日(日本機械学会:協賛)

- ・第 2 回エネルギー変換懇話会シンポジウム「バイオマス燃料」3 月 4 日(エネルギー変換懇話会:協賛)

13. EWEA(欧州風力エネルギー協会)日本支部として研究活動、啓発活動に協力

(会員数 31 名 3 月末日現在)

14. WWEA(世界風力エネルギー協会)日本支部として研究活動、啓発活動に協力

(会員数 22 名 3 月末日現在)

15. GWEC(世界風力会議)日本支部(JWEA、JWPA 事務局)として研究活動、啓発活動に協力

16. 会員の動向

入会: 団体会員 7 団体 個人会員 30 名

退会: 団体会員 8 団体 個人会員 46 名

なお、3 月末日現在の会員数は、団体会員 78 団体(84 口)

個人会員 450 名(内 学生会員 48 名)

17. 協会表彰制度の実施

- ・シンポジウムにて論文ポスター賞 7 件授与

日本風力エネルギー協会

2007年度(平成19年度)事業報告

自:2007年4月1日 至:2008年3月31日

1. 総会の開催

5月12日に総会を開催し、平成18年度事業報告、同収支決算報告及び第28回風力エネルギー利用シンポジウム決算報告、平成19年度事業計画、同収支予算計画の各議案を審議し承認した。

2. 理事会の開催

4月20日、5月12日、7月26日、9月14日、10月26日、12月10日、1月18日、2月27日、3月21日に理事会を開催し、各種議案を討議した。

3. 委員会の開催

- ・5月12日、6月21日、8月22日、9月14日、10月26日、12月14日、2月27日に編集委員会を開催し協会誌の編集方針等について検討した。
- ・6月21日に企画委員会を開催し国際シンポジウム等について検討した。
- ・4月18日に事業委員会を開催し、技術講習会や法人化について検討した。
- ・3月14日に選挙管理委員会を開催し、評議員選挙の開票をした。
- ・4月26日、5月31日、6月26日、7月24日、9月14日、10月13日、12月7日、1月25日、3月3日に 国際委員会がGWEC-Japanを開催し、国際関連について討議した。
- ・論文委員会では投稿論文16件を審査し、5件が協会誌に掲載された。(8件は審査中)

4. 協会誌の発行

31巻1号(通巻81号)2007年5月発行1000部
31巻2号(通巻82号)2007年8月発行1000部
31巻3号(通巻83号)2007年11月発行2000部
83号は30周年記念として発行
31巻4号(通巻84号)2008年2月発行1000部

5. 風力エネルギー利用シンポジウムの開催(第29回30周年記念)

共催:(財)日本科学技術振興財団
協賛:(中)日本風力発電協会、風力発電事業者懇話会、小型風力・太陽光発電普及協会

後援:文部科学省、経済産業省、国土交通省、環境省、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構、(独)産業技術総合研究所、(財)新エネルギー財団、(社)日本電機工業会、ターボ機械協会、日本太陽エネルギー学会、風力発電推進市町村全国協議会、エネルギー変換懇話会、日本風工学会
11月28日(水)~29日(木)
科学技術館/東京 (参加者344名)

6. JWEA30周年記念風力発電国際シンポジウムの開催

第2回新エネルギー世界展示会兼国際フォーラム 幕張メッセ/千葉(10月10日~12日)において10月11日に開催
(NEDOの補助事業「新エネルギー・省エネルギー非営利活動促進事業」対象として)

7. 風力発電システム技術講習会開催

平成19年6月29日、7月20日、8月24日、9月21日の4回に分けて(科学技術館)

8. 風力関連学会の国内および国際会議への協会役員等の参加協力等

- ・European Wind Energy Conference & Exhibition MIC - Milano Convention Centre, Milan, Italy, 7-10 May 2007
- ・World Wind Energy Conference and Exhibition "WVEC 2007" Mar del Plata, Argentina, 2-4 October 2007
- ・The WindPower Shanghai 2007 conference and exhibition (supported by GWEC) Shanghai, China, 1-3 November 2007

9. 見学会の実施

- ・郡山布引高原風力発電施設見学・説明会 6月2日
- ・PVモジュール製造工場ならびに住宅用断熱パネル製造工場見学会 10月24日
(日本太陽エネルギー学会と共催の合同研究発表会に際して)

10. 日本太陽エネルギー学会と共催の合同研究発表会

札幌コンベンションセンター10月25、26日

1 1. 風力利用事業に関する助言等普及啓発活動

- ・風力発電推進市町村全国協議会 全国風サミット（高知県梼原 10月4日～5日）
- ・青少年のための科学の祭典（科学技術館）に出展 7月27-28の2日間 千代田区／東京
- ・風力エネルギー連絡協議会（代表 荒川忠一 JWEA勝呂、長井、JWPA、風力発電事業者懇話会、風力発電推進市町村全国協議会、小型風力・太陽光発電普及協会、自然エネルギー研究会、日本電機工業会、新エネルギー財団）

1 2. 国内の風力関連事業への支援

- ・第2回新エネルギー世界展示会兼国際フォーラム 幕張メッセ／千葉 10月10～12日 シンポジウム、研究会、展示会等への協力 小学生書画展開催 日本太陽エネルギー学会と共催
- ・第7回風力エネルギー利用総合セミナー 6月22日～23日（足利工業大学総合研究センター：後援）
- ・第16回日本エネルギー学会大会 8月2日～3日（日本エネルギー学会：協賛）
- ・第13回流れのふしぎ展 8月11日～12日（日本機械学会：協賛）
- ・日本地熱学会平成19年学術講演会 11月19日～23日（日本地熱学会：協賛）
- ・第9回Japan Home & Building Show2007 11月14日～16日（日本能率協会：協賛）
- ・第5回Osaka Home expo2007 10月25日～27日（日本能率協会：協賛）
- ・第13回全国風サミット 10月4日～5日（風力発電推進市町村全国協議会：共催）

- ・風力発電支持物構造指針・同解説講習会 11月30日（土木学会：協賛）
- ・市民共同発電所全国フォーラム2007inおおさか 9月22日～23日（市民共同発電所全国フォーラム2007実行委員会：後援）
- ・欧州洋上風力発電施設視察団 9月16日～23日（霞ヶ関トラベル：協賛）

1 3. EWEA（欧州風力エネルギー協会）

日本支部として研究活動、啓発活動に協力（会員数 35名 3月末日現在）

1 4. WWEA（世界風力エネルギー協会）

日本支部として研究活動、啓発活動に協力（会員数 25名 3月末日現在）

1 5. GWEA（世界風力会議） 日本支部（JWEA、JWPA事務局）として研究活動、啓発活動に協力

1 6. 会員の動向

入会：団体会員5団体 個人会員54名
退会：団体会員12団体 個人会員52名
なお、3月末日現在の会員数は、団体会員79団体（85口）個人会員466名（内 学生会員44名）

1 7. 協会表彰制度の実施

- ・シンポジウムにて功労賞12名（下記）授与 石田博氏、大石強氏、大森豊明氏、岡澤公夫氏、河野順一氏、玉造貞一氏、土屋敬一氏、西道弘氏、紅谷淑子氏、松本文雄氏、宮崎肇氏、與那嶺武氏、
- ・シンポジウムにて論文ポスター賞7件授与
- ・太陽エネルギー学会との合同研究発表会（第2回新エネルギー世界展示会）での小学生書画展において表彰

2006年度(平成18年度)事業報告

自:2006年4月1日 至:2007年3月31日

1. 総会の開催

5月13日に総会を開催し、平成17年度事業報告、同収支決算報告及び第27回風力エネルギー利用シンポジウム決算報告、平成18年度事業計画、同収支予算計画、規約の改正の各議案を審議し承認した。

8月5日に臨時総会を開催し、新規約に則っての評議員選出、評議員の投票により選出された理事と監事、理事の投票により選出された会長、会長により選出された副会長について報告し、承認した。

2. 理事会の開催

4月17日、5月13日、7月10日、8月5日、9月29日、11月22日、1月26日、3月23日に理事会を開催し、各種議案を検討した。

3. 委員会の開催

6月19日、9月8日、11月30日、1月26日、3月23日に編集委員会を開催し協会誌の編集方針等について検討した。9月8日に企画委員会を開催しシンポジウム等について検討し、また同日企画・事業合同委員会を開催しシンポジウム、法人化、30周年記念行事等について検討した。12月22日に事業委員会を開催し、技術講習会や法人化について検討した。

4. 協会誌の発行

第30巻第1号(通巻77号)2006年6月発行 950部
〃 第2号(通巻78号) 〃 9月発行 950部
〃 第3号(通巻79号)2007年1月発行 950部
〃 第4号(通巻80号) 〃 3月発行 1000部

5. 風力エネルギー利用シンポジウムの開催(第28回)

共催:(財)日本科学技術振興財団

協賛:(中)日本風力発電協会、風力発電事業者懇話会、小型風力・太陽光発電普及協会

後援:文部科学省、経済産業省、国土交通省、環境省、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構、(独)産業技術総合研究所、(財)新エネルギー財団、(社)日本電機工業会、ターボ機械協会、日本太陽エネルギー学

会、風力発電推進市町村全国協議会、エネルギー変換懇話会、日本風工学会

11月21日(火)~22日(水) 科学技術館/東京
(参加者364名)

6. 風力関連学会の国内および国際会議への協会役員等の参加協力等

・Wind energy 2006—International Trade Fair

5月16-19日 ハンブルグ・ドイツ

・Global Windpower 2006 conference

9月25日 アデレード・オーストラリア

・World Wind Energy Conference & Renewable energy Exhibition 11月6-8日 ニューデリー・インド

・再生可能エネルギー2006 国際会議

10月9-13日 幕張メッセ・千葉

・風力発電施設と自然環境保全に関する研究会(環境省、資源エネルギー庁) 3月30日 東京

7. 見学会の実施

・大規模太陽光発電コミュニティ「パルタウン」一日ツアー 10月14日

・JHFC 燃料電池自動車博物館—MHI みなとみらい館 2.4MW 風車ツアー 10月14日

(再生可能エネルギー2006の開催に併せて)

8. 日本太陽エネルギー学会と共催の合同研究発表会

幕張メッセ 10月12日、13日

(再生可能エネルギー2006の開催に併せて)

9. 風力利用事業に関する助言等普及啓発活動

・風力発電推進市町村全国協議会(風サミットに代わるシンポジウム)

・風力エネルギー連絡協議会(代表 荒川忠一 JWEA 勝呂、長井、JWPA、風力発電事業者懇話会、風力発電推進市町村全国協議会、小型風力・太陽光発電普及協会、自然エネルギー研究会、日本電機工業会、新エネルギー財団)

10. 国内の風力関連事業への支援

・再生可能エネルギー2006 国際会議

幕張メッセ／千葉 10月9日～13日
(RE2006 国際組織委員会:共催)

シンポジウム、研究会、展示会等への協力

・第6回風力エネルギー利用総合セミナー 6月23日～24日 (足利工業大学総合研究センター:後援)

・第15回日本エネルギー学会大会 8月3日～4日 (日本エネルギー学会:協賛)

・第12回流れのふしぎ展 8月5日～6日 (日本機械学会:協賛)

・日本地熱学会平成18年学術講演会 11月19日～23日 (日本地熱学会:協賛)

・第28回 Japan Home & Building Show2006 11月15日～17日 (日本能率協会:協賛)

・第5回 Osaka Home Show2006 10月26日～28日 (日本能率協会:協賛)

11. EWEA (欧州風力エネルギー協会) 日本支部として研究活動、啓発活動に協力

(会員数 36名 3月末日現在)

12. WWEA (世界風力エネルギー協会) 日本支部と

して研究活動、啓発活動に協力

(会員数 25名 3月末日現在)

13. GWEC (世界風力会議) 日本支部 (JWEA、JWPA事務局) として研究活動、啓発活動に協力

14. 会員の動向

入会: 団体会員 2団体 個人会員 29名

退会: 団体会員 8団体 個人会員 55名

なお、3月末日現在の会員数は、団体会員 86団体 (92口) 個人会員 463名 (内 学生会員 21名)

15. 協会表彰制度の実施

・シンポジウムにて論文ポスター賞 7件授与

・太陽エネルギー学会との合同研究発表会 (第1回新エネルギー世界展示会) での小学生書画展において表彰

・三和プリントへの感謝状 (協会誌「風力エネルギー」の長年にわたる編集・印刷協力に対し)

16. 支部活動への支援

・九州支部での環境フェアにて 新エネルギー書画・写真展における表彰

日本風力エネルギー協会
2005年度（平成17年度）事業報告

自：2005年4月 1日
至：2006年3月31日

1. 理事会、総会の開催

4月14日に理事会、5月14日に理事会、総会を開催し、平成16年度事業報告、同収支決算報告及び第26回風力エネルギー利用シンポジウム決算報告、平成17年度事業計画、同収支予算計画及び役員交代の6つの議案を採択した。

12月28日、2月22日にGWEC国際シンポジウムを中心とした議題で理事会を開催した。

2. 企画・編集委員会の開催

6月7日、8月23日、9月29日、12月15日、3月17日、企画・編集委員会を開催し、協会誌の編集方針、第27回風力エネルギー利用シンポジウムの実施及び協会の運営等について検討を行った。

3. 協会誌の発行

第29巻 第1号（通巻73号）	2005年	5月発行	1100部
〃 第2号（通巻74号）	〃	8月発行	1100部
〃 第3号（通巻75号）	〃	11月発行	1100部
〃 第4号（通巻76号）	〃	2月発行	1000部

4. 風力エネルギー利用シンポジウムの開催（第27回）

共催：（財）日本科学技術振興財団

協賛：（中）日本風力発電協会、風力発電事業者懇話会、小型風力・太陽光発電普及協会

後援：文部科学省、経済産業省、（独）新エネルギー・産業技術総合開発機構、（独）産業技術総合研究所、（財）新エネルギー財団、（社）日本電機工業会、ターボ機械協会、日本太陽エネルギー学会、風力発電推進市町村全国協議会、エネルギー変換懇話会
日本風工学会

11月24日（木）～25日（金） 科学技術館／東京 （参加者346名）

5. 風力発電システム技術講習会の開催

2005年6月13日、6月27日、7月25日、8月8日、8月22日 合計5回 （参加登録者55名）

6. 風力関連学会の国内および国際会議への協会役員等の参加協力等

日本風工学会

World Wind Energy Conference & Renewable energy Exhibition

11月2-5日 メルボルン・オーストラリア

European Wind Energy Conference & Exhibition 2月27日-3月2日 アテネ・ギリシャ

7. 見学会の実施

・三菱重工業（株）長崎造船所 平成17年7月 8日（金）（50名）

・千葉銚子、茨城神栖市内の大型風力発電施設見学・説明会 平成18年3月18日（土）（91名）

（共催：日本太陽エネルギー学会、エネルギー変換懇話会）

8. 日本太陽エネルギー学会と共催の合同研究発表会

諏訪東京理科大学（長野県茅野市） 10月20日～22日

9. 風力利用事業に関する助言等普及啓発活動

風力発電推進市町村全国協議会他

- ・平成17年度風力発電推進市町村全国協議会シンポジウム 11月10日～11日
(風力発電推進市町村全国協議会：協賛)

1 0. 国内の風力関連事業への支援

- ・再生可能エネルギー2006国際会議を共催し、その準備活動を支援
2006年10月9日～13日開催予定 幕張メッセ／千葉
- ・第5回風力エネルギー利用総合セミナー 6月24日～25日
(足利工業大学総合研究センター：後援)
- ・エコランド 2005 6月12日 (山形県立川町：後援)
- ・第14回日本エネルギー学会大会 8月4日～5日 (日本エネルギー学会：協賛)
- ・第11回流れふしぎ展 8月27日～28日 (日本機械学会：協賛)
- ・第12回全国風サミット 5月19日～21日 (愛知県田原市：共催)
- ・第4回自然エネルギー利用総合セミナー 11月18日～19日 (足利工業大学：後援)
- ・日本地熱学会平成17年学術講演会 11月18日～20日 (日本地熱学会：協賛)
- ・港湾・沿岸域における風力発電推進シンポジウム 7月19日
(沿岸技術研究センター：後援)
- ・第27回Japan Home & Building Show2005 11月8日～11日 (日本能率協会：協賛)
- ・第4回ホームビルダーズエキスポOSAKA2005 11月17日～19日 (日本能率協会：協賛)
- ・Photo コンテスト 8月1日～10月31日 (風力発電協会：後援)
- ・IPEX2005第6回分散型エネルギーシステム総合展 11月30日～12月2日
(メサゴ・メッセフランクフルト：協賛)

- #### 1 1. EWEA (欧州風力エネルギー協会) 日本支部として研究活動、啓発活動に協力
- (会員数 36名 3月末日現在 (会費未払い者は除く))

- #### 1 2. WWEA (世界風力エネルギー協会) 日本支部として研究活動、啓発活動に協力

- #### 1 3. GWEC (世界風力会議 (仮訳)) 日本支部として研究活動、啓発活動に協力
- GWEC設立記念「国際シンポジウム2005」を日本風力発電協会と共催で開催支援
2005年12月8日、9日 於：パシフィコ横浜

1 4. 会員の動向

入会： 団体会員 3団体 個人会員 33名

退会： 団体会員 7団体 個人会員 79名 (2年以上滞納者38名除名含む)

なお、3月末日現在の会員数は、団体会員92団体 (98口) 個人会員489名 (内 学生会員30名)

1 5. 協会表彰制度の実施

- ・シンポジウムにて論文ポスター賞7件授与

1 6. 支部活動への支援

関西支部への活動支援

風力エネルギー活用推進フォーラム ー地球環境時代を生き抜くー

「風力エネルギー活用の現状と推進可能性」

2005年11月18日 於：全日空ゲートタワーホテル大阪

2004年度（平成16年度）事業報告
自：2004年4月1日　　至：2005年3月31日

1. 理事会、総会の開催

4月6日に理事会、5月8日に総会を開催し、平成15年度事業報告、同収支決算報告及び第25回記念風力エネルギー利用シンポジウム決算報告、平成16年度事業計画、同収支予算計画及び役員改選の6つの議案を採択した。

2. 企画・編集委員会の開催

5月29日、8月24日、10月2日、12月24日、3月16日、企画・編集委員会を開催し、協会誌の編集方針、第26回風力エネルギー利用シンポジウムの実施及び協会の運営等について検討を行った。

3. 協会誌の発行

第28巻	第1号（通巻69）	2004年	5月発行	1100部
〃	第2号（通巻70）	〃	8月発行	1100部
〃	第3号（通巻71）	〃	11月発行	1100部
〃	第4号（通巻72）	2005年	2月発行	1100部

4. シンポジウム兼研究発表会の開催（第26回）

共催：（財）日本科学技術振興財団

協賛：日本風力発電協会、風力発電事業者懇話会

後援：文部科学省、経済産業省、新エネルギー産業技術総合開発機構、産業技術総合研究所、新エネルギー財団、ターボ機械協会、日本太陽エネルギー学会、風力発電推進市町村全国協議会、エネルギー変換懇話会

11月25～26日　　科学技術館／東京　　（参加者　370名）

5. 風力関連学会の国際会議への協会役員等の参加協力等

Wind Energy - International Trade Fair	5月11～14日	ハンブルク・ドイツ
World Renewable Energy Congress& Exhibition	8月28～9月3日	デンバー・アメリカ
World Wind Energy Conference & Exhibition	10月31～11月4日	北京・中国
European Wind Energy Conference & Exhibition	11月22～25日	ロンドン・イギリス

6. 見学会の実施

11月6日　北九州市・響灘ウインドファーム　（共催：日本太陽エネルギー学会、エネルギー変換懇話会）

7. 風力関連の教育啓発活動

風力発電推進市町村全国協議会他

11月3日　文化の日に集う自然エネルギーワークショップ（共催：日本太陽エネルギー学会）
於：北九州市若松区赤崎小学校、北九州市立大学、

8. 日本太陽エネルギー学会との合同研究発表会

11月4日～5日　平成16年度日本太陽エネルギー学会・日本風力エネルギー協会合同研究発表会

－ 1 －

共催：日本太陽エネルギー学会、北九州市若松区、北九州市環境局、九州自然エネルギー研究会

於：北九州研究学園都市・産学連携センター（北九州市）

9. 国内の風力関連事業への支援

第4回風力エネルギー利用総合セミナー	6月25日～27日 (足利工業大学総合研究センター：後援)
エコランド 2004	6月20日(山形県立川町：後援)
第13回日本エネルギー学会大会	7月29日～30日 (日本エネルギー学会：協賛)
第10回流れと遊ぶアイデアコンテスト	8月(日本機械学会：協賛)
第11回全国風サミット	10月13日～15日 (北海道稚内市：共催)
第5回風力エネルギー利用総合セミナー	10月25日26日 (足利工業大学総合研究センター：後援)
日本地熱学会平成16年学術講演会	12月1日～3日 (日本地熱学会：協賛)
COEワークショップ「CFDによる乱気流境界層のシミュレーション」	(東京工芸大学風工学研究センター：後援)

10. EWEA(欧州風力エネルギー協会)日本支部として研究活動や啓発活動に協力
(会員数 35名 3月末日現在)

11. WWEA(世界風力エネルギー協会)日本支部として研究活動や啓発活動に協力
(会員数 32名 3月末日現在)

12. 協会表彰制度の実施

・論文ポスター賞 授与	石原 猛(東京大学大学院)他3名
・論文ポスター賞 授与	加藤 隆行(三重大学大学院)他3名
・論文ポスター賞 授与	康 仁勝(鳥取大学大学院)他5名
・論文ポスター賞 授与	相良 啓太(東海大学)他2名
・論文ポスター賞 授与	佐々木 律子((財)日本気象協会)他3名
・論文ポスター賞 授与	谷川 亮一((株)CRCソリューションズ)他3名
・論文ポスター賞 授与	平井 滋登(三菱重工業(株))他3名

13. 会員の動向

入会： 団体会員 3団体 個人会員 54名

退会： 団体会員 8団体 個人会員 38名

なお、3月末日現在の会員数は、団体会員96団体 個人会員554名(内 学生会員44名)

14. 支部活動への支援

九州支部への活動支援(自然エネルギーワークショップ)

2003年度（平成15年度）事業報告
自：2003年4月1日 至：2004年3月31日

1. 理事会、総会の開催

5月10日総会を開催し、平成14年度事業報告、同収支決算報告及び第24回風力エネルギー利用シンポジウム決算報告、平成15年度事業計画、同収支予算計画及び役員交代の6つの議案を採択した。

2. 企画・編集委員会の開催

5月9日、7月24日、9月18日、12月18日、2月25日、企画・編集委員会を開催し、協会誌の編集方針、第25回記念風力エネルギー利用シンポジウムの実施及び協会の運営等について検討を行った。

3. 協会誌の発行

第27巻	第1号（通巻65）	2003年	4月発行	1100部
"	第2号（通巻66）	"	6月発行	1100部
"	第3号（通巻67）	"	9月発行	1100部
"	第4号（通巻68）	2004年	1月発行	1100部

4. シンポジウム兼研究発表会の開催（第25回記念）

共催：（財）日本科学技術振興財団

協賛：日本風力発電協会、風力発電事業者懇話会

後援：文部科学省、経済産業省、新エネルギー・産業技術総合開発機構、産業技術総合研究所、新エネルギー財団、ターボ機械協会、日本太陽エネルギー学会、風力発電推進市町村全国協議会、エネルギー変換懇話会

11月19～20日 科学技術館／東京 （参加者 404名）

5. 風力関連学会の国際会議への協会役員等の参加協力等

Offshore Wind Energy in Mediterranean and other European Seas

4月10～12日 ナポリ・イタリア

European Wind Energy Congress

6月16～20日 マドリッド・スペイン

World Wind Energy Conference

11月23～26日 ケープタウン・南アフリカ

韓国風力エネルギー協会シンポジウム

12月5日 全州市・韓国

6. 見学会の実施

東京都地球温暖化阻止先導施設「東京臨海風力発電所」、「水素供給スタンド」見学

7月29日 （共催：日本太陽エネルギー学会、エネルギー変換懇話会）

足利工業大学「風と光の広場」、太田市役所「太陽電池利用窓庁舎」、電力中央研究所赤城試験センター見学

11月 8日 （合同：日本太陽エネルギー学会）

7. 風力関連の教育啓発活動

風力発電推進市町村全国協議会他

8. 日本太陽エネルギー学会との合同研究発表会

足利工業大学 11月6～7日

9. 国内の風力関連事業への支援

第3回風力エネルギー利用総合セミナー 6月27～28日
(足利工業大学総合研究センター：後援)

エコランド 2003 6月15日(山形県立川町：後援)

日本エネルギー学会第12回年次大会 7月30～31日(日本エネルギー学会：協賛)

第9回流れと遊ぶアイデアコンテスト 8月23日(神奈川工科大学：協賛)

第10回全国風サミット 10月6～8日(岩手県浄法寺町：共催)

CFDによる局所的風況予測システム-LAWEPSから始まる風車適地選定-
11月10日(シンポジウム実行委員会：協賛)

第5回分散型発電システム&新エネルギー総合展11月11～13日(IPPEX2003実行委員会：協賛)

自然エネルギーフォーラム 11月21～23日(東北大学：協賛)

日本地熱学会平成15年学術講演会 11月21～23日(日本地熱学会：協賛)

秋田発・新小型風車研究開発セミナー 2月13日(秋田風力発電研究会：後援)

第61回セミナー「風力発電：日本における風力発電の現状及び課題と対策」
3月15日(ターボ機械協会：協賛)

10. EWEA(欧州風力エネルギー協会)日本支部として研究活動や啓発活動に協力
(会員数 36名 3月末日現在)

11. WWEA(世界風力エネルギー協会)日本支部として研究活動や啓発活動に協力
(会員数 34名 3月末日現在)

12. 協会表彰制度の実施

功労賞 授与 清水 幸丸(三重大学教授)

功労賞 授与 小島 剛(オフィス・エコロジー(株)代表取締役社長)

功労賞 授与 高月 一((株)阪神技術研究所非常勤顧問)

功労賞 授与 対馬 健(元 三菱重工業(株)長崎造船所風車設計技師)

功労賞 授与 関 和市(東海大学教授)

功労賞 授与 松宮 輝((独)産業技術総合研究所主任研究員)

論文ポスター賞 授与 石原 孟(東京大学大学院)他3名

論文ポスター賞 授与 井上 厚助(三菱重工業(株))他3名

論文ポスター賞 授与 内田 孝紀(九州大学応用力学研究所)他3名

論文ポスター賞 授与 相良 啓太(東海大学)他3名

論文ポスター賞 授与 平井 滋登(三菱重工業(株))他5名

論文ポスター賞 授与 守屋 智弘(鳥取大学大学院)他4名

13. 会員の動向

入会： 団体会員 7団体 個人会員 63名

退会： 団体会員 7団体 個人会員 46名

なお、3月末日現在の会員数は、団体会員101団体 個人会員505名(内 学生会員27名)

平成14年度事業報告

2002年度（平成14年度）事業報告

自：2002年4月1日至：2003年3月31日

1. 理事会、総会の開催

5月11日理事会、総会を開催し、平成13年度事業報告、同収支決算報告、平成14年度事業計画、同収支予算計画及び役員改選の5つの議案を採択した。

6月27日緊急理事会を開催し、平成14年度追加4事業計画及び役員役割分担の議案を採択した。また、国際会議開催議案については不採択とした。

2. 企画・編集委員会の開催

5月11日、7月30日、9月20日、12月6日、2月14日、企画・編集委員会を開催し、協会誌の編集方針、第24回風力エネルギー利用シンポジウムの実施及び協会の運営等について検討を行った。

3. 協会誌の発行

- ・第26巻第1号 2002年4月発行 1100部
- ・第26巻第2号 2002年6月発行 1100部
- ・第26巻第3号 2002年9月発行 1100部
- ・第26巻第4号 2002年12月発行 1100部

4. シンポジウム兼研究発表会の開催

第24回風力エネルギー利用シンポジウム

協賛：日本風力発電協会、風力発電事業者懇話会

後援：文部科学省、経済産業省、新エネルギー・産業技術総合開発機構、新エネルギー財団、ターボ機械協会、日本太陽エネルギー学会、風力発電推進市町村全国協議会、エネルギー変換懇話会

11月20日・21日科学技術館／東京（参加 369名）

5. 風力関連学会の国際会議への協力

2002 Global Windpower Conference and Exhibition 4月2～5日 パリ・フランス

World Renewable Energy Congress 7月1～5日 ケルン・ドイツ

1st World Wind Energy Conference 7月2～6日 ベルリン・ドイツ

自然エネルギーを用いた海水淡水化に関するフォーラム（後援）

10月15～16日 コロール・パラオ

自然エネルギーを用いた海水淡水化に関するフォーラムin佐賀（後援）

3月14～15日 佐賀市、伊万里市

6. 見学会の実施

- ・青森県・下北地区風力発電所、(財)環境科学技術研究所見学 9月26～27日
(共催：日本太陽エネルギー学会)
- ・東北電力本店、アースクリーン東北(ソーラーリサーチオフィス) 11月9日
(合同：日本太陽エネルギー学会)

7. 風力利用事業に関する普及啓発活動

洋上風力発電最新情報について特別講演会開催5月21日東京

8. 日本太陽エネルギー学会との合同研究発表会

11月7～8日仙台

9. 国内の風力関連事業への支援

- ・御前崎さわやか風車シンポジウム6月1日(クリーンエネルギー・フォーラム：後援)
 - ・風力エネルギー利用総合セミナー6月(足利工業大学総合研究センター：後援)
 - ・エコランド2002 6月～11月(山形県立川町：後援)
- シンポジウム：
- ・風力発電タービンの最適立地探査法7月31日(日本気象協会他：後援)
 - ・日本エネルギー学会80周年記念大会8月1～2日(日本エネルギー学会：協賛)
 - ・第8回流れと遊ぶアイデアコンテスト8月24日(神奈川工科大学：協賛)
 - ・講習会「環境共生型地域づくりと新エネルギー利用」10月11日(日本機械学会中国・四国支部：共催)
 - ・第9回全国風サミット10月16～18日(宮崎県北方町：共催)
 - ・自然エネルギー利用総合セミナー10月25～26日
(足利工業大学総合研究センター：後援)
 - ・シンポジウム及び物づくり教室10月27～28日(九州支部、台北科技大学：支援)
- 座談会「分散型エネルギー源の開発」11月25日(日本機械学会：協賛)
- 講習会「風力発電：技術と事業の動向」3月14日(ターボ機械協会：協賛)

10. EWEA(欧州風力エネルギー協会)

日本支部として関連事業への協力(会員数37名 3月末日現在)

11. 協会表彰制度の実施

- ・論文ポスター賞授与 石原 孟(東京大学大学院)他3名
- ・論文ポスター賞授与 石川 尚(名古屋大学大学院)他5名
- ・論文ポスター賞授与 谷川 亮太(CRCソリューションズ)他5名
- ・論文ポスター賞授与 相良 啓太(東海大学)他4名

・論文ポスター賞授与 安斎 歩（足利工業大学大学院）他 2 名

1 2. 会員の動向

団体会員 9 団体

個人会員 6 1 名 の入会

なお、3 月末日現在の会員数は団体会員 1 0 5 団体、個人会員 5 2 6 名（うち学生会員 3 7 名）

1 3. 支部活動

九州支部「シンポジウム及びものづくり教室（小中高生）」 事業費補助（台北科技大学）

関西支部講習会「環境共生型地域づくりと新エネルギー利用」 事業費補助（鳥取大学）

平成 13 年度事業報告

2001 年度（平成 13 年度）事業報告

自：2001 年 4 月 1 日 至：2002 年 3 月 31 日

1. 理事会、総会の開催

5 月 12 日理事会、総会を開催し、平成 12 年度事業報告、同収支決算報告、平成 13 年度事業計画、同収支予算計画の 4 つの議案を採択した。

2. 企画・編集委員会の開催

5 月 12 日、7 月 25 日、10 月 1 日、1 月 10 日、3 月 26 日、企画・編集委員会を開催し、協会誌の編集方針、第 23 回風力エネルギー利用シンポジウムの実施及び協会の運営等について検討を行った。

3. 協会誌の発行

- ・第 25 巻 第 1 号 2001 年 4 月発行 1000 部
- ・第 25 巻 第 2 号 2001 年 6 月発行 1000 部
- ・第 25 巻 第 3 号 2001 年 9 月発行 1000 部
- ・第 25 巻 第 4 号 2001 年 12 月発行 1000 部

4. シンポジウム兼研究発表会の開催

第 23 回風力エネルギー利用シンポジウム

協賛：（財）日本科学技術振興財団

後援：文部科学省、新エネルギー・産業技術開発機構、新エネルギー財団、ターボ機械協会、

日本太陽エネルギー学会、風力発電推進市町村全国協議会、エネルギー変換懇話会

2001 年 11 月 21 日・22 日

科学技術館／東京 （参加 303 名）

5. 風力関連学会の国際会議への協力

Wind Power 2001	2001 年 6 月	ワシントン・アメリカ
European Wind Energy Conference & Exhibition	2001 年 7 月	コペンハーゲン・デンマーク
風工学に関する第 5 回アジア太平洋地区国際会議	2001 年 10 月	京都・日本
ISES 2001 Solar World Congress	2001 年 11～12 月	アデレード・オーストラリア

6. 見学会の実施

- ・福島県天栄村風力発電施設見学 2001 年 9 月 7 日
- ・秋田県仁賀保高原風力発電所見学 2001 年 10 月 11 日・12 日
- ・香川県サンポート高松太陽光発電施設見学 2001 年 11 月 10 日

7. 風力利用事業に関する普及啓発活動 ・北海道 えりも町・苫前町

- ・岩手県 葛巻町
- ・山形県 立川町
- ・東京都 八丈町 神津村
- ・福井県 福井市
- ・三重県 久居市
- ・山口県 徳山市
- ・愛媛県 肱川町
- ・福島県 天栄村 etc.

8. 風力関連の教育啓発活動

おもしろゼミナール「遊びながら学ぶ風車発電」 8 月 17 日 三重大学・久居市
風の学校 環境まちづくり・地域学講座 11 月 22 日 山形県立川町

9. 日本太陽エネルギー学会との合同研究発表会

11 月 8～10 日 於 香川県志度町 徳島文理大学

10. 風力関連事業への支援

第8回全国風サミット 9月5～7日（福島県天栄村：共催）

自然エネルギー館・セミナー 10月25～26日（兵庫県北淡町：共催）

エコランド2001 6月～11月（山形県立川町：後援）

風力発電ビジネス研究セミナー2001 4月～9月（地球文明リサーチセンター：後援）

風力エネルギー利用総合セミナー 6月（足利工業大学総合研究センター：後援）

自然エネルギー利用総合セミナー 10月（足利工業大学総合研究センター：後援）

新エネルギー・再生可能エネルギー普及利用シンポジウム 3月

（東海大学総合科学技術研究所：後援）

第7回流れと遊ぶアイデアコンテスト 8月（神奈川工科大学：協賛）

「新エネルギー技術開発の現状と将来展望」セミナー 7月～3月（日本エネルギー学会：協賛）

European Wind Energy Conference & Exhibition 視察 7月（近畿日本ツーリスト：協賛）

風力発電展示会出席及び欧州風力発電技術調査 9月（近畿日本ツーリスト：協賛）

4回分散型発電システム & コージェネレーション総合展 12月（IPEX実行委員会：協賛）

11. EWEA（欧州風力エネルギー協会）

日本支部として関連事業への協力（会員数40名 2002年3月31日現在）

12. 協会表彰制度の実施

- ・論文ポスター賞 授与 萩原 貴之（東海大学総合科学技術研究所）ほか3名
- ・論文ポスター賞 授与 長谷川 豊（名古屋大学大学院工学研究科）ほか3名
- ・論文ポスター賞 授与 大黒 靖之（足利工業大学大学院）ほか3名
- ・論文ポスター賞 授与 徳山 榮基（那須電機鉄工(株)）ほか2名

13. 会員の動向

団体会員 25団体

個人会員 75名 の入会

なお、3月末日現在の会員数は団体会員104団体、個人会員545名（うち学生会員30名）

14. 支部活動

関西支部の活動再開（10月）